

2026 年度 シラバス

渋川看護専門学校

基礎分野: 科学的思考の基盤

授業科目名		単位 ・ 授業時間	年次
ヒューマンエラーと対策		1単位 20時間	1年次
学科目標			
人間の認知・判断・行動特性に基づくヒューマンエラーの発生要因と安全を保障するための方策を理解するとともに、安全への認識を高める。			
授業の概要			
<p>看護実践の中で対象者の安全を確保する学習は、欠かすことができない重要な基盤となる。臨床現場でリスクをマネジメントする力は、人間の特性や生活の中で起こり得るリスクアセスメントなど、看護を学ぶ以前から養われていく能力であると考えられる。</p> <p>この授業では人間の認知・判断・行動特性に基づくヒューマンエラーの発生要因と違反について学び、危険への認識を高める。(大事故などの事例・集団心理など)</p> <p>看護実践を学ぶ前から、日常生活の中で行われている、ヒューマンエラーや違反に基づく安全を保障するための方策について、実際に行われている対策をもとに理解する。身近な日常生活の中で起こる事故を防ぐため、どのような対策がなされているかを見つけ出し、ヒューマンエラーの観点から分析する。また、その事故のおきやすい状況を人間の特性をベースに考え、整理する。さらに、企業における取り組みを参考に、組織として安全を管理することの意義や方法について理解する。</p> <p>これらの学習を通して、問題がおこるしくみや問題解決に向けた科学的思考力を身につける。</p>			
授業計画			
1	【ヒューマンエラー】 ～人はなぜ間違いをおかすのか～ 人間の認知・判断・行動特性・に基づくヒューマンエラー発生要因と違反について理解する。		講義 演習
2	1) 脳の情報処理 2) 人間の意識水準 大事故・集団心理 3) 行動と問題解決能力		
3	【安全保障の方策】 ヒューマンエラーや違反に基づく安全を保障するための方策を理解する		
4	1) エラーの起きやすい状況 2) 発見の経路 3) 重大な事故にしない工夫		
5	-演習- 日常生活に潜む事故の分析と防止策 日常生活の中で起こる事故を防ぐため、どのような対策がなされているかを見つけ出し、ヒューマンエラーの観点から分析する。また、その事故のおきやすい状況を人間の特性をベースに考え、整理する。		
6	【企業のリスクマネジメント】 企業における取り組みを参考に、組織として安全を管理することの意義や方法について講		講義
7	義する。(従業員の健康管理・事故防止・災害対策・事故報告ルートや責任者など)		
8	組織として安全を管理する意義と方策の学びをもとに、事故の防止に関する看護職者の		工場見学 演習
9	責任と役割について考え、看護を安全に提供するために必要な事故防止策を、組織的・個人的な取り組みの双方から考える。 【関東電化株式会社】		
10	単位認定試験+まとめ		
内容の諸要素			
垂直軸	事故への認識を高く持つ、リスクマネジメントの意義、事故のリスクのアセスメント、危険を予防する環境の調整、事故を予測した行動をとる姿勢		
水平軸	多方面からの視点で物事を思考する姿勢、自己理解、人間の個性、人間の多様性		
参考資料		評価方法	
		単位認定試験	課題レポート 学習態度

基礎分野:科学的思考の基盤

授業科目名		単位・授業時間	年次
情報の組織化と管理		1単位 15時間	1年次
学科目標			
看護への興味・関心に基づき、自ら情報を得るために、情報収集、情報の組織化、情報の管理について方法を理解する。			
授業の概要			
<p>現代社会では、様々な形で情報発信がなされており、生活の中には情報があふれている。臨床現場でも、多くのデータの活用や管理、そのための機器の扱いなどをもとに、医療活動が行われている。必要となる。多量なデータから必要な情報を取得し、適切な活用と意思決定を行うためには、情報を効率的に操作する能力が必要となる。</p> <p>この授業においては、日常的な学習に必要な情報を効率的に管理する方法や、情報収集、情報の組織化、情報の管理にの方法、臨床現場において普及が広がる電子カルテの原理と使用方法の基本を理解し、情報化へ対応し得る能力を養う。また、国勢調査などの例を用いて、情報収集や組織化、管理に関する演習を行う。また、情報をアセスメントし活用していく過程を通して、科学的思考力を養う。</p>			
授業計画			
1	医療における電子化情報の管理 ～医療の情報化に対応するために～ 医療現場における情報の電子化についての基礎知識 電子カルテ、電子化された診断画像の管理（実習オリエンテーション）		講義
2	情報管理の基本となる知識 パソコンを共有する際のマナーと、ウイルス対策の基本知識 インターネットの活用と情報検索・文献検索 医療情報の管理の原則		講義 演習
3	パソコンを用いた情報の組織化と管理 実際にコンピューターを用いて情報の管理やプレゼンテーションの方法など、情報を活用する能力を養う。 －演習－		
4	パソコンの基本操作 文章作成ソフト演習 文章の入力・編集 表・図の挿入 目次の挿入 差し込み文章		
5	表計算ソフト演習 データの入力 編集		
6	グラフ作成		
7	プレゼンテーション作成ソフト演習		
8			
内容の諸要素			
垂直軸	IT機器の利用、情報収集のためのパソコンの活用、情報処理のためのパソコンの活用、外部にアクセスする技術、情報の組織化、情報把握の手段、インターネットを活用した情報収集、インターネットを活用した文献検索、文献検索の方法、個人情報管理の方法、プレゼンテーションの方法、プレゼンテーション技術、電子カルテの特徴、電子カルテの目的		
水平軸	論理的思考、論理的思考の意義、クリティカルシンキング、クリティカルシンキングの意義、興味、関心、好奇心		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 看護情報学		課題レポート 学習態度	

基礎分野:科学的思考の基盤

授業科目名		単位・授業時間	年次
論理的思考と表現		1単位 30時間	1年次
学科目標			
日本語の基本的な知識をもとに、自己の考えを適確かつ効率的に表現できる力を身につける。			
授業の概要			
<p>主張したいことを他人に伝えたり、問題の解決を導くためには、考えや結論を筋道を立てて、十分な証拠や論拠によって正確に説明・実証することが必要となる。特に看護における問題解決のためには、重要な科学的思考能力と考えられる。</p> <p>この授業では、口語と文語の違い、句読点、原稿用紙の使い方など、文章で表現する際の基本的な知識を確認する。また、考えを論理的に書き表すためのレポート、論文の書き方を理解する。そのうえで、自己の考えを他人に伝えるために、適確にかつ効率的に述べる表現力を身につける。</p>			
授業計画			
1	論理的思考		講義 演習
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11	自己の考えを論理的に表現するために レポート作成 レポートとは レポートの書き方 論文作成 論文とは 論文の書き方 -演習-		
12			
13			
14			
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	論理的な文章を書く技術、訴えたい内容を文章で表現する		
水平軸	論理的思考、論理的思考の意義、クリティカルシンキング、クリティカルシンキングの意義		
参考資料		評価方法	
		単位認定試験 学習態度	

基礎分野:人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
自然環境と人間		1単位 15時間	1年次
学科目標			
人間の基本的な生活に影響する、自然環境との相互作用を理解する。			
授業の概要			
<p>自然環境は、絶えず人間に作用し、変化しながら人間の発達や健康に影響を与える。自然環境もまた、人間生活によって影響を受ける。</p> <p>この授業においては、自然環境と相互に影響しあう人間の生活の多様性や健康の概念、健康にはその人の生活が影響することを理解する。また、公害や生態系、食物連鎖、環境破壊などについて学習し、自然との共存を考える。さらに、環境が及ぼす健康障害(アスベスト・じん肺・消毒の被害)や生活習慣病による障害など、健康と自然環境の相互作用と、そこに影響を及ぼす要因について学ぶ。</p>			
授業の概要			
1	自然環境と生物との相互作用(生態系、食物連鎖、環境への適応) ①ヒメギフチョウの保全活動 ②川場村の水辺環境 ③2000年頃から自然災害が多くなったと感じることの検証 ④生物多様性を守ることが大切である ⑤科学的証明がなくても対策を行うこと理由	講義	
2	自然環境と人間の生活の相互作用(自然環境が人間の身体や心にもたらす影響) ①小串硫黄鉱山の地滑り災害 ②群馬の文学に見る災害 ③沼尾川における災害の教訓 ④からっ風と防風林 ⑤からっ風と大火災		
3	自然環境と人間の生活の相互作用(地域の特性に順応した人々の生活) ①江戸、縄文の循環社会学に学ぶ ②「夏の群馬の異常高温」の謎解き ③群馬の「ひょう道」 ④北毛の天気俚語 ⑤北毛の地名考		
4	群馬県、北毛地域の特徴と住民の生活 ①草津白根山の35年ぶりの噴火 ②1,500年前の眠りから覚めた古墳人 ③浅間の噴火と災害 ④天明三年の浅間山の鎌原土石なだれと天明泥流 ⑤尾瀬学校の特色ある取り組みとその意義⑥大禹皇帝碑を訪ねて		
5	環境破壊と公害のメカニズム 日本の公害①～⑤		
6	環境破壊と公害がもたらす生活や健康への影響 ①利根川水系の水質事故 ②飲料水の枯渇と汚濁 ③大間々扇状地藪塚面の湧水の珪藻類 ④ごみの問題考察 ⑤群馬のごみ排出量、一人一日当たり、全国ワースト2位(2014年)		
7	環境破壊と公害 ～北毛地域の場合～ ①西埼玉地震と吾妻の被害分析 ②草津白根火山と品木ダム ③目指すは循環社会型社会、低酸素社会 ④いざというときのために地域防災力を高めよう ⑤災害対策と温暖化対策の共通点		
8	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	自然環境、社会環境、政治経済が人間生活に及ぼす影響、人間の生活は環境からの影響を受ける、環境との相互作用、自然環境と人間の相互作用、自然との共存、人間の生活と環境破壊、環境保護、環境保護への関心、自然を大切に、自然に大切に、自然に感謝する気持ち、リサイクルの方法、リサイクルの意義、土壌・水質・大気汚染、騒音、悪臭、振動、地盤沈下、地球温暖化、地域や文化による健康概念の違い、公害が人間の健康に及ぼす影響、生活様式による健康への影響、自然治癒力と環境の関係		
水平軸	個人の生活の個別性、ライフスタイルの多様性、健康への関心を持つ、健康への価値づけ、自然治癒力、環境が及ぼす価値観の影響		
参考資料		評価方法	
		単位認定試験 学習態度	

基礎分野：人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
ウェルネスライフ I (体力保持・増進)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
自然治癒力を高めることの意義を理解したうえで、望ましい生活を送る方法を、体験を通して理解する。 (食事・スポーツなど)			
授業の概要			
<p>よりよい健康とは、適切な栄養やおいしい食事、快適な睡眠、適度な運動、楽しい経験、規則正しい生活リズム、リラックス、笑いなど、人間が本来備えている自然治癒力を、十分に発揮できる生活を送ることが基本となる。また、自己の健康への関心を持ち、よりよい健康をめざすことが重要である。</p> <p>この授業においては、人間の本来もっている自然治癒力を十分に発揮させる生活とはどのようなことかを学習したうえで、自分にとって望ましい生活とはどのようなものかを考え、実際に体力保持・増進に向けての実践(ヨガ・レクリエーション、ダンス・調理演習、リラクゼーションなどを含む)を行う。</p> <p>〈オムニバス方式〉</p> <p>1. 健康的な生活、自然治癒力を高める生活について講義し、自己の健康への関心を高める。(10時間)</p> <p>2. ヨガ・スポーツの実践を通して、よりよい生活、よりよい健康への関心を高める。(20時間)</p>			
授業計画			
1	1) 自然治癒力について 2) 自然治癒力を高める生活 3) 健康保持増進するための休息・栄養・運動、気分転換活動 4) 1日の生活を振り返ってみよう	講義 演習	
2	1) 眠ることの意義とメカニズム 2) 寝ないことによる影響 3) 自己の睡眠について振り返る		
3	1) こころの健康を考える 2) ストレスの影響 3) 笑いの効果		
4	自然治癒力を高めるリラックス体験で「気持ちいい」を体感しよう。		
5	1) 食事の意義 2) 自己の食生活を振り返る 食生活が及ぼす影響 自然治癒力を高める食生活	講義	
6	健康とヨガ	講義 演習	
7	ヨガの実践①		
8	ヨガの実践②		
9	ヨガの実践③		
10	ヨガの実践④	講義 演習	
11	現代社会における運動やスポーツの意義		
12	ウェルネスライフとスポーツ①		
13	ウェルネスライフとスポーツ②		
14	ウェルネスライフとスポーツ③		
15	ウェルネスライフとスポーツ④		
内容の諸要素			
垂直軸	健康の概念(発達段階に伴う、時代に伴う、日本人の、生活様式に関連した、生活水準に関連した、宗教信念に基づく)、心の健康、健康観、体験に基づく健康観、生活様式による健康への影響、運動が健康に及ぼす影響、健康保持増進するための休息・栄養・運動、気分転換活動、自然治癒力を高めるための食生活、食生活が健康に及ぼす影響、食事の身体的意義、心理的・社会的意義、睡眠のメカニズム、睡眠の意義、笑いの効果、人間のストレス・ストレッサー、ストレッサーとなる要因		
水平軸	豊かな人間性、健康への関心を持つ、健康への価値づけ、自然治癒力		
参考資料		評価方法	
使用テキスト: 系統看護学講座 栄養学 参考図書: 健康科学概論(ヌーベルヒロカワ) 成人看護学 ヘルスプロモーション(ヌーベルヒロカワ) 笑いの免疫学 舟瀬俊介著(花伝社)		課題レポート 学習態度	

基礎分野: 人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
ウェルネスライフⅡ (芸術)		1単位 18時間	2年次
学科目標			
生活の中で自然治癒力を高める事の意義とその方法を体験を通して理解する。 (音楽、芸術を楽しむ、笑いの効用、森林浴など)			
授業の概要			
<p>よりよい健康とは、適切な栄養やおいしい食事、快適な睡眠、適度な運動、楽しい経験、規則正しい生活リズム、リラックス、笑いなど、人間が本来備えている自然治癒力を、十分に発揮できる生活を送ることが基本となる。人間が美的に創造し表現する活動及び産物である芸術は、ゆとりと潤いを実感できるころ豊かな生活、心身共に健康的な生活を実現するために不可欠である。人間にとって「楽しむ」感情は、今後看護の対象者に対しても、生活の中の余暇の存在意義や、その人らしい援助の工夫につなげるための基盤となる。</p> <p>この授業においては、楽しむ、笑うなど、生き生きとした生活を送ることが、自然治癒力を高め、人間を豊かに、人生を有意義にすることを理解し、実際に芸術(陶芸、音楽、写真、絵画、舞台鑑賞、仏教美術鑑賞などから選択)を楽しむという体験を行う。</p> <p>〈オムニバス方式〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術は人間を豊かにし、人生を有意義にするなど、芸術の意義について講義する。 2. 各学生が、それぞれに芸術を体験する。(演習) 			
授業計画			
1	芸術の意義(講義)	講義 美術館見学	講義 演習
2	美術館にて美術鑑賞 (渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館)		
3	-演習-		
4	各自 作品をつくる		
5			
6			
7			
8	発表		
9			
内容の諸要素			
垂直軸	芸術を楽しむ、気分転換活動、笑いの効果		
水平軸	豊かな人間性、健康への関心を持つ、健康への価値づけ、自然治癒力		
参考資料		評価方法	
		課題レポート 学習態度	

基礎分野:人間と生活・社会の理解

授業科目名	単位・授業時間	年次
生物学	1単位 20時間	1年次
学科目標		
人間や生命、疾病を理解するための基盤となる、生物にかかわる現象の基本知識を理解する。		
授業の概要		
<p>科学が目覚ましく進歩する現代社会のなか、特に医療・看護を学ぶ者にとって、生命科学および自然科学の知識は重要な基盤となる。</p> <p>この授業では、多様な生き物について、その共通性と特異性、生命体の構造と様々な生命現象、生命の基本となる細胞とその活動などの基本的な事項などを広く理解する。また、これらの生物と環境との関わり、生物と人間との関わりについて考える。</p>		
授業計画		
1	生物とは、生物の特徴、生物の進化	講義
2	細胞の構造と機能 細胞の構造・細胞の化学成分・細胞膜の輸送・細菌とウイルス	
3	生体内の物質の流れ・エネルギー 生体内の化学反応・同化作用・異化作用	
4	細胞の増殖・生殖と発生 配偶子・減数分裂・受精・発生の機序・発生の仕組み	
5	遺伝情報 遺伝の法則・染色体・核酸・蛋白質合成・変異・細胞の老化・遺伝子組み換え	
6	恒常性 淡水魚と海水魚・変温動物と恒温動物・無脊椎動物や植物のホルモン	
7	刺激と行動 生物の電気発生・情報伝達(原子生物とヒトの違い)・鞭毛運動・繊毛運動 行動(走性・本能行動・個体間の情報伝達・学習等)	
8	生物と環境との関わり	
9	生物の集団・動物の社会・生態系・生態系の物質循環・地球環境・バイオテクノロジー	
10	単位認定試験+まとめ	
内容の諸要素		
垂直軸	環境との相互作用、自然環境と生物との相互作用、自然環境の特徴に適応していく生物の変化、自然との共存、環境への適応、環境の変化への適応、生態系、食物連鎖、環境保護、環境保護への関心、自然を大切にする、自然を大切にする態度	
水平軸	個体の成長・発達、個体の老化、人間の個別性、人間の独自性、基本的欲求、自然治癒力、生命の尊重	
参考資料		評価方法
使用テキスト：系統看護学講座 生物学		単位認定試験 学習態度

基礎分野:人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
社会学		1単位 20時間	1年次
学科目標			
社会のしくみや情勢、社会の中でその人らしく生活をおくるための基盤となる知識を学ぶとともに、社会の中で生き、尊重される自己を理解する。			
授業の概要			
<p>現代の社会が大きく変化する中で、看護職は社会に起きる課題を広く捉え、その中で生きる人々の健康と生活を支援する必要がある。人間は、社会生活の中で成長し、変化し、相互に影響し合っている。社会というしくみやその中でどのように影響し合っているかを知ることは、看護の対象となる人間と人間の生活を理解することにつながる。</p> <p>この授業では、現代社会の情勢や基本となる社会の仕組みについて理解する。基盤となる家族という集団から地域社会、世界という大きな視点までとらえて考える。人が連帯的社会生活の中で人間らしい生活を送るための倫理、道徳や法の意義を学ぶと同時に、社会の中で生きる自己への理解を深める。また、これらの学習を通して人権の重要性を理解する。</p>			
授業計画			
1	社会の意味・社会の中の人間・個人と集団と社会	講義 グループワーク	
2	伝統社会と近代社会		
3	現代社会の特徴と社会変動		
4	現代の生活と個人・個人の行動		
5	個人・日常生活・個人と他者との尊重・安全と安寧が保障される社会		
6	家族		
7	集団・組織		
8	地域社会		
9	現代の世界と未来		
10	まとめ レポート学習		
内容の諸要素			
垂直軸	社会的規範としての憲法・法律、社会環境が人間に及ぼす影響、社会環境が人間の成長発達に及ぼす影響、社会環境が人間生活に及ぼす影響、人間関係		
水平軸	尊厳を持って生きる存在、人間の独自性・個別性、自己尊重、生命の尊重、人間の尊重、唯一の存在として対象を尊重する、人間の尊厳に価値を置く、個人の尊重、パーソナリティの尊重、基本的人権、アドボカシー、ノーマライゼーション、誠実さをもつ、人を思いやる態度、倫理とは、全人的存在の人間、個のニードを持つ存在、基本的欲求、成長し続ける存在、ライフスタイルの多様性、コミュニティの中での役割		
参考資料		評価方法	
系統看護学講座 基礎分野 社会学		学習態度 レポート	

基礎分野: 人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
多様な文化の理解		1単位 20時間	1年次
学科目標			
さまざまな文化や社会の中で経験を通して変化し続ける全人的存在である人間を理解する。			
授業の概要			
<p>日本の文化や宗教観、気候や風土などに影響される価値観を学習し、人間の生活や健康の概念、生き方について考える。日本各地や世界の文化、異なる価値観を学ぶことにより、人間の多様な価値観とそれに基づく生活や生き方があることを理解し、国際化へ対応し得る能力の基盤を養う。自分とは異なる価値観に触れることで、あらためて自己の文化や価値観の特徴についての理解を深める。また、価値観は異なっても、人類に共通する普遍的なものがあることの認識を高める。多様な文化を背景とする生命観には、それぞれ固有の特徴がある。看護師として医療現場における患者への接し方について、その根底に必要なものは人類に普遍する生命尊重の認識である。文化を超えて共有する生命観への知識を新たな視点から学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界の文化や宗教観、気候や風土などに影響される価値観や生き方について考える。 2. 世界の生活と文化・仏教美術の解説により、多様な価値観と、自己の文化と生活の特徴への理解を深める。 3. 各文化の背景により相違する生命観の特徴を通じて、人類に普遍する生命のあり方を学ぶ。 			
授業計画			
1	世界の概要	日本を知る	講義 グループワーク ディベート
2	世界の宗教	世界の教育と仕事	
3	日本語	思考の差異	
4	外国人と話す		
5	世界の保健医療制度	外国人看護師・介護士	
6	グループで調査	ディベート	
7	多様な文化		
8	まとめ		
9	宗教と倫理	～座禅～	講義 演習
10			
内容の諸要素			
垂直軸	日本の文化、生活様式、日本人の習慣(食事・排泄・清潔等)、生活行動(食事・排泄・清潔等)に対する日本人の意識、人間の生活は環境からの影響を受ける、社会環境が人間生活に及ぼす影響		
水平軸	個人の価値観の個別性、人間の多様性、価値観の多様性、ライフスタイルの多様性、人間にとっての宗教、日本人の宗教観、祖霊信仰、環境が及ぼす価値観への影響、伝統・風習・歴史が及ぼす価値観への影響、死生観、人々への関心、自分とは違う価値観を認める、価値の多様性を認める		
参考資料		評価方法	
使用テキスト：系統看護学講座 文化人類学 参考資料：日本人の生活と看護 坂田三允編集 (中央法規) 生命論を問いなおす 森岡正博 (ちくま新書)		単位認定試験 課題レポート 学習態度	

基礎分野: 人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
英語		1単位 20時間	1年次
学科目標			
英語を通じて異文化に触れ、自己・他者の理解を深める。			
授業の概要			
北毛地域の産業には、外国からの労働者も多くかかわっているため、医療の場で外国人と接する機会がある。看護の場で応用可能な医療英語や関わりの基本となる英語について学び、医療の国際化に対応し得る能力を養う。また、英語のフレーズや会話の特徴、英語を通して異文化を知ることにより、他者を尊重する態度を養うとともに、自己への理解を深める。			
授業計画			
1	外来患者への対応の時の英語表現	講義 演習	
2			
3	入院患者への対応の時の英語表現		
4			
5	手術時の患者への英語表現 術後ケアに関する英語表現		
6			
7			
8	退院時の説明表現		
9	外来受付時の患者への対応表現		
10	単位認定試験+まとめ		
内容の諸要素			
垂直軸	北毛地域(産業、文化、生活様式、観光地としての特性)		
水平軸	多国籍の人を理解するための語学、他から学ぶ姿勢		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： クリスティーンのやさしい看護英語		単位認定試験	学習態度

授業科目名		単位・授業時間	年次
人間関係論		1単位 30時間	1年次
学科目標			
多様な背景や価値観をもつ人間同士のかかわりと、援助的役割を実現するための人間関係を理解する。			
授業の概要			
<p>看護の場において、つねに人と人との関係性のあり方が問題になる。ケアや援助の質に関与する要因はさまざまであるが、中でも人間関係は最も重要な要素の一つである。人間関係は日常的な経験であるが、あらためて「人間関係とは何か」「援助的関係とはなにか」を考える機会とする。また、この学習を通して、自己の理解を深め、他者を敬う心を養う。</p> <p><オムニバス方式></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間関係とは何かを考え、人との関わり、コミュニケーション力を高める。家族関係や社会関係、職場の人間関係などがどのように発展し影響し合っているかを理解する。 2. 人との関わりの基本となる礼儀作法や気持ちの良い言葉遣いなどの接遇を身につける。 3. 人間関係形成において役立つカウンセリングの理論、過程、方法を学ぶ。 			
授業計画			
1	【接遇】 人との関わりの基本となる礼儀作法や気持ちの良い言葉遣いなどの接遇を身につける。 看護はサービス業であり、接遇のあり方が、その施設の質の高さを左右することを理解する。 1)挨拶・第一印象：挨拶の重要性を理解し、実践できる。	講義 演習	
2	2)態度：動作・物の受け渡し方など		
3	3)言葉遣い：話を伝えること・話を聞くこと 敬語・やさしい表現方法・気をつける一言・社会人としての上司との応対		
4	4)来客応対・電話応対：ご案内・座っていただく位置・電話取り次ぎ 不在時の応対・信頼を生むコミュニケーション		
5	－演習－ 挨拶、敬語、お辞儀、身だしなみ等		
6	【人間関係】 人間関係とは：関係の中で育ち生きる人間 人間とは何か 援助とは何か 自己理解と他者理解：自己概念 自己開示とフィードバック	講義 演習	
7	自己概念と気づき 人間性心理学におけるアウェアネス概念 未完了な事柄への焦点化		
8	自己の性格傾向とコミュニケーション傾向 交流分析におけるエゴグラムとやり取り分析		
9	対人コミュニケーション コミュニケーションの形態とパターン 非言語的コミュニケーションの意義		
10	対人コミュニケーション時の基本姿勢と態度 マインドフルネスと呼吸合わせ ニューカウンセリングにおけるコンタクト アサーション		
11	【カウンセリング】 カウンセリングとは何か 人間性心理学の思想 ロジャースのカウンセリング論 家族システム論		
12	－演習－ カウンセリング技術：ディープリスニング 家族造形法	演習	
13	－演習－ カウンセリング技術：ゲシュタルト療法における気づきのトレーニング		
14	振り返りとまとめ		
内容の諸要素			
垂直軸	社会的葛藤状態、心理的不安状態、人間の不満と葛藤、他者との関係が健康に及ぼす影響、人間のストレス・ストレッサー、家族関係によるストレス、住環境が対人関係に及ぼす影響、人間関係、人間関係の理解、個人を取り巻く人間との関係、家族関係、家族の中の・友人との・学校における・職場における・コミュニティにおける人間関係、家族とは、家族の機能、家族の役割の変化、世帯の変化、対人知覚、家族理論		
水平軸	コミュニティの中での役割、役割を有する存在としての人間、人間の社会における役割、人間の役割、学校・職場・自治会・コミュニティにおける個人の役割、人間の尊重		
参考資料		評価方法	
使用テキスト：系統看護学講座 人間関係論		演習 学習態度	

基礎分野: 人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
人間のこころと行動 I		1単位 15時間	1年次
学科目標			
全人的存在としての人間を理解するために、成長発達し続ける人間のこころと行動を理解する。			
授業の概要			
心理学は、人間の行動の法則性に関する科学である。心理学の基礎である、知覚 欲求 思考 学習 人格について学習する。さらに、錯覚 記憶 学習 集団心理 性格検査 知能検査について学習し、心理学の知見が医療・看護の場面でどのように関わっているかを理解する			
授業計画			
1	心理学とはなにか、心理学の歴史、現代心理学の3つの潮流、心理学の研究手法(心理検査を行ってみる)	講義 演習	
2	心理学の研究手法		
3	パーソナリティについて(クレッチマーの類型論 特性論)		
4	パーソナリティ検査(質問紙法 作業検査法 投影法)		
5	ゲシュタルト心理学(幾何学的錯視の実際をホームページを参照しながら考える)		
6	精神分析学(精神分析学の成立 現代的意味 フロイトとユング アドラー)		
7	夢の分析(夢の分析にいたる歴史 夢分析の実際 意識と無意識 自我の防衛機制)		
8	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	生活者としての人間、社会環境が人間の成長発達に及ぼす影響、日本の文化、生活様式、人間関係、人間関係の理解、個人を取り巻く人間との関係、家族関係、家族の中の・友人との・学校における・職場における・コミュニティにおける人間関係、ストレスとなる要因、家族とは、家族の機能、家族の役割の変化、世帯の変化		
水平軸	人間のライフサイクル、情緒の発達、認知機能の発達、社会性の発達、パーソナリティの確立、ジェンダー、成長発達過程、発達心理、発達課題、人間の独自性・個別性、個人の価値観の個別性、ニードの個別性・多様性、価値観の多様性、人生観、豊かな人間性、人間にとっての教育、趣味・嗜好、基本的欲求、平和を望むニード、愛情のニード、コミュニティの中での役割、役割を有する存在としての人間、人間の社会における役割、人間の役割、学校・職場・自治会・コミュニティにおける個人の役割、人間の尊重、集団心理		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 心理学		単位認定試験 学習態度	

基礎分野: 人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
人間のこころと行動 II		1単位 15時間	1年次
学科目標			
全人的存在としての人間を理解するために、成長発達し続ける人間のこころと行動を理解する。			
授業の概要			
人間は様々な側面を持っており、看護を行う際には個人を全人的存在としてとらえる必要がある。ここではその心や精神といわれる側面の特徴について理解する。人間の心理や行動の基礎にある原理を学び、人間の心理的発達をライフサイクルに沿って乳幼児から老年期に至る重要な問題について考える。また、人間のこころの発達に影響する様々な機能や、こころに作用する環境、価値観、人間関係などについて考える。			
授業計画			
1	発達心理 発達とは 発達の特質(遺伝と環境)	講義 演習	
2	発達段階の特徴(遺伝と環境 成熟と学習)		
3	ピアジェの発達研究について (ピアジェの発達理論の現代的意味 認知機能・知的機能の発達)		
4	社会性の発達(社会心理学 集団の心理 パーソナルスペース)		
5	人間関係における問題(説得的コミュニケーション)		
6	知能の発達について(知能の研究 知能テストの開発)		
7	看護するということ(感情労働としての看護)		
8	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	社会生活が人間生活に及ぼす影響、人間関係の理解、外界からの情報を得て認知・判断する機能、自己尊重理論、アンドラゴジー成人教育理論、社会学的学習理論		
水平軸	認知機能の発達、社会性の発達、パーソナリティの発達、成長発達過程、人間の発達心理、成長発達課題に応じた価値観の変化、成長発達段階に応じ必要な教育との連携、人間の独自性、人間の個別性、人間の多様性、人生観、豊かな人間性、人間にとっての教育、役割を有する存在としての人間、人間の尊重、成長し続ける存在として尊重する、人々への関心、個人の持っている力を生かす姿勢、個々人の独自性をとらえようとする、その人の経験に基づく価値観を尊重する		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 心理学		単位認定試験 学習態度	

基礎分野: 人間と生活・社会の理解

授業科目名		単位・授業時間	年次
教育学		1単位 15時間	1年次
学科目標			
人は成長発達する存在であることを前提に、人間にとっての教育の意義を理解する			
授業の概要			
人間が人間として成長発達していく事と教育の関係を学習し、教育の見方や考え方の基礎知識を理解する。これらをもとに、看護の現場における「教育」「学習支援」の実際とその在り方について考える手がかりとする また、生涯学習の理念に基づき、専門職として生涯にわたって学習するという学習観の形成を目的とする			
1	教育とは何か 教育学を学ぶ意義	現代社会における家庭と教育の問題と課題	講義 演習
2	学習に必要な情報の整理 ノートやメモをとることは自己の情報整理として重要であることを認識し、講義中のノートの取り方や、実際の現場でのメモの取り方のポイントを学ぶ		
3	生涯学習の概念と社会教育		
4	ライフサイクルと学習 (成長発達と教育)		
5	成人学習の理論と方法 生涯発達からみた高齢者		
6	ポートフォリオ学習の意義		
7	専門職の生涯学習(自分自身の学習観)		
8	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	社会生活が人間生活に及ぼす影響、人間関係の理解、外界からの情報を得て認知・判断する機能、自己尊重理論、アンドラゴジー成人教育理論、社会学的学習理論		
水平軸	認知機能の発達、社会の発達性、パーソナリティの発達、成長発達過程、人間の発達心理、成長発達課題に応じた価値観の変化、成長発達段階に応じた必要な教育との連携、人間の独自性、人間の個別性、人間の多様性、人生観、豊かな人間性、人間にとっての教育、役割を有する存在としての人間、人間の尊重、成長し続ける存在として尊重する、人々への関心、個人の持っている力を生かす姿勢、個々人の独自性をとらえようとする、その人の経験に基づく価値観		
参考資料		評価方法	
		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野:人体の構造と機能

授業科目名		単位・授業時間	年次
人体の構造と機能Ⅰ(生化学・栄養学)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
有機的に協調しあう人体の構造と機能について理解する。【生化学・栄養】			
授業の概要			
<p>人体を構成する様々な構成単位から器官系まで、構造と機能を系統的に学習する。また、これらの人体の正常な構造と機能に関する基礎的知識を統合し、有機的に協調しあう変化していることを理解する。生体を構成する物質やその代謝、恒常性の維持について、物質レベルの反応と、食事として摂取された物質の働きの双方から理解する。</p>			
授業計画			
1	有機的に協調しあう人体 1. 生化学 細胞の構造と機能	講義	
2	糖とその代謝		
3	脂質とその代謝		
4	タンパク質とその代謝		
5	核酸とその代謝・遺伝		
6	酸素・補酵素・ビタミン		
7	ホルモン		
8	消化と吸収		
9	血液		
10	補足・まとめ		
11	2. 栄養学 栄養と栄養素の分類	講義 演習	
12	栄養状態のアセスメントと評価		
13	食品成分と食事摂取基準(食品成分エネルギーと食事摂取基準)		
14	ライフステージと栄養(人生各期における健康生活と栄養)		
15	健康づくりと食品・食事・食生活・食育基本法		
単位認定試験			外部講師
内容の諸要素			
垂直軸	身体を構成する単位、身体を構成する物質、外界の環境変化の中で恒常性を維持する機能、物質代謝、ホメオスタシス、必要な栄養素、適切な水分量、適切な栄養所要量、必要な栄養素を含む食品、活動状況にあわせた食事内容、必要な栄養素を含む食品、一日の生活の中での食事配分		
水平軸	自然治癒力、個体の成長・発達、個体の老化、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ、発達段階に応じた栄養所要量・水分量		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 生化学 系統看護学高座 栄養学		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野:人体の構造と機能

授業科目名		単位・授業時間	年次
人体の構造と機能 II (個体の発生と調整)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
有機的に協調しあう人体の構造と機能について理解する。【外界の情報を認知し協調する機能、生体を維持し種を保存する機能、体内の物質を運搬する機能(個体の発生と調整)】			
授業の概要			
人体を構成する様々な構成単位から器官系まで、構造と機能を系統的に学習する。また、これらの人体の正常な構造と機能に関する基礎的知識を統合し、有機的に協調しあって変化していることを理解する。			
授業計画			
1	1. 人体の基礎知識(細胞から人体の部位まで) 細胞小器官・細胞・組織(上皮組織・結合・支持組織・筋組織・神経組織)・器官	講義	
2	体内の膜 人体の構成		
3	2. 人体の基礎知識 生体膜・体液・ろ過・浸透・拡散・受動輸送・能動輸送		
4	膜電位・活動電位・シグナル伝達機構		
5	3. 個体の発生から老化・性 ・細胞の構造、細胞分裂・増殖、細胞の老化・アポトーシス		
6	・個体発生・遺伝子・染色体・減数分裂 ・核酸の構造と種類・コピー・遺伝		
	・受精と胎児の発生・性の決定・成長と老化		
7	4. 骨と筋の生理		
8	5. 消化と吸収の生理		
9			
10	6. 排泄の生理		
11			
12	7. 神経と感覚の生理		
13			
14	8. ホメオスタシス 水と電解質、水分調節／酸塩基機構		
15	自律神経による調整／ホルモンによる調整／体熱産生と体温調節		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	人体の構造、身体を構成する単位、身体を構成する物質、細胞の増殖、細胞の老化、人体の機能、外界の環境変化の中で恒常性を維持する機能、生体を維持し種を保存する機能、体内の物質を運搬する機能、体内の血液の量や成分を適切に維持する機能、物質代謝、ストレスに適応しようとする機能、ホメオスタシス、種の保存、出血凝固時間、出血凝固時間に影響する因子		
水平軸	自然治癒力、個体の成長・発達、個体の老化、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 解剖生理学		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野:人体の構造と機能

授業科目名		単位・授業時間	年次
人体の構造と機能 III (呼吸・循環)		1単位 25時間	1年次
学科目標			
有機的に協調しあう人体の構造と機能について理解する。 【酸素を運ぶための血液、その酸素を取り込んで全身に循環する機能(呼吸・循環)】			
授業の概要			
人体を構成する様々な構成単位から器官系まで、構造と機能を系統的に学習する。また、これらの人体の正常な構造と機能に関する基礎的知識を統合し、有機的に協調しあって変化していることを理解する。			
授業計画			講師
1	酸素を取り込んで全身に循環する機能:呼吸器系	講義	講義
2	・呼吸器の構造		
3	・呼吸器の機能 ・呼吸の生理学:呼吸運動・肺の機能・呼吸の調節・発声 ・酸塩基機構(肺)		
4	血液の組成と機能	講義	
5	・血液とは 血液の成分, 血漿と血清, ヘマトクリット, 赤血球の形態・数, ヘモグロビン 赤血球の新生と崩壊, ABO式, 血液型, 血液の凝固, トロンビンの形成 フィブリンの形成, 血小板, 抗凝血物質		
6	・血液のpH ・組織液・リンパ		
7			
8	酸素を取り込んで全身に循環する機能:循環器系		
9	・循環器系の構造:心臓・血管・リンパ管・肺体循環・胎児循環・門脈系 ・循環器系の機能:拍出機能・心筋の特徴・刺激伝導系・血圧調節・血流調節・心電図 ・心臓の自律神経支配		
10	・循環系の血流調節:自律神経や液性調節など		
11	・レニン・アンギオテンシンと血圧		
12			
13	単位認定試験(1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	人体の構造、人体の機能、酸素を取り込んで全身に循環する機能、呼吸の生理、循環の生理、喀痰の性状、身体の水分を一定に保つ機能、栄養素を取り込み消化・吸収する機能、生体維持に必要な物質を活用や排泄に可能な形に変換する機能、体内の不要な物質を体外に排出する機能、薬物・アルコール、排尿・排便の排泄の仕組み、唾液の働き、口腔内の自浄作用、基礎代謝、咀嚼・嚥下・消化・吸収の仕組み、摂食動作の仕組み、正常な尿便の量や性状・頻度		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 解剖生理学 系統看護学講座 循環器 系統看護学講座 血液・造血器		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野: 人体の構造と機能

授業科目名	単位・授業時間	年次
人体の構造と機能Ⅳ(骨・筋・脳神経・感覚・生殖)	1単位 30時間	1年次
学科目標		
有機的に協調しあう人体の構造と機能について理解する。【バランスを保ちながら自分の意志で身体を動かす機能(骨・筋)】【外界からの情報を得て認知判断する機能(脳神経・感覚)】【生体を維持し種を保存する機能(生殖)】		
授業の概要		
人体を構成する様々な構成単位から器官系まで、構造と機能を系統的に学習する。また、これらの人体の正常な構造と機能に関する基礎的知識を統合し、有機的に協調しあって変化していることを理解する。		
授業計画		
1	1. 身体を支え動かす機能:骨格系 (4時間) ・骨の基本構造:構造・骨の形状による分類・連結・関節 ・骨格(頭部・体幹・上肢・下肢)	講義
2	・骨のはたらき:骨の吸収と代謝・骨代謝	
3	2. 身体を支え動かす機能:筋系 (4時間) ・筋の基本構造:筋の起始と停止・筋の形状、名称、協力筋と拮抗筋、筋の補助装置、 ・人体各部位の筋(頭部・体幹・上肢・下肢)	
4	・筋の生理:筋収縮のメカニズム(アクチン、ミオシン、活動電位)・筋収縮の化学(筋収縮のエネルギー代謝)・筋収縮の種類(等張性収縮と等尺性収縮・生理的な収縮・異常な収縮)運動と筋の疲労	
5	3. 外界の刺激を認知・判断する機能:脳・神経 (10時間) ・神経系の構造と機能: 構成基本単位(ニューロン)と神経の伝達	講義
6	静止電位・活動電位 中枢神経系と末梢神経系神経、脳脊髄神経と自律神経	
7	神経系の発生と分化・灰白質・神経節・白質・根・髄膜 神経細胞、興奮の伝導・伝達	
8	・中枢神経系 脳と脊髄の構造、機能・高次機能(記憶・睡眠と覚醒・意識レベルなど)	
9	・伝導路 上行性・下行性 ・末梢神経の構造と機能(脳脊髄神経系・自律神経系、反射)	
10	4. 外界の刺激を認知・判断する機能:感覚器 ・平衡聴覚・嗅覚・味覚の構造と機能(2時間)	講義
11	・視覚の構造と機能 (2時間)	講義
12	・皮膚とその付属期の構造と機能(2時間)	講義
13	5. 生体を維持し種を保存する機能 ・男性生殖器の構造と機能	講義
14	・女性生殖器の構造と機能 ・性の決定、ゴナドトロピン、プロラクチン、男性ホルモン、女性ホルモン 卵巣の機能、子宮内膜周期、受精、着床	
15	単位認定試験	
内容の諸要素		
垂直軸	人体の構造、身体を構成する単位、身体を構成する物質、細胞の増殖、細胞の老化、人体の機能、外界の環境変化の中で恒常性を維持する機能、生体を維持し種を保存する機能、体内の物質を運搬する機能、体内の血液の量や成分を適切に維持する機能、物質代謝、ストレスに適応しようとする機能、ホメオスタシス、種の保存、出血凝固時間、出血凝固時間に影響する因子	
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ	
参考資料		評価方法
使用テキスト: 系統看護学講座 解剖生理学 系統看護学講座 女性生殖器 系統看護学講座 感覚器(視覚)は、眼科 系統看護学講座 感覚器(皮膚)は、皮膚 系統看護学講座 感覚器(聴覚)は、耳鼻咽喉		単位認定試験 学習態度

専門基礎分野:人体の構造と機能

授業科目名	単位・授業時間	年次
人体の構造と機能Ⅴ (内分泌・消化・吸収・排泄)	1単位 25時間	1年次
学科目標		
【栄養を取り込み消化吸収する機能(内分泌・消化・吸収・排泄)】		
授業の概要		
人体を構成する様々な構成単位から器官系まで、構造と機能を系統的に学習する。また、これらの人体の正常な構造と機能に関する基礎的知識を統合し、有機的に協調しあつて変化していることを理解する。		
授業計画		
1	内分泌系	講義
2	ホルモンの定義, 神経内分泌, 視床下部ホルモン	
3	下垂体の区分, 下垂体ホルモン, 後葉ホルモン, 下垂体前葉ホルモン	
4	副腎皮質ホルモン, ACTH, 糖質コルチコイド, 電解質コルチコイド, 甲状腺ホルモン 膵島ホルモン, インスリン	
5	消化・吸収機能 : 歯・咀嚼・嚥下	講義
6	・歯を含めた口腔から咽頭・喉頭までの、咀嚼・嚥下に関する機能と構造 ・咀嚼・嚥下のしくみ	
7	消化・吸収機能 : 消化管	講義
8	・消化管の構造(食道・胃・腸) ・消化管の生理学 咀嚼・嚥下・胃・腸の消化作用、小腸・大腸での吸収終末消化 ・消化器に関する酵素と糖質・脂質・蛋白の代謝	
9	消化・吸収機能 : 肝臓・胆のう・膵臓	講義
10	・消化管の構造(肝臓・胆のう・膵臓) ・肝・胆・膵臓の生理学 消化作用、肝臓と胆汁、酵素と糖質・脂質・蛋白の代謝	
11	排泄機能 : 腎臓・排尿路・体液の調節(泌尿器系の構造と機能)	講義
12	1) 腎臓(糸球体・尿細管・レニン-アンギオテンシン系・尿のろ過の仕組み・生理活性物質など) 2) 排尿路(排尿路の構造・尿の貯蔵と排尿: 排尿反射・畜尿反射) 体液の調節: 電解質の異常、酸塩基平衡	
13	単位認定試験(1時間)	
内容の諸要素		
垂直軸	人体の構造、人体の機能、酸素を取り込んで全身に循環する機能、呼吸の生理、循環の生理、喀痰の性状、身体の水分を一定に保つ機能、栄養素を取り込み消化・吸収する機能、生体維持に必要な物質を活用や排泄に可能な形に変換する機能、体内の不要な物質を体外に排出する機能、薬物・アルコール、排尿・排便の排泄の仕組み、唾液の働き、口腔内の自浄作用、基礎代謝、咀嚼・嚥下・消化・吸収の仕組み、摂食動作の仕組み、正常な尿便の量や性状・頻度	
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ	
参考資料		評価方法
使用テキスト : 系統看護学講座 解剖生理学 系統看護学講座 内分泌・代謝 系統看護学講座 腎・泌尿器 系統看護学講座 歯科・口腔		単位認定試験 学習態度

専門基礎分野: 人体の構造と機能

授業科目名		単位・授業時間	年次
人体の構造と機能 VI(免疫防御)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
有機的に協調しあう人体の構造と機能について理解する。【身体を外界の刺激から保護する機能(免疫防御)】			
授業の概要			
<p>人体を構成する様々な構成単位から器官系まで、構造と機能を系統的に学習する。また、これらの人体の正常な構造と機能に関する基礎的知識を統合し、有機的に協調しあう変化していることを理解する。 【身体を外界の刺激から保護する機能(免疫防御)】ここでは、微生物の特徴と、人体に及ぼす影響を理解し、これらと密接に関連している人間の免疫機能を理解する。</p>			
授業計画			
1			
2	1. 感染をもたらす微生物と感染 (14時間)		講義
3	・人体を脅かす微生物の概要		
4	・感染の特徴: 感染の伝播、感染経路、感染予防の基本		
5	・主な感染を起こす微生物		
6	食中毒、法定伝染病、主な感染症、日和見感染症、輸入感染症、プリオン病、院内感染症、後天的免疫不全症		
7	・感染予防の方法(滅菌法・消毒法)		
8	2. 外界の刺激から保護する機能: 免疫系 (10時間)		
9	・自然免疫機構		
10	・獲得免疫機構		
11	抗原抗体反応、免疫グロブリン、体液性免疫、細胞性免疫、アレルギー、移植免疫、移植の拒絶反応、		
12	・免疫・自己免疫疾患、アレルギー疾患などの起こる仕組み		
13	3. 感染予防 (4時間)		講義
14	・免疫機能と予防接種 ・ワクチンの効果 ・予防接種の種類(定期予防接種等)		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	人体の構造、人体の機能、身体を外界の刺激から保護する機能、免疫・防御機構、免疫力、抗原抗体反応、獲得免疫、予防接種の種類、ワクチンの特徴、食中毒の要因、感染の原因となる微生物、疾病予防のための予防接種、アレルギーのメカニズム、感染のアセスメント		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 解剖生理学 系統看護学講座 アレルギー・膠原病感染症 系統看護学講座 微生物		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野: 疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程概論 I (病理)		1単位 15時間	1年次
学科目標			
主な疾患と症状、その回復過程と方法を理解するための病理の基礎知識を学ぶ。			
授業の概要			
病因、疾病の特徴と形態、機能の変化を学ぶ。			
授業計画			講義
1	健康障害と回復過程 主な疾患と症状、回復過程と方法を理解することが、看護にとってどのような意味を持つか。		
2	病理学の領域 細胞・組織とその障害		
3	再生と修復 循環障害		
4	炎症 免疫とアレルギー 感染症		
5	代謝異常 老化と老年病		
6	新生児の病理 先天異常		
7	腫瘍		
8	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	身近な感染症の感染経路、感染のリスクが高い状況、カテーテル挿入に伴う感染のリスク、創傷のある人の感染リスク、疾病の成り立ち、疾病の定義、菌交代化現象、入浴を介する感染症、汚染や感染を起こしやすい身体の部位、疾病の回復、循環不全が起こるメカニズム、疼痛の種類、褥瘡発生のメカニズム		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 病理学		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野: 疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 概論Ⅱ(薬理)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
苦痛の緩和や健康の回復を促進する治療に欠かせない薬物と管理、薬物による生体の反応について基本的な知識を理解する。			
授業の概要			
看護の対象者の抱えている疾病およびそれに対して行われている診断・治療・看護について理解するためには、病気に対する基本的な知識が必要となる。この授業においては、人体に作用する医薬品の特徴とそれに対する生体の反応や経過、原則的な取り扱いについて学ぶ。また、臨床現場で良く使用されている漢方薬についての基礎知識を学習する。			
授業計画			講師
1	総論: 薬物の基礎知識と作用機構 1) 薬物効果と作用の原理(薬物とはなにか; 効果発現のメカニズム) 2) 薬物が体内をめぐる機構(薬物動態: 吸収、分布、代謝、排泄) 3) 医薬品の法規・管理法	講義	
2	中枢神経に作用する薬物 1) 中枢神経系の機能 2) 作用薬物(抗不安薬、催眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬、鎮痛薬、パーキンソン病薬、てんかん治療薬、麻酔薬)		
3	末梢神経に作用する薬物 1) 末梢作用の機構(自律神経系の働き)		
4	2) 作用薬物(アドレナリン作動薬、コリン作動薬)		
5	内分泌器官とホルモンの働き 1) ホルモンの働き(生体機能の潤滑油) 2) 脳下垂体ホルモン(代表的分泌ホルモン)の役割		
6	抗炎症薬と抗アレルギー薬 1) オータコイドと拮抗薬 2) 免疫系とアレルギー作用薬		
7	心血管系に作用する薬物 1) 疾患の分類と作用薬物		
8	2) 高血圧症の作用薬物と抗血液障害の薬物		
9	呼吸器系、消化器系作用薬物		
10	腎臓の仕組みと慢性腎不全の薬物		
11	化学療法薬 1) 抗感染薬物(化学療法薬、抗真菌薬、抗生物質)		
12	2) 悪性腫瘍治療薬(抗がん薬)		
13	漢方薬総論 1) 西洋医学と東洋医学の特徴と薬物について 2) 漢方処方における「証」の特徴と漢方薬		
14	全講義の集約と補修講義		
15	単位認定試験+まとめ		
内容の諸要素			
垂直軸	薬剤の形態・特性、薬物の吸収排泄経路、与薬方法の違いによる薬剤の作用の特性、薬剤の効果と副作用、薬剤を用いる必要性、注射で使用する薬剤の種類、精神に作用する薬剤・使用方法		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 薬理学		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野: 疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 概論Ⅲ (手術・麻酔・食事療法・運動療法・リハビリテーション)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
臨床現場で行われる主な治療や検査について、目的や方法、現在の動向などの概要について理解する。			
授業の概要			
<p>看護の対象者の抱えている疾病およびそれに対して行われている診断・治療・看護について理解するためには、病気に対する基本的な知識が必要となる。</p> <p>この授業においては、さまざまな分野で共通して用いられる主な治療方法と、それに対する生体の反応や経過、原則的な対応について学ぶ。臨床現場で行われる手術療法、運動療法やリハビリテーション、食事療法の概要について理解する。また、対象の健康状態に合わせた治療食の意義と特徴を理解する。</p>			
授業計画			
1	1. 手術療法の目的と適応 インフォームドコンセント		講義
2	外科疾患の診断の進め方(必要な検査とその意義)		
3	2. 手術・麻酔療法(4時間)		講義
4	麻酔の意義と種類 麻酔の安全性と管理上の注意点 麻酔に伴う看護		
5	3. リハビリテーション学の定義と理念		講義 演習
6	リハビリテーション医学の理解とリハビリテーションの実際		
7	4. 運動機能障害に対するリハビリテーションの実際		講義 演習
8	運動機能障害の評価とアセスメントツール(MMT ADL評価 BI ROM)		
9	5. 食事療法 病院食の意義と特徴(一般食・治療食・検査食) NSTの活動		講義 演習
10	食事療法の実際		
11	コントロール食(エネルギー・タンパク質・脂質・ナトリウム・その他の成分) 易消化食・術後食 アレルギー食		
12	栄養補給法(経腸栄養法、静脈栄養法)		
13	食事指導の基礎知識 栄養指導の実際		
14	6. -演習- 調理実習(制限食)		演習
15			
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	非経口的な栄養が必要な健康状態、食事制限によりどのように健康が回復するか、どのような時に食事制限が必要になるか、高脂血症、治療に伴う味覚の変化、高カロリー輸液の意義、無菌食の意義、薬物治療による食事制限、分割食の意義、禁食の意味、健康状態による食事制限の意味、良好な健康状態を維持するための食事、活動状況に合わせた食事内容、高カロリー・高タンパクの食品、栄養補助食品の特徴、食品交換の知識、アレルギーを引き起こす食品、刺激のある・無い食品 侵襲的処置の種類・手術による身体的な影響、術式に応じた術前中後にたどる経過の特徴、麻酔による身体的な影響、リハビリテーション		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 臨床看護総論 系統看護学講座 臨床外科看護総論 系統看護学講座 運動器 別巻 リハビリテーション看護 系統看護学講座 栄養学 別巻 栄養食事療法		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野: 疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 各論 I (呼吸・循環)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
主な疾患と症状、その回復過程と方法を理解する。(呼吸・循環)			
授業の概要			
健康が破たんする機序とその経過についての概要を生体機能に沿って学び、これに対する回復過程と方法を理解する。患者の全身や身体部分の状態を正確かつ総合的に把握し、その障害における最も根源的な問題を明らかにするための基礎的な知識を理解する。			
授業計画			
1	1. 酸素を取り込んで全身に循環する機能の障害: 呼吸器 主な症状と病態生理 異常呼吸(過換気・睡眠時無呼吸症候群含む)・咳嗽・喀痰・咯血・呼吸困難 チアノーゼ・胸痛・吃逆・CO2ナルコーシス		講義
2	主な治療・検査・処置 検査: 血液、喀痰、胸水、生検、呼吸機能、画像診断、内視鏡 治療: 吸入、酸素、手術、ドレナージ、人工呼吸療法、呼吸理学療法、除細動		
3	主な疾患と治療 呼吸器感染症 かぜ・肺炎・インフルエンザ・結核		講義
4	間質性肺疾患 間質性肺炎・サルコイドーシス / アスベスト関連疾患		講義
5	気道疾患 気管支喘息・気管支拡張症・COPD		
6	肺腫瘍		講義
7	その他 疾患 肺血栓塞栓症・気胸・肺性心		講義
8	2. 酸素を取り込んで全身に循環する機能の障害: 循環器 主な症状と病態生理 胸痛・呼吸困難・動悸・ショック・浮腫・チアノーゼ		講義
9	主な治療・検査・処置 検査: 心電図・X線・心エコー・心音図・心臓カテーテル検査・核医学 治療: 薬物療法・心臓カテーテル治療・ペースメーカー・補助循環療法・手術療法		講義
10	主な疾患と治療 虚血性心疾患 狭心症・心筋梗塞		講義
11	心不全・血圧異常 うっ血性心不全・本態性高血圧		講義
12	不整脈 期外収縮、発作性頻拍、心房細動・粗動、心室細動、洞房ブロック、房室ブロック		講義
13	心筋症・心膜炎・弁膜症 僧帽弁・大動脈弁疾患・拡張型心筋症・細菌性心内膜炎		講義
14	脈管疾患 大動脈瘤・大動脈解離・閉塞性動脈硬化症・静脈血栓症・静脈瘤		講義
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	疾病の成り立ち、疾病の定義、疾病の回復、高脂血症、循環不全・呼吸不全のメカニズム、生活習慣・外部環境が要因となって健康に障害を及ぼす機序、酸素療法の意義・種類・効果・欠点、喀痰検査・胸腔穿刺の目的、呼吸機能・循環機能のアセスメント、検査データのアセスメント、薬剤を用いる必要性、注射で使用する薬剤の種類		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 呼吸器 系統看護学講座 循環器		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 各論Ⅱ(消化・吸収・排泄)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
主な疾患と症状、その回復過程と方法を理解する。(消化・吸収・排泄)			
授業の概要			
健康が破たんする機序とその経過についての概要を生体機能に沿って学び、これに対する回復過程と方法を理解する。患者の全身や身体部分の状態を正確かつ総合的に把握し、その障害における最も根源的な問題を明らかにするための基礎的な知識を理解する。			
授業計画			
1	1.消化・吸収機能の障害: (1)口腔(歯)の機能障害 口腔の疾患:う歯、歯肉炎、咀嚼障がい (2)食物の摂取機能とその障害、食物の移送の障害 口腔の疾患:口内炎、顎がん 顎関節症、ヘルペス、舌疾患、唾液分泌低下 症状:開口障害、咀嚼障害、味覚障害		講義 グループワーク 演習
2	演習: 口腔ケア		
3	2.消化・吸収機能の障害: 嚥下機能障害を起こす疾患		講義
4	演習: 基礎的嚥下訓練		講義・演習
5	3.消化・吸収機能の障害:消化管(食道・胃・腸)		
6	食物の消化吸収機能とその障害		
7	排便機能とその障害		
8	疾患:食道の疾患、消化管の炎症と潰瘍、消化管の腫瘍、イレウス (食道がん、胃十二指腸潰瘍、腫瘍、腸炎、痔核、イレウス、大腸がん、大腸ポリープ 虫垂炎、腹膜炎、マロリーワイス症候群等)		講義
9	症状:下痢・便秘、嘔気・嘔吐、吐血・下血、腹痛・腹部膨満		
10	検査:内視鏡、造影 治療:ストーマ、手術、消化器系の薬物		
11	4.消化・吸収機能の障害:肝・胆・膵		
12	代謝機能とその障害		
13	疾患:肝臓・胆嚢・膵臓の炎症、肝硬変、肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍、肝不全 胆汁代謝と排泄の障害、脂肪肝、胆石等		講義 演習
14	症状:黄疸、吐血・腹水、浮腫・肝性脳症、門脈圧亢進症 検査:内視鏡、造影、排泄試験 治療:PTCD、手術、消化器系の薬物		
15	-演習- 腹部の触診 フィジカルアセスメントを含む		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	疾病の成り立ち、疾病の定義、疾病の回復、便秘・下痢・腹部膨満・腹痛・痒みのメカニズム、人工肛門増設の必要性、腹腔穿刺の目的、検便の目的、検査データのアセスメント、嚥下消化機能のアセスメント、薬剤を用いる必要性、注射で使用する薬剤の種類		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 解剖生理学 系統看護学講座 脳・神経 系統看護学講座 消化器 系統看護学講座 歯・口腔		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野:疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 各論Ⅲ (内分泌・代謝・血液造血)		1単位 30時間	1年次
学科目標			
主な疾患と症状、その回復過程と方法を理解する。(内分泌・代謝・血液造血・自己免疫)			
授業の概要			
健康が破たんする機序とその経過についての概要を生体機能に沿って学び、これに対する回復過程と方法を理解する。患者の全身や身体部分の状態を正確かつ総合的に把握し、その障害における最も根源的な問題を明らかにするための基礎的な知識を理解する。			
授業計画			
1	内分泌系の障害:糖尿病 症状:低血糖 高血糖 糖尿病性昏睡 糖尿病性神経障害		講義
2	検査:血液検査 負荷試験等 治療:糖尿病治療薬 血糖降下薬 食事療法など生活療法		
3	内分泌系の障害 疾患:脳下垂体 甲状腺疾患 副甲状腺疾患 副腎の疾患		講義
4	多発性内分泌腫瘍 高尿酸血症と痛風 必須栄養素とエネルギー不足による疾患 メタボリックシンドローム		
5	症状:ショック 意識障害 痙攣 肥満 るい瘦 消化器症状 発熱 低体温 脂質異常症 不定愁訴		
6	検査:画像診断 血液検査 治療:副腎皮質ステロイド 手術療法他		
7	血液・造血機能の障害 (12時間)		講義
8			
9	疾患:貧血、出血傾向と凝固・線溶系の異常、白血球減少症、造血器の腫瘍(白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫)		
10	HIV、紫斑病、血友病、DIC		
11	症状:感染予防、出血傾向、骨髄抑制、脾腫、リンパ節腫脹 検査:血液検査、血液型、生検		
12	治療:化学療法、造血幹細胞移植、輸血、分化誘導療法、分子標的療法、遺伝子治療		
13	免疫機能の障害:自己免疫(4時間) 疾患:膠原病(血管炎・全身性エリトマトーデス・関節リウマチ・全身性硬化症 多発性筋炎・シェーグレン症候群・ベーチェット等)		講義
14	症状:レイノー、関節痛、皮疹、筋痛、腎炎等 検査:免疫学的検査、穿刺、画像検査等 治療:ステロイド療法、非ステロイド療法、免疫吸着法、血しょう交換療法、手術療法等		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	疾病の成り立ち、疾病の定義、疾病の回復、生活習慣が要因となって健康に障害を及ぼす機序、輸血の目的・効果、無菌室の必要性、骨髄穿刺の目的、検査データのアセスメント、薬剤を用いる必要性、注射で使用する薬剤の種類		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 内分泌・代謝 系統看護学講座 血液・造血器 系統看護学講座 アレルギー・膠原病・感染症		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野:疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 各論Ⅳ(脳神経・運動・感覚)		1単位 30時間(34)	1年次
学科学習目標			
主な疾患と症状、その回復過程と方法を理解する。(脳神経・運動・感覚)			
授業の概要			
健康が破たんする機序とその経過についての概要を生体機能に沿って学び、これに対する回復過程と方法を理解する。患者の全身や身体部分の状態を正確かつ総合的に把握し、その障害における最も根源的な問題を明らかにするための基礎的な知識を理解する。 感覚器疾患においては、緊急性のある状態のスクリーニングの知識と最低限の応急処置についても理解する。			
授業計画			
1	身体を支え動かす機能の障害:運動器疾患		講義
2	疾患・診断・症状:骨の腫瘍、骨折、脊椎の外傷と脊椎損傷、創傷の治癒過程、 外傷性ショック、打撲、変形性関節症、脱臼、運動麻痺、椎間板ヘルニア、 各関節・腱の障害、骨粗鬆症からくる二次障害、ROM、歩行障害		
3	治療法:ギプス、装具、牽引		
4	外界の刺激を認知・判断する機能の障害:脳・脊髄		講義
5	疾患:脳血管系の循環障害、頭蓋内圧更新に伴う症状、認知症、 中枢神経系の感染症、頭部の外傷、中枢神経の腫瘍、 二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患		
6	(脳梗塞、脳出血、TIA、脳腫瘍、外傷、水頭症、神経障害、脊髄炎等)		
7	症状:意識障害、頭痛、感覚の異常、運動の異常(麻痺・失調)、けいれん 診断・検査:MRI、VPシャント、脳派、筋電図、意識障害の診察		
8	神経難病		講義
9	(ALS、筋ジストロフィー、重症筋無力症、多発性硬化症、ヤコブ病、パーキンソン、 ギランバレー症候群)		
10	外界の刺激を認知・判断する機能の障害:感覚器		講義
11	1) 耳・鼻 聴覚・平衡覚の障害、嗅覚の障害、突発性難聴、メニエール、鼻出血、中耳炎、 扁桃炎、副鼻腔炎、喉頭がん、声帯ポリープ、喉頭がん、アレルギー性鼻炎、 聴力検査、緊急を要する症状とその対応、重症化する危険性のある症状		
12	2) 目		講義
13	視覚の障害、白内障、網膜はく離、緑内障、結膜炎、ヘルペス、網膜色素変性症、 糖尿病性網膜症、近視、老眼、斜視、色覚異常、流行性結膜炎		
14	コンタクトレンズ、点眼、視力検査、光凝固 緊急を要する症状とその対応、重症化する危険性のある症状		
15	3) 皮膚の障害		講義
16	熱傷、湿疹、皮膚炎(アトピー性皮膚炎、接触性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、光線過敏症) 蕁麻疹 鶏眼(うおのめ) 胼胝		
17	感染性疾患(带状疱疹、蜂窩織炎、白癬、カンジダ症、疥癬) 腫瘍(色素性母斑、ケロイド、有棘細胞がん 基底細胞がん、悪性黒色腫)		
	アレルギー検査、パッチテスト、外用薬		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	疾病の成り立ち、疾病の定義、疾病の回復、生活習慣・外部環境が要因となって健康に障害を及ぼす機序、ギプス・装具・牽引の目的・種類、検査データのアセスメント、薬剤を用いる必要性、注射で使用する薬剤の種類		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 脳・神経 系統看護学講座 運動器 系統看護学講座 眼 系統看護学講座 皮膚 系統看護学講座 耳鼻咽喉		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野: 疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 各論V (腎・生殖)		1単位 20時間	1年次
学科目標			
生殖器に関する主な疾患と症状、その回復過程と方法を理解する。(腎・生殖器)			
授業の概要			
健康が破たんする機序とその経過についての概要を生体機能に沿って学び、これに対する回復過程と方法を理解する。患者の全身や身体部分の状態を正確かつ総合的に把握し、その障害における最も根源的な問題を明らかにするための基礎的な知識を理解する。			
授業計画			
1	1. 排泄機能: 腎 疾患: 腎・尿路系の炎症、腎・尿路系の腫瘍、腎・尿路の通過障害、腎不全 腎炎・尿路結石、全身性疾患と腎、ネフローゼ(小児含む)	講義	
2	症状: 脱水、乏尿、無尿、頻尿、浮腫、高血圧症、熱中症、水・電解質の異常、 酸塩基機構		
3	治療: 透析、腎移植、腎機能検査、高圧利尿剤		
4	2. 生体を維持し種を保存する機能: 生殖器 1) 男性生殖器の疾患: 前立腺肥大、前立腺がん、精巣腫瘍 検査、症状、治療(生殖器系作用薬)	講義	
5	2) 子宮がん、卵巣がん 女性生殖器の疾患: 月経異常、子宮内膜症、更年期、性機能障害		
6	不妊症、性分化疾患、更年期、骨粗鬆症、性感染症 検査、症状、治療(生殖器系作用薬)		
7			
8	3) 乳がん・乳腺症 乳腺の疾患、検査、症状、治療	講義	
9	— 演習 — 乳がんモデルを用いた触診(自己検診法)		
10	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	疾病の成り立ち、疾病の定義、疾病の回復、テネズムス・排尿痛・排尿障害・透析倦怠感・浮腫が起こるメカニズム、透析を行う必要性、人工膀胱を増設する必要性、導尿・尿管カテーテル留置の必要性、腰椎穿刺の目的、尿検査の目的、検査データのアセスメント、排泄機能のアセスメント 薬剤を用いる必要性、注射で使用する薬剤の種類		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 女性生殖器 系統看護学講座 腎・泌尿器		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野: 疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 各論VI (認知・精神)		1単位 20時間	2年次
学科目標			
認知・精神に関する主な疾患と症状、その回復過程と方法を理解する。			
授業の概要			
健康が破たんする機序とその経過についての概要を生体機能に沿って学び、これに対する回復過程と方法を理解する。患者の全身や身体部分の状態を正確かつ総合的に把握し、その障害における最も根源的な問題を明らかにするための基礎的な知識を理解する。			
授業計画			
1	1. 精神疾患の理解 (10時間) 診断指標、統合失調症、気分障害、神経症性障害、うつ病 摂食障害、睡眠障害、パーソナリティ障害、パニック、PTSD 依存症(アルコール・薬物) 精神障害(幻聴・幻覚・妄想など)中毒、認知症、アルツハイマーなど、 薬物療法(抗精神病薬、抗鬱薬など)、電気けいれん療法、高照度光療法	講義	
2			
3			
4			
5			
6	2. 精神療法と環境への働きかけ(8時間) 支持的精神療法、行動療法、認知療法、催眠療法、自立訓練法、森田療法、 内観療法、芸術療法、精神分析及び力動性精神療法、家族療法、環境療法、 治療共同体、地域との連携など	講義	
7			
8			
9			
10	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	疾病の成り立ち、疾病の定義、疾病の回復、精神に作用する薬物による心身への影響、睡眠障害の種類、気分が落ち込んでいる人・自傷行為のある人・気分が高揚している人・依存症のある人・気分障害がある人・幻覚・幻聴がある人・摂食障害がある人・睡眠障害がある人の特徴、精神を病む人の主な治療方法、認知機能障害のアセスメント 薬剤を用いる必要性、精神に作用する薬剤・使用方法		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開		単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野: 疾病の成り立ちと回復促進

授業科目名		単位・授業時間	年次
健康障害と回復過程 各論Ⅶ (先天障害)		1単位 20時間	2年次
学科目標			
先天性障害と主な症状、その回復過程と方法を理解する。			
授業の概要			
健康が破たんする機序とその経過についての概要を生体機能に沿って学び、これに対する回復過程と方法を理解する。患者の全身や身体部分の状態を正確かつ総合的に把握し、その障害における最も根源的な問題を明らかにするための基礎的な知識を理解する。			
授業計画			
1	1. 先天異常、遺伝子異常 主な疾患・診断・治療:	講義	
2	先天性疾患、フォロー四徴症、先天性心疾患、川崎病、神経芽細胞腫、		
3	ウィルムス腫瘍、腎芽腫、脳性まひ、てんかん、熱性けいれん、水頭症、二分脊椎、		
4	筋ジストロフィー、先天性股関節脱臼、斜頸、鎖肛、口唇口蓋裂、幽門狭窄症、		
5	先天性代謝異常、染色体異常、SIDS 上記疾患に伴う小児の症状 脱水、発熱、下痢、嘔吐、発疹、意識障害、けいれん、呼吸困難、チアノーゼ、浮腫、		
6			
7	2. 先天的な免疫機能に関連した小児期に特有な疾患		
8	先天的免疫不全		
9	小児感染症: 上気道炎症・肺炎、髄膜炎、手足口病、溶連菌感染症、ロタ、ノロ、RS		
10	子どものアレルギー、気管支喘息		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	疾病の成り立ち、疾病の定義、疾病の回復、遺伝的な要素によって発症する疾患の機序、検査データのアセスメント、 薬剤を用いる必要性、注射で使用する薬剤の種類		
水平軸	自然治癒力、生命の尊重、健康の価値づけ、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 小児看護学概論・小児看護学総論 系統看護学講座 小児臨床看護各論 系統看護学講座 臨床外科学各論		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
安全保障の科学		1単位 25時間	2年次
学科目標			
人間の特性の理解をもとに、医療現場で起こる事故を防ぐための技術の裏付けを理解する。			
授業の概要			
日常生活援助に用いる技術の原理(ボディメカニクスの原理など)、医療現場でおこなわれる処置や現象について科学的、物理学的な視点を養う。看護につながる内容を意識しながら生活体験に結び付けた事例を用いて理解する。 薬物管理等に必要な基本的な単位(ml,mg,など)の知識を確認し、酸素ボンベの残量、点滴滴下、薬品の計算など、看護の場面で必要とする基本的な計算能力を確保する。			
授業計画			
1	ねらい: 対象の安全を保障するために、日常生活に用いる看護技術の原理を理解する バイオメカニクスに基づく、ADL・基本動作介助 介助する側、される側とも安楽な介助(1):立ち上がり介助	講義 演習	
2	介助する側、される側とも安楽な介助(2):移乗介助		
3	介助する側、される側とも安楽な介助(3):起き上がり介助		
4	安全に活動性を高める支援(1) 食事、整容		
5	安全に活動性を高める支援(2) 更衣、排泄、入浴		
6	安全に活動性を高める支援(3) 移動		
7	ねらい: 対象の安全を保障するために、 診療・治療に用いる機器の原理を理解する。	講義 演習	
8	看護における電気		
9	圧力の基礎知識、空気の圧力・酸素と圧力の関係及びその性質		
10	低圧持続吸引装置の原理 皮下注射や人工透析を行う際に必要な浸透圧の知識 人工呼吸器 輸液ポンプ シリンジポンプ		
11	ねらい: 対象の安全を保障するために、 診療・治療に用いる放射線を理解する。	講義	
12	放射線の持つ特性と基礎知識		
13	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	事故への認識を高く持つ、看護者自身の安全安楽を確保した身体の使い方、注射による医療過誤を防止するための確認事項		
水平軸	論理的思考、自己の健康に関心を持つ、興味、関心、好奇心、何が問題かを明らかにする姿勢		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 リハビリテーション看護 系統看護学講座 物理学 系統看護学講座 臨床放射線医学		課題レポート 単位認定試験 学習態度	

専門基礎分野:健康支援と社会保障

授業科目名		単位・授業時間	年次
生活と健康を支える法		1単位 20時間	1年次
学科目標			
個々の人々の権利を保障し、社会の中でその人らしく生活するための基盤となる法や、対象の健康保持・増進、健康の回復、苦痛の緩和に向けた援助を提供するために適応する法を学ぶ。			
授業の概要			
看護を実践するためには、人々の権利を保障する法や基準、生活や健康を支える法や施策についての理解は欠かせない学習である。この授業では、法に基づく人々の権利を保障する法や基準について歴史的背景・社会状況をふまえて学び、人々の意識が権利を守ることを理解する。日本国憲法が基本的人権をどのように保障しているか、また様々な法規の根本法であることを理解する。そのうえで、医療・看護に関連する法や、対象の健康の保持・増進・回復のための施策などを理解する。			
授業計画			講師
1	人々の権利を保障する法や基準の意義 ～歴史的背景や社会状況をふまえて法律の意義を考える 日本国憲法が保障する基本的人権 ～憲法は様々な法規の根本法 看護を学ぶためになぜ法律を学ぶのか。看護にどのように役立つのかを理解する。	講義	
2	医療法規 ～保助看法・医師法・医療法等 薬事法規 ～薬剤師法・薬事法等		
3	保健衛生法規～感染症法・予防接種法・健康増進法・地域保健法 精神保健等法律・母子保健法・学校保健安全法 健康保険法・介護保険法 等		
4			
5			
6	環境保全・公害関係法規 環境衛生法規 ～食品安全基本法・水道法・廃棄物の処理に関する法律等		
7	福祉関係法規～社会福祉法・障害者基本法・児童福祉法・老人福祉法生活保護法 等		
8			
9	その他 ～労働に関する法律等		
10	単位認定試験 +まとめ		
内容の諸要素			
垂直軸	日本国憲法、社会的規範としての憲法・法律、世界人権宣言、児童権利宣言、健康増進法、予防接種法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、地域保健法、学校保健法、母子保健法、母体保護法、がん対策基本法、感染症予防法、高齢者虐待防止法、児童虐待防止法、DV防止法、成年後見制度、母子寡婦福祉法、少子化対策に関する法律・施策、生活保護法、育児・介護休業法、男女雇用機会均等法、労働災害補償保険法、労働基準法、労働安全衛生法、医療法、高齢者の医療確保に関する法律、社会福祉法、社会保障制度、介護保険法、身体障害者福祉法、障害者基本法、障害者自立支援法、児童福祉法、老人福祉法		
水平軸	尊厳を持って生きる存在、人間の独自性・個別性、自己尊重、生命の尊重、人間の尊重、唯一の存在として対象を尊重する、人間の尊厳に価値を置く、個人の尊重、パーソナリティの尊重、基本的人権、アドボカシー、ノーマライゼーション		
参考資料		評価方法	
使用テキスト：看護関係法令 参考テキスト：看護職の基本的責務（日本看護協会）		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
公衆衛生		1単位 20時間	1年次
学科目標			
人々の健康的な生活を支える基盤となる公衆衛生の概念と、その活動に関する知識を学ぶ。			
授業の概要			
<p>公衆衛生は、生活者の健康の保持・増進を目的に、自然科学と社会科学の両面からのアプローチを行い、常に個々の住民の要請をとらえつつ広く地域に対する政策から実施に向けた活動を行うものである。生活者の健康の保持・回復・増進を目的とする看護を学ぶ者にとって、公衆衛生は基盤となる重要な知識である。この授業では、人々の健康的な生活を支える基盤となる公衆衛生の概念と、その活動に関する基本的な知識を学ぶ。</p> <p>さらに、公衆衛生に関する施策の具体的な適用例について学び、看護への関連性の理解を深める。</p>			
授業計画			
1	公衆衛生のあゆみ	講義	
2	現在の公衆衛生システムと諸外国、今後の公衆衛生		
3	人口動向・指標・保健統計・産業保健		
4			
5	環境と健康	講義	
6	食と健康		
7	疾病の疫学と予防		
8			
9	公衆衛生活動の実際 保健行政	講義	
10	母子保健・学校保健・地域保健・老人保健福祉・精神保健福祉・在宅ケア 歯科保健・難病等		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	<p>主要死因、発達段階別死因、出産にかかわる母子の死亡、疾病構造の変化、少子高齢化の実態、高齢社会の現状、社会環境・学校・職業・運動・他者との関係・自然環境・公害が人間の健康に及ぼす影響、健康の定義</p> <p>健康増進法、予防接種法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、地域保健法、学校保健法、母子保健法、母体保護法、がん対策基本法、感染症予防法、健康づくり施策、ヘルスプロモーション、プライマリーヘルスケア、産業保健</p>		
水平軸	<p>ライフスタイルの多様性、自然治癒力、健康の価値づけ、健康の自己管理、より高い水準での健康をめざす、健康への関心を持つ</p>		
参考資料		評価方法	
<p>使用テキスト： 系統看護学講座 公衆衛生 国民衛生の動向 (厚生統計協会)</p>		<p>単位認定試験 学習態度</p>	

専門基礎分野:健康支援と社会保障

授業科目名	単位・授業時間	年次
社会保障・社会福祉	1単位 20時間	2年次
学科目標		
<p>個々の人々の権利を保障し、社会の中でその人らしく生活をおくるための基盤となる社会福祉の理念を理解し、適応する法と施策を学ぶ。</p>		
授業の概要		
<p>保健・医療・福祉サービスにおいては、一人の人間をトータル的に捉え、それぞれが連携して主人公である利用者を総合的に支えていくことが必要である。看護師にとっても、「病気ではなく、病人をみる」ためには、社会保障や社会福祉の制度の理解が必須である。</p> <p>この授業では、社会保障・社会福祉の理念と、適応する法や施策について理解する。生活者の困難に対し、生活の安定化を図るとともに国民の最低限生活を保障する公的な制度である社会保障制度と、社会的な援護を要する者が自立した生活を送れるよう生活面でさまざまな支援を中心に行う社会福祉の制度について理解し、人権の保障と、その人らしさの尊重について、医療や健康に関連する視点で考えを深める。</p> <p>社会福祉に関する資源の活用について、具体的な適用例を参考に、それぞれの法律や施策がどのような目的をもって、実際にどのように活用されているのかを理解する。</p>		
授業計画		講師
1	社会保障と社会福祉の理念と保障	講義
2	社会保障・社会福祉(考え方)とは	
	社会保障・社会福祉の変遷	
3		
4	社会福祉諸法の基本理念と施策体系	
5	社会福祉の実践・資源の活用	
6	ライフサイクルと福祉、生活保護、地域福祉	
7	社会保障制度	
	医療保障・介護保険・年金保険・労働者災害補償保険・雇用保険・	
8	社会手当・社会福祉サービス・公的扶助・	
9	社会保障・社会福祉の実践(生活と福祉) 事例	
10	単位認定試験 +まとめ	
内容の諸要素		
垂直軸	<p>世界人権宣言、児童権利宣言、成年後見制度、母子寡婦福祉法、少子化対策に関する法律・施策、生活保護法、育児・介護休業法、男女雇用機会均等法、労働災害補償保険法、医療法、高齢者の医療確保に関する法律、社会福祉法、社会保障制度、介護保険法、身体障害者福祉法、障害者基本法、障害者自立支援法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、児童福祉法、老人福祉法</p>	
水平軸	<p>尊厳を持って生きる存在、人間の独自性・個性、自己尊重、人間の尊重、唯一の存在として対象を尊重する、人間の尊厳に価値を置く、個人の尊重、パーソナリティの尊重、基本的人権、アドボカシー、ノーマライゼーション、誠実さをもつ、人を思いやる態度、全人的存在の人間、個のニーズを持つ存在、基本的欲求、成長し続ける存在、ライフスタイルの多様性、健康の価値づけ、健康の自己管理、より高い水準での健康をめざす、健康への関心を持つ</p>	
参考資料		評価方法
系統看護学講座 社会保障・社会福祉		単位認定試験 学習態度

授業科目名		単位・授業時間	年次
保健医療福祉システム		1単位 15時間	1年次
学科目標			
保健医療福祉システムの構造とそこではたらく職種を理解する。			
授業の概要			
<p>看護師は、単独ではなく常にシステムやチームの中で協働しながら活動する専門職である。そのため、医療システムとは何か、またシステムにおける協働の意義を認識することは、看護を学ぶ上で重要な学習である。</p> <p>ここでは、看護師は保健医療福祉システムの一員であることを認識しながら、システムの中での看護の機能と役割を学習する。専門基礎分野に位置づけた理由は、「看護とは何か」という詳細な学習を行う前に、「医療とはチームで行っていくものであること」「看護師はチームの一員であること」から理解することで、協働する仕事への意識を高めることを目的とするためである。人々が生涯にわたり、安心して暮らすための保健医療福祉システムを構成する関係職種(患者会やボランティアも含む)、なかでも、看護と重複する業務内容をもつ職種を中心に主要な関係職種の機能と役割についても簡単に解説する。この学習を通して、システムを構成する関係職種との協働の意義と重要性を認識する。これらのことは、今後看護のマネジメントを学ぶ上でも重要な基盤となる。</p>			
授業計画			
1	保健・医療・福祉の概念	講義	
2	保健とは、医療とは、福祉とは、これらのつながり、一人の生活者を支えるということ		
3	包括的保健医療提供システム		
4	包括的なシステムとはシステムを構成する人々と役割		
5	保健・医療・福祉サービス提供の場や対象 どのような場でどのような対象者を包括的にみているのか		
6	保健・医療・福祉のチームとチーム活動		
7	システムを構成する人々が、どのようにチームを組み、連携をとって働いているか		
8	単位認定試験(1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	<p>医療提供の理念、保健医療福祉システム、地域の保健医療福祉システム、包括的保健医療システム、地域の医療機関、個々の相談に対応する機関、保健所・地域包括支援センター・児童福祉施設・児童相談所・助産院・精神保健福祉センター・地域の福祉施設・周産期母子センターの機能と役割、医療機器メーカーの役割、医療福祉行政の役割、 作業療法士・言語聴覚士・理学療法士・医師・歯科医師・歯科衛生士・栄養士・臨床工学技士・臨床検査技師・臨床心理士・診療放射線技師・鍼灸師・精神保健福祉士・義肢装具士・救急隊員・薬剤師・社会福祉士・介護支援員・ホームヘルパー・准看護師・看護助手・保健師・助産師・管理栄養士・介護福祉士・訪問介護員の役割、患者会の活動、家族会の活動、セルフヘルプ運動、がんサバイバーの活動、ボランティア</p>		
水平軸	<p>チームワーク、メンバーシップ、他者との連絡・協働、地域保健医療福祉関係機関との連携・協働、保健医療福祉関係機関の連携・協働、組織の一員としての役割や行動、他職種との情報共有の意義を認める、他者と協力することへの価値づけ、協働する姿勢、チームの一員としての自覚</p>		
参考資料		評価方法	
使用テキスト：系統看護学講座 看護学概論		単位認定試験 課題レポート 学習態度	

専門基礎分野:健康支援と社会保障

授業科目名		単位・授業時間	年次
総合医療論		1単位 30時間	2年次
学科目標			
保健医療福祉を取り巻く社会情勢や医療に関する経済、医療提供の理念と倫理指針など、医療に関する現代の動向を総合的に理解する。			
授業の概要			
<p>医療提供の理念と役割を理解し、現代医療の動向と今後の課題について学習する。また、生命に携わる職業人として生命倫理について考え、感受性を高める。さらに、医療費や保険に関する基本的な知識を学び、医療経済やコストへの意識を高める。</p> <p>看護を学び、看護を発展させるためには、あるべき医療の姿を、看護師が正しくとらえる事がまず必要となる。この講義では、「医療とは何か、現代医療はどのように行われ、どのような問題をかかえているのか」を理解し、深く考えることを目的とする。</p> <p>医療を取りまく社会情勢や医療提供の理念と倫理指針など、医療に関する現代の動向を学習する。また、在宅などさまざまな場で活躍する看護師にとって、医療経済に関する知識や、コスト意識を持つことは必要不可欠となる。現代医療の大きな課題のひとつである医療経済についても取り上げて学習する。さらに、臓器移植法の改正に伴う生命倫理の問題や、栗生楽泉園の見学を通して法や医療にかかわる人権の問題についても考える機会とし、現代の医療の動向を総合的に学習する。</p>			
授業計画			講師
1	医療提供の理念 現代の医療の動向と今後の課題 ～少子高齢化・医師看護師不足・地域医療(過疎化)・薬害 ウイルス性肝炎・クロイツフェルトヤコブ病～		講義
2	医療経済 病院経営と診療報酬 看護業務とコスト		
3	医療の質 医療安全学 多職種連携		講義
4			
5			
6	オリエンテーション・事前学習		講義 演習 グループワーク
7	・ハンセン病と治療の理解		
8	・ハンセン病とその患者に対して、国・社会が行ってきたことの理解		
9	・ハンセン病患者・家族がおかれた状況(人権侵害)の理解		
10			
11	国立療養所 栗生楽泉園見学(8時間)		
12			
13			
14			
15			
単位認定試験			専任教員
内容の諸要素			
垂直軸	医療提供の理念、医療の動向、診療報酬のしくみ、コスト意識を持つ、過疎地域の看護、臓器の移植に関する法律、障害者の権利宣言、患者の権利に関するリスボン宣言		
水平軸	生命の尊重、人間の尊重、対象者の健康上の問題に対し解決にむけ働きかける姿勢、インフォームドコンセント、説明と同意、意思決定、自己決定、医療倫理、生命倫理、責任の自覚、倫理とは、生命の尊重		
参考資料		評価方法	
使用テキスト：系統看護学講座 医療概論 学校図書貸し出しテキスト 知っていますか？ハンセン病と人権 一問一答 (解放出版社)		単位認定試験 課題レポート 学習態度	

専門分野:基礎看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護の役割と機能		1単位 30時間	1年次
学科目標			
看護の機能と役割を理解し、その専門性を明確にして関係職種と協働することの意義を認める。			
授業の概要			
<p>看護の概念・目的および機能、看護学の発展の歴史、看護倫理や法律など看護をとりまく現実的な課題および看護の役割の将来的展望について学ぶ。これらの学習を通して看護実践の基盤となる人間観・生活観・健康観の理解を深める。また、看護実践の基盤となる理論の学習を行い、看護とはなにか看護の目標・対象、看護職の機能と役割を理解する。さらに、援助的役割を実現するために、組織の中での人間関係の捉え方を考え、関係を築くためのカンファレンス、討議法、報告・連絡など、組織の中で他者と協働する基礎的な力を養う。</p> <p>複数の看護師から、それぞれの看護観に基づく看護実践への思いを聞くことにより、看護への興味・関心と看護の魅力に触れる体験をする。</p>			
授業計画			
1	看護への導入 看護の概念		講義
2	看護の歴史		講義 アクティブラーニング
3	歴史から学ぶもの / 看護の変遷		
4	近代看護 / 戦後日本の看護の歴史 看護師の社会的地位の専門職集団 / 社会の変化とこれからの看護		
5	看護の対象と機能		講義 グループワーク
6	看護学を構成する主要概念		
7	～人間 環境 健康 看護とは何か～		
8	看護の提供者 看護の提供の仕組み・場・管理		
9	質保障		
10	看護の理論		講義 グループワーク
	看護理論とは何か 看護理論を学ぶ意義 看護理論の分類		
11	代表的な看護理論の特徴と看護への活用		
12	看護の魅力 ～私の看護体験 1～		講義
13	看護の魅力 ～私の看護体験 2～		講義
14	看護の魅力 ～私の看護体験 3～		講義
15	看護の魅力 ～私の看護体験 4～		講義
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	看護の機能、看護の役割、看護師の定義、看護の定義、関連職種の機能と役割、看護管理の意義、看護単位、看護方式、看護組織、医療施設の中の看護職員の職務、看護師のメンタルヘルス、看護の専門性、看護の専門的知識、看護の専門的技術、看護の動向、先進国における看護、過疎地域の看護、歴史、動向、国際的、科学的根拠に基づく実践、EBN、健康の概念(発達段階に伴う、時代に伴う、日本人の、生活様式に関連した、生活水準に関連した、宗教信念に基づく)、健康のレベル、健康の捉え方の推移、連続体としての健康の水準		
水平軸	リーダーシップ、看護職同士の連携、集団の形成、集団心理、討議法、情報交換の技術、学びを共有する姿勢、カンファレンスを通じて論じあう意義を認める、チームで連携して問題解決していくことの価値づけ、困った時には他者に助けを求める、関係する他職種の専門性を尊重する、対象者を知るための関係づくりへの意識を持つ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 看護学概論 看護の基本となるもの(日本看護協会出版社) 参考図書： 歴史から何を学ぶか 西村貞二(講談社現代新書) 日本近代看護の夜明け 看護師研究会(医学書院)		単位認定試験 レポート 学習態度	

専門分野:基礎看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護実践の基盤となる法と倫理		1単位 20時間	1年次
学科目標			
学科目標:人々の健康保持・増進、健康の回復、苦痛の緩和に向けた援助を提供するための基盤となる看護の法や倫理指針を学び、看護専門職者としての態度を養う。			
授業の概要			
この授業においては、看護業務を規定する法や、看護教育制度、個人情報の保護、看護実践を行う際に基盤となる倫理指針など、看護を提供するための基盤となる法や倫理指針を学ぶ。現代における社会情勢や医療ニーズ、看護の課題について学習し、広い視野と動向を読む力を備えて看護実践にあたることの意義を認識する。			
授業計画			
1	看護と法		講義
2	看護実践のための基準		
3	看護実践の職業的、法的規則		
4	医療事故における法的責任		
5	看護実践に影響を及ぼす法律		
6	看護教育制度	専門職の条件、職能団体の意義、継続教育	
7	看護における倫理		
8			
9	-演習-		
10	事例を用いて、看護の現場における様々な倫理に関する問題について、対象者の最善の利益を守ることに焦点をあてて考える。		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	看護業務を規定する法、保助看法、人材確保法、医療法、医師法、ICN看護師の倫理綱領、日本看護協会の倫理綱領、看護者の倫理綱領、看護教育制度、認定看護師制度、専門看護師制度、個人情報保護法、看護・看護実践に関係する法と倫理の内容、患者情報の管理方法、職能団体の活動に関心を持つ、職能団体の種類、職能団体の意義、継続学習の方法、通信制による継続教育の方法		
水平軸	看護の価値付け、専門職としての価値付け、責任の自覚、看護倫理、職業倫理、知り得た患者情報を個人情報として保護する姿勢、個人情報を保護する姿勢、守秘義務を厳守する、インフォームドコンセント、説明と同意、個人のもっている力を生かす姿勢、その人の生活を中心におく、その人らしい生活への価値づけ、人のつらさをわかろうとする、対象の苦痛を理解しようとする姿勢		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 看護管理 看護職の基本的責務（日本看護協会出版会） 系統看護学講座 看護倫理		単位認定試験 学習態度	

専門分野:基礎看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次	
臨床看護総論		1単位 36時間	1年次	
学科目標				
臨床看護の場の特徴と、そこでの様々な健康上のニーズをもつあらゆる発達段階の人々に対する看護の実際・実践を学ぶ。				
授業の概要				
看護の対象となる人々、とくに健康障害をもつ対象を理解し、健康状態に応じた看護の考え方とその実際を学ぶ。 看護学概論、基礎看護技術で学習した知識、技術を、あらゆる年齢層の健康障害を持つ対象に統合して応用することを意図する。				
授業計画				
1	1. 主要症状と看護 症状を伴う対象とは、その看護とは 主な症状と看護(痛み 呼吸・循環・意識・精神・消化排泄の障害 発熱・感染隔離等)		講義	
2				
3				
4	2. 治療処置 治療・処置を受ける対象とは、その看護とは 薬物療法 食事療法 等		講義	
5				
6				
7	1. 対象の健康障害に応じた看護の実践 2. シナリオの看護を考える(PBL) 健康障害の理解 健康障害により生じる問題の抽出 健康問題の解決・緩和に向けた技術の選択 援助の実施評価 各グループ発表		講義 アクティブラーニング	
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14	3. 経過別 ～病期の特徴と看護～ 急性期にある対象の看護		講義	
15				
16				回復期にある対象の看護
17				慢性期にある対象の看護
18	終末期にある対象の看護			
	単位認定試験			
内容の諸要素				
垂直軸	自然治癒力、最良の健康状態への回復、最良の健康状態の回復に向けた援助、苦痛緩和のための援助、循環機能障害のある人の援助、良好な呼吸機能を維持するための援助、運動機能障害のある人の援助、感覚機能障害のある人の援助、リハビリテーションの援助、排泄機能障害のある人の援助、嚥下・消化吸収機能障害のある人の援助			
水平軸	ニーズの個別性、自然治癒力、個人のプライバシーを大切に、基本的欲求、人間のライフサイクル、人間の尊重、人のつらさをわかろうとする、看護の価値づけ、責任の自覚			
参考資料		評価方法		
使用テキスト： 系統看護学講座 臨床看護総論		単位認定試験 課題レポート 学習態度		

専門分野:基礎看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護技術 I (ヘルスアセスメント)		1単位30時間	1年次
学科目標			
対象の健康状態を査定するためのフィジカルアセスメントを学ぶ。			
授業の概要			
<p>看護における観察の意義を認識し、看護行為の判断基準となる健康状態の評価の方法を理解する。観察を学ぶ意義や看護者によるヘルスアセスメントの目的と過程、フィジカルイグザミネーションの基本的な手技・方法を学び実践する。これらの学びを通して、身体を正しく査定するためには先入観を持たずに客観的に観察を行うことの重要性と、観察は観ることと同時に推理・判断していく過程であることの理解を深める。</p> <p>－演習－ フィジカルアセスメント技術演習</p>			
授業計画			
1	ヘルスアセスメントとは 身体に影響を及ぼす精神・社会的な要因を含めた身体の査定		講義 演習
2	フィジカルアセスメントのステップと共通する技術 スクリーニング・インタビュー・フィジカルイグザミネーション		
3	観察に関する基礎知識 観察の目的 観察の種類 観察の方法 バイタルサインとは 体温のメカニズム 測定技術 正常と異常		
4	脈拍のメカニズム 測定技術 正常と異常		
5	呼吸のメカニズム 測定技術 正常と異常		
6	血圧のメカニズム 測定技術 正常と異常		
7			
8	意識レベル		
9	呼吸器におけるフィジカルアセスメント 問診 視診 触診 聴診		
10	循環器におけるフィジカルアセスメント 問診 視診 触診 聴診		
11	筋・骨格系におけるフィジカルアセスメント 関節可動域測定 徒手筋力テスト		
12	中枢神経系におけるフィジカルアセスメント 問診 視診 触診 聴診		
13	腹部・消化器系におけるフィジカルアセスメント 問診 視診 触診 聴診		
14	－演習－ 看護場面での情報収集 バイタルサインの測定 記録と報告		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	自然治癒力と環境の関係、フィジカルアセスメント、観察の技術、バイタルサインの測定、心音の聴診、呼吸音の聴診、腸音の聴診、身体計測、ライフスタイルを知るための情報収集技術、情報のアセスメント技術、看護技術		
水平軸	ニードの個別性、自然治癒力、個人のプライバシーを大切にす		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 基礎看護技術 I 系統看護学講座 基礎看護技術 II		単位認定試験 レポート 学習態度 技術習得状況	

専門分野:基礎看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護技術Ⅱ(看護におけるコミュニケーション)		1単位 20時間	1年次
学科目標			
看護を展開するために必要な相互行為としてのコミュニケーション、学習支援の技術について学ぶ。			
授業の概要			
<p>援助関係を作る上でのコミュニケーションの重要性と、看護の対象者を尊重した円滑な相互行為を展開するための基本的知識・技術・態度を理解する。この過程を通して、自己理解を深め、人間の個性・多様性をふまえた他者理解への認識を高める。</p> <p>また、対象者にとっての健康学習の意義を理解したうえで、援助関係を通じた健康学習の支援の方法を学ぶ。</p>			
授業計画			
1	1. 看護におけるコミュニケーション 2. 対象の特性に合わせたコミュニケーションの工夫 3. 患者との信頼関係に必要な要素 (信頼性・反応性・確信性・共感性・物的要素) -演習- ロールプレイング : 臨床現場での応対について	講義 演習	
2			
3	4. 自己の話し方の特徴を知る		
4			
5	5. プロセスレコードによる相互行為の再構成		
6			
7	報告・連絡・相談の技術	講義 演習	
8	カンファレンスの目的 カンファレンスを体験することにより獲得できる能力		
9	学習支援の方法と媒体		
10			
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	コミュニケーション技術、指導技術、相手の話をきく技術、その人に合わせたコミュニケーション技術、関係職種や家族と円滑な連絡調整をするためのコミュニケーション技術、非言語的表現の意味をとらえたコミュニケーション、非言語的コミュニケーション、言語的コミュニケーション、自分と相手の認識は同じではないことを前提としたコミュニケーション、自分の意見を他人に伝えようとする姿勢、自己表現の手段		
水平軸	認知機能の発達、相手の立場に立って状況を考える姿勢、人間のライフサイクル、相手の感情への配慮、対象を全人的に理解しようとする姿勢をもつ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		課題レポート 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護技術Ⅲ (共通技術)		1単位 45時間	1年次
学科目標			
看護に共通する基本技術を習得し、対象の健康状態、対象を取り巻く状況に合わせて適用する方法を学ぶ。			
授業の概要			
対象者がそれぞれの健康状態に応じた日常生活を営むことができるように生活環境を最適な状態に調整し、日常生活行動を援助するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。ここでは、看護に共通する基本技術を習得する。状況に応じた適応につなげるために、スキルを学ぶだけでなく、なぜそうなるのかを考え、理解しながら基本技術を習得する。			
授業計画			
1	姿勢と活動		
2	姿勢と活動の生理的意義		
3	体位の種類と安楽な体位		
4	活動・運動を阻害する要因 同一体位が及ぼす影響(廃用症候群)		
5	体位変換の技術(ボディメカニクス ポジショニング)		
6	ベッドからの移乗・移送の実際		
7			
8	環境整備・調整		
9	環境整備とは		
10	ベッドメーカー		
11			
12			
13	感染予防とは		
14	ガウンテクニック、手洗い、マスクの正しい着用、スタンダードプリコーション		
15	廃棄物の取り扱い、無菌操作、消毒・滅菌等		
16			
17	緊張緩和の技術、安楽確保の技術		
18	リラクゼーション技法、マッサージ、補完代替療法、タッチング		
19	体温調整・管理・罨法		
20	呼吸を整える援助		
21	呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 気道内分泌物の排出の援助 酸素吸入療法と患者の観察 酸素ボンベの操作 吸入法		
22	単位認定試験 (筆記試験・技術試験)		
23			
内容の諸要素			
垂直軸	ボディメカニクス、移乗の留意点、移送の留意点、看護者自身の安全・安楽を確保した身体の使い方、車いすの安全な操作、ストレッチャーの安全な操作、本人の嗜好に合わせた環境整備、住環境が健康に及ぼす影響、生活環境の調整、感染予防の技術とその工夫、院内感染の特徴、院内感染を起こしやすい病原体、安楽確保の技術、緊張緩和の技術、苦痛の緩和技術、補完代替療法、マッサージ、リラクゼーション技法、対象の発達段階をふまえてかかわる姿勢、EBN、良好な呼吸を維持するための援助、吸引の技術、経皮的酸素飽和度モニターの装着方法、酸素療法		
水平軸	ニードの個別性、自然治癒力、認知機能の発達、相手の立場に立って状況を考える姿勢、個人のプライバシーを大切にする、対象者の訴えを理解する姿勢		
参考資料(案)		評価方法(案)	
使用テキスト： 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		単位認定試験 学習態度 技術習得状況	

専門分野:基礎看護学

授業科目名	単位・授業時間	年次	
看護技術Ⅳ(日常生活援助)	1単位 45時間	1年次	
学科目標			
日常生活行動に沿った看護の基本技術を習得し、対象の健康状態、対象を取り巻く状況に合わせて適用する方法を学ぶ。			
授業の概要			
対象者がそれぞれの健康状態に応じた日常生活を営むことができるように生活環境を最適な状態に調整し、日常生活行動を援助するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。生活環境への援助や、快適性を高める日常生活援助技術を学ぶ。対象者の日常生活行動における不足部分を補う技術を、自然治癒力を高めるための生活援助、生活機能を維持・促進するためのリハビリを取り入れた生活援助としての意識をもって学ぶ。 看護技術を「手技」として学ぶだけでなく、目的を持って行う援助として捉えることを重視する。			
授業計画			
1	1. 看護技術の特徴と構成 看護技術の遂行に求められる能力	講義	
2	2. 食べる(4時間) 人間にとって「食べる」ということ	講義 演習	
3	生理的メカニズム 栄養のアセスメント 食事の援助の実際 経腸栄養(経管栄養)		
4	口腔ケア		
5	胃管挿入と管理 胃管挿入	講義・演習	
6	3. 清潔を保つ(20時間) 人間にとって「清潔を保つ」ということ 衣服による自己実現	講義・演習	
7	生理的メカニズム 清潔ニーズのアセスメント		
8	清潔援助の実際		
9	足浴/手浴	講義 演習	
10	洗髪		
11			
12	清拭/寝衣交換		
13			
14			
15	排泄する(10時間) 人間にとって「排泄する」ということ生理的メカニズム 排泄ニーズのアセスメント	講義 演習	
16			排泄援助の実際(尿器・便器・おむつ/陰部洗浄) 一時的導尿と膀胱留置カテーテル
17			グリセリン浣腸の実際 排便について
18			眠る・覚醒する・安楽とリラックス
19	休息と睡眠の意義/生理的メカニズム	講義 演習	
20	対象者の尊厳を守る看取りの技術		
21	死の看取り、死の三徴候と死亡確認、遺体の変化、正しい死後の処置、見送り	単位認定試験 (筆記試験・技術試験)	
22			
内容の諸要素			
垂直軸	生活の援助技術、日常生活行動様式の特徴、日常生活行動様式のアセスメント、日常生活行動様式の援助、清潔行為が身体に及ぼす生理的な影響、部分浴が心身に及ぼす影響、対象の発達段階をふまえてかかわる姿勢、EBN、生活援助を行う際にもリハビリテーションの意識をもつ、尿管カテーテルの管理方法、尿管カテーテルの挿入技術、経鼻胃管挿入の技術、経管栄養の管理、経管栄養の注入、快適な睡眠を促す援助、看取りの技術		
水平軸	ニーズの個別性、自然治癒力、認知機能の発達、相手の立場に立って状況を考える姿勢、個人のプライバシーを大切にする、対象者の訴えを理解する姿勢、衣類による自己実現、人間のライフサイクル、生活者として本来のその人をイメージする		
参考資料		評価方法	
使用テキスト :系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		単位認定試験 学習態度 技術習得状況	

専門分野:基礎看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護技術Ⅴ(診療補助)		1単位 45時間	1年次
学科目標			
患者に行われる主な治療、処置に伴う援助技術を習得し、対象の健康状態、対象を取り巻く状況に合わせて適用する方法を学ぶ。			
授業の概要			
<p>看護師は、対象の持つ様々な健康上の問題をより効果的に解決するために、医師が行う治療上必要な行動を代行およびサポートする。また、対象の疾患や治療・処置に伴う苦痛、安楽を阻害する様々な症状を緩和するための援助を行う。ここでは、患者に行われる主な治療、処置に伴う援助技術とそれを支える知識を学習する。救命処置、創傷管理、侵襲的処置、チューブの管理、モニタリング、与薬、点滴、輸血、穿刺、検査</p> <p>－演習－ 実技演習</p>			
授業計画			
1	1. 与薬に関する基礎知識と看護師の役割		講義 演習
2	1) 与薬とは 薬剤の管理 法的根拠、基礎知識、援助法		
3	与薬経路と体内動態 与薬の種類 安全で確実な与薬(各種与薬の援助方法)		
4	注射法 目的 注射部位 刺入角度と留意点		講義 演習
5	皮下注射 筋肉内注射 皮内注射		
6	静脈内注射の目的 注射部位 留意点 (薬物投与経路と体循環 投与経路別血中濃度)		講義 演習
7	点滴内静脈注射の目的 輸液管理の実際		
8	輸液ポンプ・シリンジポンプ カテーテル関連血流感染含む		
9	採血の目的・方法・身体への影響		演習
10	－演習－ 注射・採血の技術		
11			
12	輸血療法 目的と種類 輸血療法の管理 輸血療法を受ける患者の援助		講義
13	2. 生体検査における検査方法		講義 演習
	1) 検体検査 尿検査 便検査 喀痰検査		
14	2) 侵襲を伴う検査 穿刺法における目的 採取部位 診察検査時の看護師の役割(穿刺時の介助) 腹腔 胸郭 胸椎 腰椎 骨盤 ドレーン管理		
15	3) 12誘導心電図 モニター心電図		
16	4) 口腔内吸引・鼻腔内吸引		
17	－演習－ 生体検査における検査法 (心電図・吸引) (包帯法)		
18			
19	3. 皮膚・損傷を管理する技術(4時間)		講義 演習
20	創傷処置、包帯法、褥瘡予防とアセスメント		
21	単位認定試験 (筆記試験・技術試験)		
22			
内容の諸要素			
垂直軸	創傷処置、点滴ルート管理、輸液ポンプ管理、点滴による薬剤投与管理、胸腔穿刺時の援助、骨髄穿刺時の援助、腹腔穿刺時の援助、腰椎穿刺時の援助、心電図の装着方法、採尿・採便の方法、採血の手技、注射(皮内・皮下・静脈・筋肉)の方法・技術、エアウェイ挿入の技術、EBN、輸血に伴う感染症、薬物を使用する人への援助、処置を受ける人への援助技術、治療を受ける人への援助技術、検査を受ける人への援助技術		
水平軸	対象の苦痛を理解しようとする姿勢、個人のプライバシーを大切に、説明と同意		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術		単位認定試験 学習態度 技術習得状況	

授業科目名		単位・授業時間	年次	
看護技術VI(安全をふまえた看護技術の適用)		1単位 40時間	1年次	
学科目標				
医療現場で起こる事故のリスクをアセスメントし、対象者の考えやもっている能力を活かし、その人らしい生活の質を保障しつつ安全を確保するための方法を学ぶ。				
授業の概要				
医療事故を自分自身に起こりうる身近な問題として捉え、医療職として安全を学ぶ責務を認識し、事故防止への意識を高める。看護業務の実施に伴う種々のリスクを学び、医療事故の特徴を人間の特性をベースに整理し、医療事故の発見経路とその発見の手段を学ぶ。さらに、医療現場で起こる事故のリスクをアセスメントし、対象者の考えや、もっている能力を活かし、その人らしい生活の質を保障しつつ安全を確保するための方法を学ぶ。事例をもとに、安全を保障しつつ、対象の健康状態、対象を取り巻く状況を考慮した看護技術の適用を学ぶ。(演習)				
授業計画				
1	医療現場の日常生活援助で起きやすい事故と対策 ・褥瘡 対策と予防、予測、評価	講義 アクティブラーニング		
2	・転倒・転落 事故防止対策 リスクマネジメント、コミュニケーション、分析の具体的方法、リスクセンス			
3	医療現場の診療の補助業務で起きやすい事故と対策 ・輸液に関する事故			
4	・与薬、輸血、針刺し事故、患者誤認、点滴管理に関する事故など リスクアセスメント			
5	-演習- 事例に沿った看護技術演習 グループ演習 ポートフォリオ学習 既習の学習を用いて、事例に対する適切な援助方法を検討する。 検討した方法をもとに、実技演習を行う 対象者に合わせたコミュニケーション 安全・安楽・倫理面への留意点 対象の状態に合わせた適切な方法の選択 基本に基づく正確な手技	アクティブラーニング		
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				-技術試験- 事例に沿った看護技術の提供
19				
20				
内容の諸要素				
垂直軸	事故への認識を高く持つ、事故のリスクのアセスメント、リスクマネジメントの意義、安全確保の技術、危険を予防する環境の調整、生活援助に基づく危険を予防した援助の工夫、対象者の能力に合わせた安全管理、事故を予測した行動をとる姿勢、看護者自身の安全・安楽を確保した身体の使い方、患者取り違えの危険性、患者取り違えを予防する援助の工夫、倫理的な判断のもと安全管理をすることの価値づけ、使用済み注射針誤針による感染、輸血による医療過誤を防止するための確認事項、生活援助に基づく危険の要因、転倒転落を起こしやすい要因、医療過誤を防止するための確認事項(内服薬・使用済み注射針・注射・患者取り違えによる)、感覚器障害のある人とのコミュニケーション、麻痺のある人の更衣行動に伴う影響、運動機能障害のある人の援助、その人の残存機能に合わせた援助の工夫、EBN			
水平軸	個のニーズをもつ存在、人間の個別性、ライフスタイルの多様性、クリティカルシンキング、リフレクション、患者家族の意思を尊重する、生活者として対象をとらえる、看護者の責務、看護の果たす役割の大きさの認識、ニーズの個別性、認知機能の発達、相手の立場に立って状況を考える姿勢、個人のプライバシーを大切に、対象者の訴えを理解する姿勢			
参考資料(案)		評価方法(案)		
使用テキスト :系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 系統看護学講座 医療安全 系統看護学講座 臨床外科看護総論		単位認定試験 課題レポート 技術試験 学習態度		

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護技術Ⅶ(看護過程)		1単位 30時間	1年次
知識・理論を適応しながら看護の対象を理解し、その人らしい生活の実現にむけた看護を提供するための、看護過程の方法を学ぶ。			
授業の概要			
<p>知識・理論を活用し、人間の各ライフサイクルにおいて、あらゆる健康レベルにある対象の特徴を理解する。その人らしい生活の実現にむけた看護を提供するための、看護過程の方法を学ぶ。 看護記録 看護過程 演習 記録 SOAP</p> <p>看護実践上の思考展開の基本となる看護過程(問題解決思考)を学習し、そのプロセスを理解する。また、看護の基本姿勢としての看護理論について学び、看護理論が看護過程の中でどのように生かされていくのかについて理解する。そのうえで、看護実践上の科学的根拠として用いられる代表的な看護理論を看護過程の展開上で用いるためのトレーニングを行う。看護過程の構造や各段階の要点などについて、事例患者への適用を試みながら確認していく。</p>			
授業計画			
1	看護過程の目的と必要性 問題解決過程としての看護過程	講義 演習	
2	看護過程の構成要素		
3	基本的欲求について ヘンダーソンの看護理論と人間の基本的欲求		
4	看護記録の意義と方法(記録の種類 記録と法律) 全体像の把握(関連図)		
5	アセスメントの意味と目的 情報収集の視点・方法・整理		
6	情報の解釈分析 基本的欲求の充足・未充足 原因・誘因の探求 起こりうることの探求		
7	解釈分析の実際		
8	看護問題のタイプ 看護問題の抽出 優先順位		
9	看護目標とは 計画立案の実際 評価の意義と目的		
10			
11	-演習-		
12	看護過程の展開方法を理解し、紙上事例による展開ができる		
13	展開を通し、人間の持つ基本的欲求と看護の関連を理解する		
14			
15			
内容の諸要素			
垂直軸	ケアリング、ニード論、ヘンダーソン、ナイチンゲール、ベナー、EBN、看護理論の意義、看護過程の意義、看護診断の意義、看護介入・看護成果分類の意義、看護過程の展開方法、看護実践の評価、問題解決技法		
水平軸	対象者の健康問題に対し解決の向けて働きかける姿勢、対象者の個別性を見出す、生活者として対象をとらえる、人間の個別性		
参考資料		評価方法	
使用テキスト :系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 (ヌーベル・ヒロカワ) 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程 緊急度・重症度からみた症状別看護過程		課題レポート 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次	
看護研究Ⅰ(研究の意義と方法)		1単位 30時間	2年次	
学科目標				
看護の価値を認め、看護の質と専門性を高めるための看護研究・研究成果活用の意義と方法を理解する。				
授業の概要				
<p>看護研究の意義、原則、主な方法、倫理的配慮の重要性、研究成果の活用のための基本知識を理解する。また、看護研究成果を理解するために必要な統計の知識を学習する。</p> <p>文献検索の方法や文献のクリティークについてトレーニングを行い、先行研究を活用して自己の看護に適用するための能力を養う。これらの学習を通して、看護の力の素晴らしさを伝え、看護研究への興味・関心を養う。</p>				
授業計画				
1	看護研究の意義と方法 1)研究の魅力/看護の力/科学的根拠	講義 演習		
2	2)研究の大原則 倫理			
3	研究デザインとデータ収集 1)研究デザインの意味するもの			
4	2)質的・量的研究の種類と特徴 ~実際の文献から 3)情報収集の種類			
5	文献検索 1)文献検索の意義 2)医学中央雑誌の使用の仕方 3)文献検索のルール -演習- 医療・看護系文献の検索			
6	-演習- 文献のクリティーク			
7				
8	基礎統計学 「(数字)に換える」 統計学とは何か データとは何か データとはどんな姿をしているのか?			
9	「(姿を)眺める」 データの見方・まとめ方 1) 代表値と散布度			
10	「(予想)を当てる」 データの見方・まとめ方 2)推定			
11	「(違い)を比べる」 3)検定とは			
12	代表的な検定を、実際の数値を使ってやってみる! 4)その他			
13	学会参加のすすめ			専任教員
14	発表と質問のルール			
15	群馬県看護学会への参加			
16	単位認定試験			外部講師
内容の諸要素				
垂直軸	看護に関する情報処理の方法、患者情報の管理方法、看護研究の意義、看護研究の種類、看護研究の方法、看護研究に関する統計、看護研究の活用、看護研究成果の理解、看護研究成果の活用方法、看護研究成果の評価方法			
水平軸	論理的思考、論理的思考の意義、クリティカルシンキング、クリティカルシンキングの意義、多方面からの視点で物事を思考する姿勢、さらに良くなる方法を考える姿勢、研究心、探究心、何が問題かを明らかにしようとする姿勢、他から学ぶ姿勢、資源を活用して継続学習する姿勢、職能団体による研修への参加方法、北毛地域の研究会の活動、北毛地域の職能団体の活動、目標に向かって努力する姿勢、リフレクションの意義、リフレクション			
参考資料		評価方法		
使用テキスト： 系統看護学講座 別巻 看護研究 系統看護学講座 統計学		単位認定試験 レポート 学習態度		

授業科目名		単位・授業時間	年次
北毛地域の人々と生活		1単位 30時間	1年次
学科目標			
人間は、それぞれの地域の文化や風土に影響を受けながら生活している存在であることを理解し、看護の対象となる地域の人々を、文化や生活の視点から考える。			
授業の概要			
<p>人間は、環境と相互に影響し合っている。地域の文化や風土、歴史などが、そこに住む人々の生活の基盤を形成し、価値観や健康観に影響を及ぼす。看護の対象者は生活する人々である。看護を学ぶ学生が対象者を理解するためには、実習に出て初めて「ベッドの上の患者」として対象者に出会うのではなく、それ以前に「地域で生活する人々」とその背景を知っておくことから始まるのが望ましい。</p> <p>この授業では、地域医療の対象となる北毛地域の住民を例にとりて考えることで、地域の特性と生活との相互性について学習する。北毛地域の文化や地勢、交通、災害、産業、生活の特徴などを学習したうえで、実際に北毛地域へ出向き、そこで生活する人々と触れあう。実際の体験や人々との交流を通して、この地域の文化と生活を学び、看護の対象となる地域の人々への関心を向ける。これらの学習を通して、人々の生活の実際を知り、それぞれの生活には人々の健康の概念や価値観が影響していることを理解する。</p> <p>〈オムニバス方式〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 北毛地域の特徴的な文化と生活について、文化継承者や祭りの関係者の話をきき、理解と交流を深める。 －演習－ 実際に北毛地域に出向き、現地調査から北毛地域の文化と生活について理解を深める。 			
授業計画			
1	北毛地域の魅力をドローン目線で読み解く		講義
2	渋川地域の特徴と文化・生活	渋川山車祭り ～祭りの楽しさ 地域の活性化～	講義
3	沼田地域の特徴と文化・生活	川場村 ～村づくりの軌跡と挑戦～	講義
4	吾妻地域の特徴と文化・生活	なかのじょう山里テーマパークの取り組み	講義
5	－演習－ オリエンテーション		グループワーク 演習
6			
7			
8	－体験学習－		
9	吾妻：農業体験学習 なかのじょう山里テーマパーク 堀口 裕		
10			
11			
12			
13			
14			
15	～まとめ・発表～		
16	各演習グループで地域の特性と人間生活との相互作用について発表する		
17			
内容の諸要素			
垂直軸	北毛地域(社会環境の特徴、交通、地勢、過疎問題、子育て環境、出産環境、主な災害、災害対策、公害、経済、文化、産業、生活様式、生活習慣、食生活、観光地としての特性、祭り、風習、行事、方言の理解、住環境、自然環境の特徴、地域住民の健康観、少子高齢化問題、地域や文化による健康概念の違い)		
水平軸	人との調和を図るための接遇・礼節、人との調和を図るための倫理・道徳、対象者を知るための関係づくりへの意識を持つ、北毛地域への郷土愛、地域の特性への関心、地域の特性を尊重する、地域の情報に関心を持つ		
参考資料		評価方法	
		課題レポート 出席点 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
在宅看護論 概論		1単位 30時間	2年次
学科目標			
在宅看護が必要とされる社会背景や人々の価値観、在宅ケアを支える仕組みを理解し、在宅看護の機能と役割、看護の継続性について学ぶ。			
授業の概要			
地域ケアシステムの中での在宅看護の位置づけから在宅看護の目的を学び、在宅看護の機能と看護師の役割、家族を含めた対象者の特徴を理解する。また、対象者を支える保健医療福祉制度の学習をもとに、関係職種・関係機関との連携やケアマネジメントの必要性を理解する。			
授業計画			
1	在宅看護の目的と特徴		講義
2	在宅療養の対象者		
3	生活者としての対象理解 療養者の多様性		
4	在宅看護の制度		
5			
6	在宅ケアの連携とマネジメント		
7			
8	在宅ケアを支える制度と社会資源		講義
9	医療保険制度、介護保険制度		
10	対象者と家族の権利保障		
11	入退院時における医療機関と訪問看護の連携		
12	在宅看護における安全性の確保（感染対策含む）		
13	在宅看護を支える介護力のアセスメント		
14	家族の心理 家族のアセスメント 家族相談 家族支援 介護のやりがいと介護負担		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	介護者のおかれている状況の多様性、在宅で療養する人の特徴、在宅で療養することの意義、レスパイトケアの意義、在宅の場で予測した援助の必要性、介護者のニーズに気づきを示す、介護者の気持ちを考える姿勢、介護者の価値観を認める、家族の役割の変化、患者・家族のニーズに合わせた援助の工夫、在宅で療養する際に生じる課題、在宅で療養する人に誠実に接する姿勢、介護者の行っている介護を尊重する		
水平軸	個人の価値観の個別性、ニーズの個別性、ライフスタイルの個別性、患者・家族の意志を尊重する、患者・家族の価値観を認める、誠実さを持つ、その人らしい生活への価値づけ、説明と同意、意志決定		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
在宅看護論 各論 I (看護技術の応用)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
在宅で療養する療養者・家族の状況をふまえ、生活行為の支援と、医療処置に伴う看護の応用を学ぶ。			
授業の概要			
在宅で療養する対象者の生活行為を支援する看護技術と、医療管理のための医療技術と看護について学び、対象者の状況に応じて適用する実際を学ぶ。また、家庭訪問の基本と、訪問看護における対象者と家族への接し方の基礎を学ぶ。			
授業計画			
1	在宅看護・訪問時の面接技術		講義 演習
2	-演習-		
3	事例を用いてロールプレイを行い、訪問時のコミュニケーションや個別の		
4	看護技術の提供について学習する		
5			
6	在宅における生活支援の方法と技術の応用		講義
7	生活行為への支援		講義
8	在宅で求められる技術の応用		
9	環境・呼吸機能・食生活・排泄・清潔		
10	在宅で求められる技術の応用 移動・移乗・リハビリテーション		講義
11	在宅における医療管理を必要とする人と看護・技術		講義
12	在宅医療と社会制度		
13	薬物療法 在宅酸素療法 (HOT) 気管切開、在宅人工呼吸器療法		
14	尿道留置カテーテル、ストマ管理 経管栄養		
15	在宅中心静脈栄養法、医療ポンプ 褥瘡ケア、創傷処置		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	介護者の行っている介護を尊重する、在宅における看護展開の特徴、在宅用酸素濃縮機の特徴、介護の状況、在宅用酸素濃縮機の使用法、在宅用酸素濃縮機の方法、在宅で療養する人の環境と状態を考えた清潔援助		
水平軸	個人の価値観の個別性、ニーズの個別性、ライフスタイルの個別性、患者・家族の意志を尊重する、患者・家族の価値観を認める、誠実さを持つ、その人らしい生活への価値づけ、説明と同意、意志決定		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践 医学書院		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
在宅看護論 各論Ⅱ(在宅療養を支える看護の実際)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
在宅看護を必要とする療養者・家族の状況をふまえ、社会資源を最大に活用した生活の支援と、必要な医療管理に対する看護のあり方を学ぶ。			
授業の概要			
在宅療養における、終末期を含めた各時期の特徴と、必要な訪問看護活動の概要を理解する。在宅で療養する事例から、対象と家族の状況をふまえた生活支援の方法と、必要な医療管理に対する看護、社会資源の活用を実際を理解する。また、他職種と協働する中での看護の役割を理解する。			
授業計画			
1	介入期別の特徴 導入期・療養開始期・在宅療養安定期・在宅療養終了期 時期にあわせた家族の介護負担とその軽減	講義	
2	在宅療養者の症状・状態別の看護		
3	脳血管障害		
4	認知症療養者		
5			
6	難病の療養者		
7			
8	終末期の療養者 疼痛管理への支援 痛み 在宅における終末期の支援 終末期の理解		
9	療養者と家族の支援 エンゼンルケアの実際		
10	発達段階別 在宅療養の支援 【成人期】	講義	
11	発達段階別 在宅療養の支援 【老年期】		
12	発達段階別 在宅療養の支援 【小児期】	講義	
13	精神疾患における在宅看護の展開	講義	
14			
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	介護者のおかれている状況の多様性、在宅で療養する人の特徴、患者・家族のニーズに合わせた援助の工夫、在宅で療養する際に生じる課題、在宅での疼痛管理方法、がん性疼痛のある人が在宅で療養する際の生活指導、がん性疼痛のある人が在宅で療養する際の疼痛管理の指導		
水平軸	個人の価値観の個別性、ニーズの個別性、ライフスタイルの個別性、患者・家族の意志を尊重する、患者・家族の価値観を認める、誠実さを持つ、その人らしい生活への価値づけ、説明と同意、意志決定		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎 系統看護学講座 地域・在宅看護の実際 系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開		単位認定試験 学習態度	

授業科目名	単位・授業時間	年次
在宅看護論 各論Ⅲ(看護過程)	1単位 20時間	3年次
学科目標		
在宅看護を必要とする療養者と家族のニーズを把握し、価値観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用をふまえた看護の展開について学ぶ。(演習)		
授業の概要		
<p>在宅看護を必要とする療養者と家族のニーズを把握するために、ライフサイクル各期や精神・認知障害などさまざまな状況に基づいた特徴ある事例を活用し、それぞれにあった看護の展開を考える。家族構成、発達段階、疾患、経済力などによって異なる社会資源を活用し、個人や家族の価値観、自己決定を大切にしながら、それぞれの対象者にとって望ましい在宅療養を支える方法を考える。</p> <p>-演習1- 事例から在宅看護を必要とする対象者と家族のニーズを把握し、価値観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用をふまえた看護の展開について学ぶ。</p> <p>-演習2- 事例を用いてロールプレイを行い、訪問時のコミュニケーションや個別の看護技術の提供について学習する。</p>		
授業計画		
1	在宅看護過程展開 在宅看護過程の特徴 情報収集とアセスメント 目標・計画 実施と評価 -演習- 事例から在宅看護を必要とする対象者と家族のニーズを把握し、価値観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用をふまえた看護の展開について学ぶ。	講義 演習
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
内容の諸要素		
垂直軸	介護者の行っている介護を尊重する、在宅における看護展開の特徴、在宅用酸素濃縮機の特徴、介護の状況、在宅用酸素濃縮機の使用法、在宅用酸素濃縮機の管理方法、在宅で療養する人の環境と状態を考えた清潔援助、患者・家族のニーズに合わせた援助の工夫	
水平軸	個人の価値観の個別性、ニーズの個別性、ライフスタイルの個別性、患者・家族の意志を尊重する、患者・家族の価値観を認める、誠実さを持つ、その人らしい生活への価値づけ、説明と同意、意志決定	
参考資料		評価方法
テキスト: 系統看護学講座 地域・在宅看護の基礎 系統看護学講座 地域・在宅看護の実践		課題レポート 学習態度

授業科目名		単位・授業時間	年次
北毛地域の健康支援 I		1単位 30時間	3年次(2年次)
学科目標			
北毛地域で生活する人々の健康ニーズと、地域の保健医療福祉システムの実態を理解し、北毛地域の健康上の課題を考える			
授業の概要			
北毛地域の保健医療福祉システム(渋川市の保健・福祉活動、沼田保健医療圏のへき地医療)の実態と、関連職種、連携の仕組み、および自助・互助・共助・公助の関連と、自助力・互助力を高める支援の工夫を学ぶ。北毛地域の生活環境と健康問題も特徴について理解を深め、北毛地域の健康上の課題を考える。			
授業計画			
1	行政栄養士・食生活改善推進委員活動の実態:演習	～郷土料理を知らう～	演習
2			
3	地域で生活する住民に対する保健活動にかかわる行政組織(渋川保健センター) 渋川市の概要 渋川市保健センターについて 渋川市における保健事業 令和6年度保健事業計画【実習オリエンテーション】		講義
4	地域で生活する住民に対する保健活動の実態(渋川市):母子への健康支援 「妊娠」～「子育て」までトータルで支援する取り組み 子育て支援:こども家庭センター		講義
5	地域で生活する住民に対する保健活動の実態(渋川市):成人への健康支援		講義
6	高齢者・一般施策について(渋川市福祉部 高齢安心課)【実習オリエンテーション】		講義
7	地域で生活する住民に対する保健活動の実態(渋川市):高齢者への健康支援 介護予防事業		講義
8	地域包括支援センターの事業 介護保険制度 (渋川市福祉部 高齢安心課) 【実習オリエンテーション】		講義
9	沼田脳神経外科循環器科病院 医療施設における地域連携の実態		講義
10	北毛地域における医療介護連携の実態 退院支援看護師		講義
11	北毛地域における疾病構造の変遷 診療情報管理士 北毛地域における医療福祉政策の実態 医療介護総合支援センター		講義
12	へき地医療の実態 ～長野原へき地診療所～		講義
13	長野原へき地診療所 見学演習		演習
14			
15			
内容の諸要素			
垂直軸	地域住民の健康、地域住民のこころの支援活動、北毛地域の医療の現状、医療環境、北毛地域に隣接する地域の医療施設、保健医療システム、関連職種の人数、人的物的資源、看護師不足、医師不足、住民の健康状況、人々の健康状態、人々の健康ニーズ、健康課題、健康問題の特徴、受療率、有病率、へき地診療の現状、少子高齢化問題		
水平軸	地域への貢献の使命感、自ら地域へ情報発信することの価値づけ、北毛地域の看護の役割、地域の健康ニーズへの貢献、創造性をもつ、創造力、開拓心、限られた資源から創意工夫する姿勢、さらに良くなる方法を考える姿勢、目標に向かって努力する姿勢、妥協しない姿勢、諦めない姿勢、目的を果たすために交渉する姿勢		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 公衆衛生 系統看護学講座 社会保障・社会福祉 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)		課題レポート 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
北毛地域の健康支援 II (演習)		2単位 60時間	3年次
学科目標			
北毛地域で生活する人々の健康ニーズを理解し、それにこたえるための自己の考えを示す。			
授業の概要			
北毛地域の人々の生活や価値観の理解をもとに、北毛地域の保健医療福祉システムの現状と、住民の健康状態、健康ニーズを踏まえ、地域における健康上の課題を見出す。課題解決に向け、どのような取り組みが必要であるのか、看護学生としてできることを考え、地域住民に向けて情報発信する。			
授業計画			
1			グループワーク 演習
2			
3	～演習～		
4	1年次から3年次までの講義・地域演習・臨地実習を通し学習した「北毛地域の保健医療福祉システム」と地域住民(患者・家族を含む)との関わりから、北毛地域における現状の課題(解決しなければならない問題)を見出す		
5			
6			
7	現状の課題に取り組むために、どのようなことが必要であるのか、看護職をめざす自分たちにできることを考える		
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19	～演習(情報発信)～		
20	「私たちが取り組む地域の課題と実践する取り組み」について情報発信の形式を決定し		
21	作成・発信する		
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
内容の諸要素			
垂直軸	地域住民の健康、地域住民のこころの支援活動、北毛地域の医療の現状、医療環境、北毛地域に隣接する地域の医療施設、保健医療システム、関連職種の数、人的物的資源、看護師不足、医師不足、住民の健康状況、人々の健康状態、人々の健康ニーズ、健康課題、健康問題の特徴、受療率、有病率、へき地診療の現状、少子高齢化問題		
水平軸	地域への貢献の使命感、自ら地域へ情報発信することの価値づけ、北毛地域の看護の役割、地域の健康ニーズへの貢献、創造性をもつ、創造力、開拓心、限られた資源から創意工夫する姿勢、さらに良くなる方法を考える姿勢、目標に向かって努力する姿勢、妥協しない姿勢、諦めない姿勢、目的を果たすために交渉する姿勢		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 公衆衛生 系統看護学講座 看護関係法令 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)		課題レポート 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
成人看護学概論		1単位 15時間	1年次
学科目標			
成人期にある人の個々の役割や背景をふまえセルフケアを目指した支援のあり方と成人看護の役割を理解する。			
授業の概要			
<p>ライフステージの中で最も長い期間である成人期の対象理解や心身の発達過程、ライフスタイルによって生じやすい健康問題の特徴、ヘルスプロモーション等について学ぶ。</p> <p>変動する社会状況に対応しながら生活する成人の姿を成人保健の動向などから概観し「セルフケア理論」「役割理論」「発達理論」から他者との相互性また生活や仕事といった概念に基づいて論理的に理解する。</p> <p>個人が社会において体験する生活と健康に焦点を合わせ、その人らしくあることができるように看護するための、基本となる考え方や方法論について理解する。特に生活者としての成人に着目し、活動性の多様性、多様な価値観、多様な健康観に応じた看護を考える。また、成人の学習者としての特徴をふまえた成人教育学(アンドラゴジー)を学ぶことで、効果的な健康教育や患者教育を行う基盤を養う。</p>			
授業計画			
1	成人期の特徴 成人期の位置づけと区分 成人各期の身体的・心理的・社会的特徴 生活の特徴	講義 グループワーク	専任教員
2	成人期の発達課題 エリクソン ハヴィガースト レビンソン		
3	成人各期の生活行動からみた健康問題 生活習慣と健康障害の関連 発生要因		
4	職業や生活ストレスに関連する健康障害 就労形態 家族形態 日常生活を取り巻く環境		
5	成人の保健制度システム がん対策 自殺対策 生活習慣病対策 健康づくり対策 ヘルスプロモーション		
6	成人期にある対象の特性を踏まえた看護の視点 家族支援 社会復帰支援		
7	成人期にある対象に適応する看護理論とモデル		
8	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	主要死因、職業が健康に及ぼす影響、疾病の予防活動、政治・経済が生活に及ぼす影響、職場における人間関係、生産年齢にある人の背景や役割を考えた援助の工夫、産業保健、成人期にある人への看護援助の特徴、セルフケア理論、アンドラゴジー成人教育理論、役割理論、オレム、発達理論		
水平軸	職場における個人の役割、社会が求める成人期の役割、成人期にある人の健康、成人期にある人の特徴、成人期に陥りやすい精神的な危機、中年期に陥りやすい精神的危機、自分で生きていくことを尊重する姿勢を持つ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 成人看護学総論		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
成人看護学 各論 I (セルフケアの再獲得が必要な人の看護)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
成人期にある人の特徴を捉え、セルフケアの再獲得が必要な人とその家族が、その人らしい生活を実現できるよう、個々に応じた看護を提供するための方法を理解する。			
授業の概要			
<p>外傷や疾病によって、それまで普通に行っていたことができなくなるといったセルフケアが低下した状態に陥った途中障害者が、セルフケアを再獲得し、再び「その人らしく生きていく」ための看護援助について学ぶ。自らのアイデンティティや生活スタイルがほぼ確立した、あるいは確立した成人期に新たに生じた障害と生きていく対象者とその家族の看護支援方法を理解する。</p> <p>ここでは、ボディイメージの変化、障害の受容過程を理論的に学び、いったんセルフケアが低下した人が、その人らしい自立を再獲得するには自立する本人の意思が尊重され、それをもとにした本人の主体的参加が不可欠である。自立を図ろうとする看護支援がケア提供者の一方的な「その人らしさ」にならないよう、セルフは誰であり、再獲得するのは誰なのか明確にした看護を考える。</p>			
授業計画			
1	脳出血・脳梗塞・高次脳機能障害によりセルフケアの再獲得が必要な人の看護	講義	
2	急性期の患者の看護(全身状態の管理) 異常の早期発見		
3	早期リハビリテーション		
4	患者・家族への心理的、社会的支援		
5	脳出血・脳梗塞・高次脳機能障害によりセルフケアの再獲得が必要な人の看護	講義	
6	回復期・維持期における生活再構築のための機能回復支援		
7	活動性維持・促進のためのリハビリテーション		
8	リハビリテーションチームにおける看護の役割 再獲得を支援するシステム(人的・法的支援) 対象の生活を守るための看護の役割と医療・福祉の連携		
9	運動器障害によりセルフケアの再獲得が必要な人の看護	講義	
10	脊髄損傷患者の特徴と看護 急性期における看護 回復期・維持期における看護 受容過程 心理的・社会的支援		
11	心疾患・呼吸器疾患等内部構造疾患に対するリハビリテーションの実際	講義・演習	
12	神経難病によりセルフケアの再獲得が必要な人の看護	講義	
13			
14	人工肛門・膀胱によりセルフケアの再獲得が必要な人の看護	講義・演習	
15	人工肛門とは 日常生活および社会生活に向けたセルフケア確立		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	障害の定義、人工肛門・膀胱を増設する必要性・管理、ギプス・装具・牽引(目的・装着)、日常生活行動様式のアセスメント、リハビリテーション、生活行動を他人にゆだねなければならない人のつらさをわかろうとする姿勢、運動機能障害のある人の援助、リハビリテーションの援助、残った機能を維持活用する技術、食べる機能を回復するための指導、人工膀胱・肛門の管理についての生活指導、ボディイメージ、障害の受容過程、セルフケア		
水平軸	人間の独自性、人生観、成長し続ける存在として尊重する、個人の持っている力を生かす姿勢、対象の持っている能力を引き出そうとする姿勢、個々人の独自性をとらえようとする、できることは自分で行いたい人の気持ちに気づきを示す、その人らしい生活への価値づけ、ノーマライゼーション		
参考資料		評価方法	
使用テキスト: 系統看護学講座 成人看護学総論 系統看護学講座 脳・神経 呼吸器 循環器 運動器 消化器 系統看護学講座 リハビリテーション看護 系統看護学講座 クリティカルケア看護		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
成人看護学各論Ⅱ(セルフマネジメントの必要な人の看護①)		1単位 20時間	1年次
学科目標			
成人期にある人の特徴を捉え、セルフマネジメントが必要な人とその家族が、その人らしい生活を実現できるよう、個々に応じた看護を提供するための方法を理解する。			
授業の概要			
<p>「セルフマネジメント」は、成人が何らかの慢性的な病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて自分らしく生きていくかをテーマとしている。まずセルフマネジメントとは何かについて学び、セルフマネジメントを支える理論として社会的学習理論(ローカスオブコントロール)に焦点を当て、患者が病に対するさまざまな受け止め方、その受け止め方からどのような対処行動にでるかについて学ぶ。慢性の病をもった患者自身が自分の症状と生活のなかで折り合いをつけて付き合っていく方法と客観的に測定、観察できるデータや徴候の意味をアセスメントし、対処する方法を身に付けていくための専門知識・技術の提供方法を学ぶ。さらに病気をもつことに伴うさまざまなストレスに対処するストレスマネジメントの方法について学ぶ。患者自身の力をどのように引き出し強化し、その人がその人らしく生活できることをどのように援助するかについて一人ひとりが考えてもらいたい。</p>			
授業計画			
1	1. セルフマネジメント支援の考え方と対象理解 学習援助型の考え方 本人と病気の位置関係モデル		講義 演習 グループワーク
2	成人教育・エンパワメント・自己効力理論 セルフマネジメントの過程		
3	2. 糖尿病によりセルフマネジメントが必要な人の看護	疾病管理及び療養生活支援	
4			
5	3. 腎不全によりセルフマネジメントが必要な人の看護		講義
6	病気に応じた生活指導・透析療法が生活に与える影響と看護		
7	4. 慢性心不全によりセルフマネジメントが必要な人の看護		講義
8	心疾患を持つ成人の特性と生活への影響 療養生活行動支援へつなぐための生活調整		
9	5. 肝硬変によりセルフマネジメントが必要な人の看護		講義
10	未発症にある人への支援(代償期) 症状を呈している人への支援(非代償期) セルフマネジメントを高める生活指導 病状の変化に伴う心理的支援		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	痒みの要因・影響(環境、精神、社会、物的、自己概念)、痒みの緩和の援助・指導(食事・環境・衣生活)、生活の質、QOL、痒みのアセスメント、日常生活行動様式のアセスメント、薬物に対する自己管理能力のアセスメント、その人の持っている力を把握するアセスメント技術、虚血性心疾患のある人の日常生活指導、ローカスオブコントロール、社会学的学習理論、病みの軌跡、最良の健康状態からの逸脱が日常生活に与える影響、継続的に治療を受けなければならない人のつらさをわかってもらう姿勢、痒みのある人のつらさ・透析を必要とする人の倦怠感のつらさに気づきを示す、食事制限をささえる家族を理解する姿勢、排泄機能に障害を有する人が活用できる福祉、透析をする人の生活指導		
水平軸	個人の生活の個別性、相手の立場に立って状況を考える姿勢、対象の持っている能力を引き出そうとする姿勢、個人の持っている力を生かす姿勢、その人らしい生活への価値づけ、自分とは違う価値観を認める、生活者として対象をとらえる、意志決定、自己決定		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 成人看護学総論 系統看護学講座 循環器 系統看護学講座 腎・泌尿器 系統看護学講座 内分泌・代謝 系統看護学講座 消化器		単位認定試験 学習態度	

専門分野:成人看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
成人看護学各論Ⅲ(セルフマネジメントの必要な人の看護②)		1単位 20時間	2年次
学科目標			
成人期にある人の特徴を捉え、セルフマネジメントが必要な人とその家族が、その人らしい生活を実現できるよう、個々に応じた看護を提供するための方法を理解する。			
授業の概要			
<p>「セルフマネジメント」は、成人が何らかの慢性的な病をもったときに、生活者としてどのように病気と家庭生活、社会生活の折り合いをつけて自分らしく生きていくかをテーマとしている。まずセルフマネジメントとは何かについて学び、セルフマネジメントを支える理論として社会的学習理論(ローカスオブコントロール)に焦点を当て、患者が病に対するさまざまな受け止め方、その受け止め方からどのような対処行動にでるかについて学ぶ。慢性の病をもった患者自身が自分の症状と生活のなかで折り合いをつけて付き合っていく方法と客観的に測定、観察できるデータや徴候の意味をアセスメントし、対処する方法を身に付けていくための専門知識・技術の提供方法を学ぶ。さらに病気をもつことに伴うさまざまなストレスに対処するストレスマネジメントの方法について学ぶ。患者自身の力をどのように引き出し強化し、その人がその人らしく生活できることをどのように援助するかについて一人ひとりが考えてもらいたい。また、国民病であるがんとの共生を促進し、がんになってもセルフマネジメントにより充実した人生を送るための看護を学ぶ。</p>			
授業計画			講師
1	6. 慢性呼吸不全によりセルフマネジメントが必要な人の看護	急性増悪予防のためのセルフケア支援	講義
2	各病期に応じた呼吸機能の評価及び呼吸管理		
3	7. がんによりセルフマネジメントが必要な人の看護	外来化学療法	講義
4	身体的・精神的症状の特徴と看護 QOLを向上するための症状マネジメント		
5	8. 化学療法を受ける人への援助		
6	化学療法の種類 化学療法の特徴 患者指導		
7	9. 放射線療法を受ける人への看護	放射線照射時の観察と看護	講義
8	放射線療法に携わる医療チームと看護師の役割		
9	10. 主な生活習慣病に使用する薬 心臓・血管系作用薬 呼吸器作用薬 消化器作用薬 抗感染症薬 副腎皮質ステロイド薬 等に関する基礎事項と治療における問題点		講義
10	11. 服薬アドヒアランスを向上させるためのマネジメント 服薬アドヒアランスを向上させるためのチーム医療		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	呼吸苦、痛み、嘔気、倦怠感の要因・影響(環境、精神、社会、物的、自己概念)、痒みの緩和の援助・指導(食事・環境・衣生活)、生活の質、QOL、痒みのアセスメント、日常生活行動様式のアセスメント、薬物に対する自己管理能力のアセスメント、その人の持っている力を把握するアセスメント技術、ローカスオブコントロール、社会学的学習理論、病みの軌跡、最良の健康状態からの逸脱が日常生活に与える影響、継続的に治療を受けなければならない人のつらさをわかろうとする姿勢、人のつらさに気づきを示す、食事制限をささえる家族を理解する姿勢、抗がん剤点滴投与中の管理、がん性疼痛に使用する薬剤についての指導 薬物の安全な投与方法 薬剤師との連携協働 生活習慣病 セルフコントロール 疾患も持ちながら生活する成人		
水平軸	個人の生活の個別性、相手の立場に立って状況を考える姿勢、対象の持っている能力を引き出そうとする姿勢、個人の持っている力を生かす姿勢、その人らしい生活への価値づけ、自分とは違う価値観を認める、生活者として対象をとらえる、意志決定、自己決定		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 成人看護学総論 系統看護学講座 呼吸器 系統看護学講座 別巻 がん看護 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 系統看護学講座 臨床薬理学		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
成人看護学 各論Ⅳ(危機的状態にある人の看護)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
成人期にある人の特徴を捉え、危機的状態にある人とその家族が、その人らしい生活を実現できるよう、個々に応じた看護を提供するための方法を理解する。			
授業の概要			
健康危機状況にある成人を理解し、健康危機状況にある成人に生じるセルフケア不足について「苦痛の緩和」「身体機能の悪化の予防と早期発見」「身体行動変更への支援」「心理的・精神的混乱への支援」「家族および重要他者の不安や負担への支援」などを学び、代表的な健康危機状況として手術等の侵襲的治療を受ける状況、救命救急治療を必要とする状況の看護の特徴を理解するとともに救急時・周手術期の看護技術も習得する。 またセルフケア不足の看護問題「苦痛」「身体機能の悪化」「身体行動変更」「心理的・精神的混乱」「家族および重要他者の不安や負担」についてどのようにアセスメントし看護方法を考え提供していくとよいか、その思考過程も学ぶ。急性心筋梗塞の事例で緊急入院、ICU・CCU入室患者の健康危機状況での看護について理解する。 生命の危機的状態にある、急性期・回復期にある対象とその家族の特徴やニーズを知り、その状況に応じた看護の特徴を理解する。			
授業計画			
1	周手術期の看護の概要と看護師の役割(患者及び家族の権利擁護と意思決定支援)		講義
2	手術療法・麻酔・侵襲的処置による身体への影響と合併症 手術中の看護の目的と役割 麻酔による影響 麻酔による影響と援助 術中体位が及ぼす影響と援助 麻酔覚醒時への援助		講義
3	侵襲的治療(手術)を受ける人の特徴 手術前 手術を受ける人の意思決定や不安への支援 術前オリエンテーション インフォームドコンセント 術前訓練 手術前日～当日の援助		講義
4	手術後 術後の観察技術を身につけアセスメントにつなげることができる 1)術後合併症の観察とアセスメント 呼吸器合併症 循環器合併症 イレウス 術後感染 縫合不全 肺血栓塞栓症 DIC 術後せん妄 等		講義
5	2)各種ドレーンと創部の管理(観察とアセスメント)		
6	3)生活行動の制限への支援 疼痛管理 術後の機能障害や生活制限への援助 早期離床への援助 4)周手術期にある対象と家族の看護 ボディイメージや不安への援助		講義
7	術後の継続看護(退院指導)		
8	内視鏡による手術を受ける対象の看護 腹腔鏡下手術 胸腔鏡下手術		
9	周手術期の安全管理と安全保障 クリティカルパスとは クリティカルパスの目的 手術・検査・治療クリティカルパス		講義
10	生命の危機的状態にある人の看護 救急・集中治療を必要とする患者の特徴 緊急度・重症度のアセスメント 急性疾患 急性増悪 意識障害 呼吸困難 痙攣 急性心筋梗塞 クモ膜下出血 等		講義
11	ショック状態における人への看護 ショックの分類 症状 検査 出現時の看護 治療・検査・処置 気道確保 血管確保 気管内挿管 人工呼吸器装着時の看護 体温管理 ME機器の取り扱いとモニタリング		
12	生じるセルフケア不足 合併症の予防 (身体機能悪化への対応)		
13	生命の危機状態にある人の特徴(精神的・心理的混乱への支援) 家族の反応 家族の負担 不安への対応 危機理論の活用		
14	単位認定試験		
15	内容の諸要素		
垂直軸	痛みの要因・影響(環境、精神、社会、物的、自己概念)、麻酔の意義・方法・身体的影響・管理(全身、伝達、局所)、非経口的な栄養が必要な健康状態、術式に応じた手術による身体的影響、術式に応じた手術前・中・後にたどる経過の特徴、人工呼吸器の管理方法(挿管・気管切開中の管理含む)、生命の危機状態にある人の生命維持のための機器装着の必要性、ドレーン(目的・種類・方法)、救命救急法、侵襲的処置の種類に応じた処置前・中・後の経過の特徴、術前の呼吸訓練、生体情報のモニタリングの管理方法、リハビリテーションの意義、気管切開中の呼吸の観察、気道確保、エアウェイ挿入、挿管チューブの挿入方法、創傷処置、生命の危機状態にあり、生命を維持する機器装着中の人の生活援助の工夫、侵襲を伴う処置を受ける人の苦痛・急激な変化に伴う対象者の怖さ・危機的状況にある人の家族の気持ちに気づきを示す、危機理論、病気の不確かさ理論、検査データのアセスメント		
本学特長	生命の尊重、人のつらさをわかろうとする、インフォームドコンセント、説明と同意		
参考資料		評価方法	
使用テキスト :系統看護学講座 臨床外科看護総論 系統看護学講座 臨床外科看護各論 系統看護学講座 クリティカルケア看護		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
成人看護学各論Ⅴ 終末期にある人の看護		1単位 15時間	2年次
学科目標			
終末期にある成人と家族の状況を捉え、その人らしい人生の終末を迎えられるよう、個々に応じた看護を提供するための方法を理解する。			
授業の概要			
<p>がんやその他の疾患により終末期にある人とその家族への看護の方法について学ぶ。まず、緩和ケアの歴史と現状について概観し、緩和ケアにおける倫理問題を学ぶ。その後、終末期にある人の特徴を理解し看護援助へと学びを深めていく。緩和ケアが取り扱う苦痛は、人間を身体と心に分断せず全人的苦痛としてとらえ、病気に伴う苦痛を緩和する看護介入である。ここでは、痛みに対する薬剤の活用とその副作用への対処方法と麻薬の管理について理解する。また、終末期のコミュニケーション技術とコミュニケーション技法も必須である。苦痛の緩和と、その人が持つ力を支える援助、その人が望む人生の終末を実現するための看護について学習するとともに、生きることの意味を考える。</p> <p>死にゆく人の家族の理解を図ることを目的にグリーフケア(悲嘆ケア)では、子どもだけでなく、配偶者、親、友人など大切な人を亡くし大きな悲嘆(怒り、事実の否認、後悔や自責の念、不眠、食欲不振といった体の不調など)に襲われている人が事実を受け入れ、環境の変化に適応するプロセスを支援する方法を学ぶ。</p> <p>また、医療従事者のストレスとその対処方法について学ぶ。 (がん性疼痛・疼痛緩和の援助、がん・がん以外の疾患の終末期・疼痛管理・グリーフケア・緩和ケア・死・麻薬の管理)</p>			
授業計画			
1	終末期とはどのような時期か 人の死 死生観 告知	講義	
2	緩和的医療の理念 日本における緩和ケアの現状と課題		
3	終末期にある成人の特性と支援 看護介入 チームアプローチ 精神的ケア 社会的ケア スピリチュアルケア スピリチュアルペイン		
4	がん性疼痛の緩和ケア 痛みの総合的な評価と個別ケア 薬剤の適切な使用方法		
5	がん終末期の症状と全身状態		
6	臨死期の特徴的な症状 臨死期のケア 死亡確認 死亡診断書 エンゼルケア		
7	終末期にある成人を支える家族ケア ケアの対象者としての家族 家族が受ける影響 看護師の役割 悲嘆とは グリーフケア 悲嘆と遺族へのケア		
8	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	がん性疼痛の概念・要因(物的、精神的、スピリチュアル、環境)・影響(身体的、自己概念、社会的、精神的、生活への)、疼痛のメカニズム、疼痛のアセスメント、看取りの技術、グリーフケア、不安・恐怖を持つ人の援助、死に対する考えを受けとめる、死を意識した対象者の意志決定への支援、痛みを緩和する援助の工夫・体位、リラクゼーション法の指導、痛みのある人の意志を尊重する、患者家族の思いを汲み取りながら会話する、患者家族の受け取り方を確かめながら会話する、緩和ケアの概念・特徴、死を意識した対象者の心理状態、不安・恐怖を持つ人の特徴、がん性疼痛の人と家族の意志決定への支援の必要性、痛みを緩和する代替療法、痛みの訴えの傾聴、対象の苦痛をわかろうとする姿勢、疾患を持つ人とその家族のつらさをわかろうとする姿勢、家族が患者に何かしてあげたいという気持ちを大切に、死の受容過程、悲嘆理論、不安の理論、がん性疼痛に使用する薬剤についての指導		
水平軸	個人の価値観の個別性、人生観、唯一の存在として対象を尊重する、死に至ってもなお尊厳を持つ存在として尊重する、患者家族の意志を尊重する、成長し続ける存在として尊重する、パーソナリティの尊重、対象の苦痛を理解しようとする姿勢、患者・家族の希望を持ち続ける支える姿勢、対象のうれしいことを一緒に喜ぶ、できることは自分で行いたい気持ちに気づきを示す、死生観、自分なりの死生観を持つ、自分とは違う価値観を認める、患者の最大の利益を守る姿勢、説明と同意、意志決定、自己決定		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 別巻 緩和ケア 系統看護学講座 別巻 がん看護		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
成人看護学 各論VI (看護過程)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
成人期にある人の個々の役割や背景をふまえセルフケアを目指した支援のための看護過程の方法を学ぶ。			
授業の概要			
<p>看護実践上の思考展開の基本となる看護過程を看護技術Ⅶで学び、成人期の対象のセルフケアを目指した支援のあり方・セルフマネジメントが必要な人の支援について学んだ成人看護学概論・成人看護学各論Ⅱなどの既習学習を生かし適切な成人期の対象者に対して適切な看護援助ができるように、セルフケア理論、アンドラゴジー成人教育理論、役割理論、社会学的学習理論などの看護理論をもとに看護過程の展開方法を学び、論理的思考過程をたどりながら看護過程の展開のトレーニングを行う。</p> <p>－演習－ 看護過程を展開 慢性期でセルフケアが必要な人とその家族</p>			
授業計画			
1	成人を対象とした看護過程の展開のポイント	講義 演習	
2	-演習- 事例を用いた看護過程の展開		
3			
4			
5	～事例展開～		
6	成人期の特性を踏まえ、「生涯セルフマネジメントが必要な成人期の看護」について、		
7	症状・検査・治療が与える影響を踏まえ、成人の生活指導について紙上事例を展開する。また生活習慣に対する行動変容を余儀なくされる成人の心理について考える。		
8	～演習:セルフマネジメントを支援するための技術を実施する～		
9	計画立案した指導案をもとに、生活指導を行う		
10			
11			
12			
13			
14			
15	看護診断の活用の仕方:看護診断と健康問題 NANDA-I看護診断 NOC NIC		
内容の諸要素			
垂直軸	職業が健康に及ぼす影響、疾病の予防活動、政治・経済が生活に及ぼす影響、職場における人間関係、生産年齢にある人の背景や役割を考えた援助の工夫、産業保健、成人期にある人への看護援助の特徴、セルフケア理論、アンドラゴジー成人教育理論、役割理論、オレム、社会学的学習理論		
水平軸	職場における個人の役割、社会が求める成人期の役割、成人期にある人の健康、成人期にある人の特徴、成人期に陥りやすい精神的な危機、自分で生きていくことを尊重する姿勢を持つ、個人の持っている力を生かす姿勢、その人らしい生活への価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： NANDA-I 看護診断 定義と分類		課題レポート 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
老年看護学 概論		1単位 15時間	2年次
学科目標			
高齢者の特徴と人生の歴史をふまえ、その人らしい生活を実現するための支援のあり方と、老年看護の役割を理解する。			
授業の概要			
<p>高齢社会の保健医療福祉の現状、高齢社会における課題と対策、加齢変化・老化がもつ諸側面が個々の高齢者の生命や生活にどのような問題をもたらしているか理解し、その人らしい生活を実現するためのあり方を考える。現在、社会問題となっている身体拘束や高齢者虐待など今日的課題、ならびに介護保険や 成年後見制度など高齢者の自立と権利を守るための社会制度についてここで学ぶ。</p> <p>また、高齢者のライフステージとその健康課題を学び、老年看護のあり方の特徴を理解する。</p>			
授業計画			
1	老年期の理解 老いるということ その人らしく生きるということ	講義 演習	
2	高齢者の理解 加齢に伴う身体的特徴 加齢に伴う精神的、社会的、霊的特徴		
3	身体的・心理的・社会的・霊的 -演習- 高齢者のライフヒストリー		
4	高齢者を取り巻く社会と高齢者の尊厳と権利 高齢者を支える制度と社会資源		
5	老年期の発達課題 ライフサイクルから見た高齢者と家族		
6	-演習- 高齢者の疑似体験 VR認知症体験	演習	
7	渋川地区在宅医療介護連携支援センター主催VR認知症体験		
8	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	体験に基づく健康観、少子高齢化の実態、高齢者の現状、生活の質、自治会などコミュニティにおける人間関係、世帯の変化、家族の役割の変化、日常生活行動様式のアセスメント、生活機能のアセスメント、身体のアセスメント、その人に合わせたコミュニケーション技術、老年期にある人への看護援助の特徴、老年期にある人の役割を果たそうとする気持ちに気づきを示す、家族理論、細胞の老化、発達理論		
水平軸	人間の個性、豊かな人間性、役割を有する存在としての人間、自治会などコミュニティにおける個人の役割、個体の成長・発達・老化、老化に伴う健康状態の変化、老年期にある人の健康、老年期にある人の特徴、老化に伴う機能の変化・行動の変化、老年期に陥りやすい精神的危機、人間の尊厳に価値をおく、個々人の役割をとらえようとする、その人の経験に基づく価値観を尊重する、役割を果たせないことへの気兼ねに気づきを示す、多様な背景を持つ人間に対する価値をおく、対象者の背景を知ろうとする、その人の人生の歴史を尊重する姿勢、アドボカシー		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 老年看護学		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
老年看護学 各論 I (生活機能のアセスメント)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
高齢者の生活機能のアセスメントし、その人らしい日常生活を送るための支援のあり方と、その方法を理解する。			
授業の概要			
<p>老いを生きる高齢者その人に焦点を当て、器官系統別の加齢変化のありようと高齢者の特徴的な身体症状を学び、それぞれのアセスメントの方法を理解する。</p> <p>座る・立つという基本動作を基盤とする食事・排泄・清潔といった生活リズム、さらには生活を円滑に進めるために必要なコミュニケーションについて、高齢者に特有の不具合と援助技術を学ぶ。</p> <p>記憶障害、認知機能障害、感覚器障害をふまえた健康教育の支援の原則や、嚥下障害、排泄障害などに対して残存機能を生かした生活支援、身体機能の低下をふまえた安全管理についても理解する。</p>			
授業計画			
1	高齢者のフィジカルアセスメント 加齢による機能変化がもたらす日常生活への影響	その人らしく生きるということ	講義
2	高齢者の生活機能のアセスメント(BADL IADL ADL)		
3	安全管理・リスクマネジメント 転倒予防・骨粗鬆症(移動動作 危険察知 環境等のアセスメント)		
4	高齢者の生活の質		
5	食事に関連した生活機能の変化に関連したアセスメント 栄養状態のアセスメントと経口摂取をうながすケア		講義 演習
6	清潔に関連した生活機能の変化とアセスメント		
7	清潔行為のアセスメントとケア 入浴環境・掻痒症		
8	生活リズムに関連した生活機能の変化に応じたアセスメント 睡眠障害と良眠を促すケア		
9	コミュニケーションに関連した生活機能の変化に関連したアセスメント アンビリテーション		
10	咀嚼・嚥下機能のアセスメントとケア		講義 演習
11	義歯の管理		
12	嚥下訓練		講義・演習
13	排泄に関連した生活機能の変化に応じたアセスメント		講義 演習
14	排泄のアセスメントとケア 脱水・尿失禁・便秘・下痢		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	生活機能・日常生活行動様式のアセスメント、発達段階別の危険のアセスメント、義歯の手入れ、加齢によっておこる機能低下を予測した生活の援助の工夫、気道をふさぐものを除去し気道を確保する技術、発達段階別安全指導、日常生活動作が困難な人に起こりうる危険、残った機能を維持活用する技術、生活行動を他人にゆだねなければならない人のつらさをわかってもらう姿勢		
水平軸	ライフスタイルの多様性、老年期にある人の加齢に伴った生活の変化、老年期にある人の生活観の多様性、生活者として本来のその人をイメージする、その人の生活を中心におく		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 老年看護学 系統看護学講座:老年看護 病態・疾患論 根拠と事故防止からみた 老年看護技術		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
老年看護学 各論Ⅱ(健康問題に伴う看護)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
医療的援助を必要とする対象者と、老年期に特徴的な症状・疾患への看護を理解する。			
授業の概要			
<p>老年期の加齢変化や高齢者特有の疾患、高齢者・若年者問わず罹患する疾患についても高齢者特有の症状についてその背景、原因、病態、治療等を学び高齢者およびその家族を対象とした基本的援助方法を学ぶ。(認知症、パーキンソン、鬱症状、骨粗鬆症、白内障、難聴、心不全、呼吸不全、COPD、肺炎、腎不全、前立腺肥大症、脳血管障害、皮膚掻痒症など)</p> <p>認知機能の低下や身体的な機能の低下、感覚器障害などの疾病を持つ高齢者の理解と基本的な対応を学習する。入院生活や検査、薬物療法、手術を受ける患者の看護や退院に向けての継続的な援助についても学び、高齢者のみならず、その生活を支える家族への援助についても理解する。</p> <p>また、高齢者に避けられない死について、高齢者とその家族が、長い人生の総決算として悔いのない満足のいく形で迎えることができる終末期ケアについて考える。</p>			
授業計画			
1	加齢によって起こりやすくなる疾患の特徴と身体症状のアセスメントとセルフケア 廃用症候群 脱水 浮腫 貧血 電解質異常 痛み 掻痒感 倦怠感	講義	
2	疾患をもつ高齢者への看護ケア		
3	脳卒中・心不全・大腿骨頸部骨折・褥瘡・骨粗鬆症・パーキンソン		
4	肺炎・誤嚥・COPD		
5	リハビリテーションを受ける高齢者の看護 高齢者にとってのリハビリテーション ADL障害とリハビリテーション 生活のリハビリテーション		
6	高齢者の薬物療法の現状と課題 看護師の役割	講義	
7	認知機能の障害に対する看護ケア 認知症と脳の関係		
8	代表的な認知症 アルツハイマー型認知症 脳血管認知症 レビー小体型認知症 前頭側頭型認知症 中核症状と周辺症状 認知症の検査・治療		
9	うつ背景と特徴 せん妄を引き起こす要因		
10	認知症高齢者とその家族への援助と権利擁護(成年後見制度 高齢者虐待防止)		
11	継続的な支援と介護	講義	
12	高齢者の保健医療福祉の関連施設における看護		
13	在宅療養への調整、高齢者を介護する家族		
14	高齢者の死と医療ケア 死の捉え方 終末期における家族支援 終末期を迎える場 高齢者終末期の身体的特徴 苦痛に関するケア 臨死期の看護 グリーフケア		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	記憶障害・認知症のある人の特徴、認知機能障害による日常生活上の障害のアセスメント、嚥下訓練の意義・方法、対象の理解力に合わせた説明、排泄機能障害のある人の援助、嚥下障害のある人の援助、対象者の認知力に合わせた援助の工夫、記憶障害のある人と家族の対応、認知症のある人と家族の対応、感覚器障害のある人とのコミュニケーション		
水平軸	老化に伴う睡眠覚醒パターンの異常、生活者として本来のその人をイメージする、対象を全人的に理解しようとする意識を持つ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 継続的、終末期については 系統看護学講座 老年看護学を使用		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
老年看護学 各論Ⅲ(看護過程)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
加齢による身体機能の低下と疾患による機能の変化を把握し、高齢者のライフスタイルの個性を考慮した看護過程の展開方法を学ぶ。			
授業の概要			
<p>老いを生きるその人に焦点を当て、加齢変化や健康障害に伴う特徴的な症状や疾病の看護についての既習学習を生かし、事例を用いて心理・身体機能と生活機能をアセスメントし、その人がその人らしく生活できる個性を考えた効果的な看護展開をトレーニングをする。</p>			
授業計画			
1	老年期を対象とした看護過程の展開のポイント	<p>講義 演習</p>	
2	生理的加齢現象のある対象に健康障害を生じた時の対象理解 機能変化に応じた援助の必要性についてのアセスメント		
3			
4	～演習～		
5	事例を用いた看護過程の展開		
6	加齢による心身の変化に加え、疾病による機能障害が起きているために生活に影響が みられている高齢者とその家族を対象とする生活機能の程度をアセスメントし、対象と なる高齢者の背景や価値観をふまえ、その人らしい日常生活が送れるための援助方法 が理解できる。		
7			
8	安全管理と同時に、生活の質について考える。		
9	看護診断ラベル:便秘/睡眠パターン混乱/身体可動性障害/活動耐性低下		
10	セルフケア不足/感染リスク状態/転倒リスク状態		
11	皮膚統合性障害/皮膚統合性障害リスク状態		
12			
13			
14	-演習- あそびリテーションの実際		
15			
内容の諸要素			
垂直軸	生活機能・日常生活行動様式のアセスメント、その人に合わせたコミュニケーション技術、老年期にある人への看護援助の特徴、対象の理解力に合わせた説明、患者家族の個性に合わせた援助、日常生活動作が困難な人に起こりうる危険、老年期にある人の役割を果たそうとする気持ちに気づきを示す、生活行動を他人にゆだねなければならない人のつらさをわかろうとする姿勢		
水平軸	老年期にある人の健康、老年期にある人の特徴、老化に伴う機能の変化・行動の変化、ライフスタイルの多様性、老年期にある人の加齢に伴った生活の変化、生活者として本来のその人をイメージする、その人の生活を中心におく		
参考資料		評価方法	
<p>使用テキスト： NANDA-I 看護診断 定義と分類 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 系統看護学講座 老年看護学</p>		<p>筆記試験 課題レポート 学習態度</p>	

授業科目名		単位・授業時間	年次
小児看護学概論		1単位 30時間	2年次
学科目標			
こどもの特徴とこどもを取り巻く環境を捉え、こどもと家族の支援のあり方と小児看護の役割を理解する。			
授業の概要			
<p>こどもの特徴とこどもを取り巻く環境をとらえ、それぞれのこどもにとって望ましい成長発達を遂げ、こどもと家族が生き生きと生活するために必要な看護のあり方を学ぶ。</p> <p>小児看護の歴史的背景と看護の対象について学び、現代の社会の中でこどもの権利を保障すること、こどもの最善の利益をまもるとはどのようなことかを考え、小児看護が果たすべき機能と役割を理解する。</p> <p>こどもの成長発達の過程と成長発達にかかわる因子とアセスメントについて理解し、こどもの安全管理の基本を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> こどもの成長・発達過程と各期の特徴を学び、成長発達を促す養護と安全管理について学習する。小児看護の歴史的背景から、現代のこどもの権利保障や保健・福祉の現状と施策について学習する。 健康な子どもの保育(遊びや日常生活援助)を体験することにより、子どもの接し方を学ぶ。(保育所演習) こどもを取り巻く現代社会で深刻な問題となっている虐待、いじめについての現状や、ひきこもりなどの小児各期のこころの問題について理解する。また、発達障害と障害を持つこどもと親への適切な対応について考える。 			
授業計画			
1	1. 小児看護とは 小児看護の変遷と課題	こどもの権利と看護	講義
2	こどもを取り巻く社会・環境	母子保健施策	
3	こどもの成長発達 各期のこどもの特徴 乳児期 幼児期 学童期 思春期 一般原則 成長発達に影響する因子 成長発達評価	小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護 栄養と食生活 生活リズムの確立 遊びと学習 事故防止と安全教育 他者との関係 感染症と予防 保健教育 予防接種	アクティブラーニング
4			
5			
6			
7			
8	2. ~演習~保育所における	演習	
9	こどもの健全な成長・発達を理解し、対象の発達段階に応じた保育(遊びや日常生活援助)を体験する。保育者の対応を観察し、保育に参加することで、こどもへの接し方を学ぶ。		
10	保育園での安全・感染管理		
11	3. 小児各期のこころの問題 こどもを取り巻く現代社会で深刻な問題 子どもへの虐待 いじめ ひきこもり 不登校 発達障害 メディア利用の影響 多機関・多職種との連携	講義	
12			
13	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	環境が人間の発達に及ぼす影響、日常生活行動様式の特徴、家族関係、学校における人間関係、日常行動様式のアセスメント、身体機能のアセスメント、発達段階に応じた食事、清潔、更衣、排泄の援助、授乳・離乳食の進め方・指導、その人に合わせたコミュニケーション技術、非言語的表現の意味をとらえたコミュニケーション、発達段階別の安全教育、母子関係を大切に考える姿勢、こどもにとっての食事の意義を認める、安全を確保しながら発達を見守る姿勢、発達段階別の精神的危機を予測した支援を意識する、予防接種、ワクチンの特徴、ライフサイクル各期の援助の特徴		
水平軸	人間にとっての教育、愛情のニーズ、学校における個人の役割、人間のライフサイクル、個体の成長発達、身体・運動・情緒・認知・感覚・社会性の発達、成長発達過程、発達段階における心理の特徴、小児の成長・発達の特徴、成長発達に伴う健康状態の変化、小児期にある人の健康、人工乳・離乳食の特徴、発達段階別の起こりやすい事故・栄養・水分、小児期にある人の特徴、成長発達段階に応じた必要な教育との連携、こどもにとっての学校の意義、小児期にある人の遊びの意義、乳幼児期・学童期・思春期・青年期に陥りやすい精神的な危機		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 母性看護学概論 系統看護学講座 小児看護概論 小児臨床看護総論		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
小児看護学各論 I (さまざまな状況にあるこどもと家族の看護)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
健康問題を有するこどもと家族がその人らしい生活を実現できるよう、個々に応じた看護を提供するための方法を理解する。			
授業の概要			
健康障害がこどもとその家族に与える影響を学び発達段階や状態に合わせた適切ななかかわりの必要性を理解する。 健康障害によりさまざまな状況におかれているこどもと家族を理解しそれぞれの状態に応じた看護について学ぶ。			
授業計画			
1	1. 病気や入院がこどもと家族に与える影響 各発達段階にあるこどもの病気の理解と反応、説明と同意		講義
2	発達に応じたプレパレーションの意義と目的、実際 こどもと家族に影響を及ぼす要因・入院環境・外来看護		
3	2. さまざまな状況にあるこどもと家族の看護 1) 急性期にある子どもと家族の看護 子どもによく見られる急性症状(発熱 脱水 痙攣 呼吸困難 嘔吐 下痢等) 主な疾患と看護(川崎病)		講義
4	2) 隔離や活動制限が必要な子どもと家族の看護		講義
5	3) 先天性疾患のあるこどもと家族の看護 主な疾患と看護(ファロー四徴症 發育性股関節形成不全)		講義
6	疾患により子どもと家族の変化 発達に応じた養育とセルフケア能力獲得のための支援		
7	4) 周手術期における子どもと家族への看護 子どもの手術の特徴 手術を要する健康障害と手術時期		講義
8	術前準備・術中・術後看護 主な疾患(口唇裂 口蓋裂 鎖肛)		
9	5) 慢性期にある子どもと家族への看護 疾患による子どもと家族の生活変化		講義
10	長年に治療を要する子どもとの発達とセルフケア支援 主な疾患と看護(気管支喘息 I型糖尿病 ネフローゼ)		
11	6) 小児がんの子ども・苦痛や痛みのある子ども		講義
12	血液・造血疾患 悪性新生物 化学療法・薬物療法を受ける子どもと家族への看護		
13	7) 小児における終末期の特徴 死にゆく子どもと家族(子どもと家族の死の捉え方) 終末期の特徴 子どもの死の概念と発達 子どもと家族の看護		
14	8) 医療的ケアを必要とする子ども・慢性疾患・身体障がい児への退院支援 入院生活から在宅・学校への移行に向けた支援		講義
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	家族の機能、未熟児、ハイリスク新生児の看護、対象の理解力にあわせた説明、対象の認知力にあわせた援助の工夫、小児期にある人への看護援助の特徴、プレパレーションの意義・方法、ハビリテーションの意義・方法、患者・家族の思いを傾聴する、先天性疾患のこどもをもつ親の気持ちに配慮する姿勢、家族が患者に何かしてあげたいという気持ちを大切に、ライフサイクル理論、発達理論、家族理論、発達障害のある人と家族の対応		
水平軸	乳幼児期・学童期・思春期・青年期に陥りやすい精神的な危機、こどもの最善の利益を考える、成長発達段階に応じた必要な教育との連携、こどもにとっての学校の意義、小児期にある人の遊びの意義		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児臨床看護各論 系統看護学講座 臨床外科看護各論 (先天性 周手術期)		単位認定試験 学習態度	

専門分野:小児看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
小児看護学各論Ⅱ(小児看護技術)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
健康問題をもつこどもの生活と治療に伴う小児看護技術を学ぶ。			
授業の概要			
<p>子どもの生活を障害する特徴的な症状、および疾患の病態生理・治療、看護を理解する。基礎看護技術で学んだ内容をふまえ、子どもの成長発達過程に応じた看護技術を学ぶ。</p> <p>小児看護技術 コミュニケーション技術(遊び含む) 観察技術(フィジカルアセスメント・計測) 検査・処置に伴う看護技術(子どもの点滴・採血・採尿・吸入・酸素療法など) 生活の援助技術(抱っこ・ベビーカー等による移送・沐浴・オムツ交換・授乳・離乳食介助・入眠の援助など) 救急救命処置</p>			
授業計画			
1			アクティブラーニング
2	子どもとのコミュニケーション技術・あそび		
3	-演習- こどもとのかかわり ロールプレイ		
4			
5	子どもの生活援助技術		講義 演習
6	(抱っこ・ベビーカー等による移送・オムツ交換・授乳・離乳食介助・入眠の援助など)		
7	小児看護技術演習		
8	オムツ交換・更衣・計測・授乳・採尿・酸素テント・クベース体験		
9	子どもの検査・処置に伴う看護技術		講義 演習
10	バイタルサイン測定		
11	与薬の知識(点滴・採血・経口薬・坐薬) 酸素療法 経管栄養(胃瘻含む) 骨髄穿刺 腰椎穿刺		
12	生命徴候が危険な状況にある子どもと家族の看護		講義 演習
13	救急救命処置が必要な子どもと家族への看護(一時救命 熱傷 溺水 誤飲)		
14	集中治療が必要な子どもと家族への看護 フィジカルアセスメント トリアージ 救急蘇生		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	こどもの安全な点滴の固定、採血の手技、毛細管による採血、採尿パックによる採尿、こどものフィジカルアセスメント、救急ダイヤル、ライフサイクルに応じた生活行動様式の援助、発達段階に応じた発達を促す生活援助の工夫、こどもの鼻腔の手入れ、授乳後の排気、沐浴の方法・技術、こどもの救命救急処置、夜泣き・コリック・夜驚症のメカニズム、おむつかぶれのメカニズム		
水平軸	責任の自覚、専門職としての価値づけ		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児臨床看護各論 根拠と事故防止からみた 小児看護技術		単位認定試験 学習態度	

専門分野:小児看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
小児看護学各論Ⅲ(看護過程)		1単位 15時間	2年次
学科目標			
健康なこどもの成長・発達をふまえ、子どもと家族がその人らしい生活を実現できるよう、知識・理論・技術を適用し、看護を実践する。			
授業の概要			
こどもの特徴をとらえ、成長発達をふまえながら、病気をもつ子どもに対する看護の展開方法を学ぶ。成長・発達するこどもの特徴と、疾患による影響、子どもをとりまく家族について焦点を当てて全体像をとらえる。子どもを支えている好ましい要因が何か、またそれを生かしたこどものサポートについて考える			
授業計画			
1	子どもとその家族を対象とした看護過程の展開のポイント		講義 演習
2			
3			
4	-演習-紙上事例展開と計画の実施		
5	入院する子どもとその家族の事例をもとに、健康を障害された子どもの看護を、成長発達の視点から捉え、その成長発達を促す援助方法について考え、実践する。		
6			
7			
8	看護診断ラベル:親役割葛藤/身体損傷リスク状態/成長発達遅延		
内容の諸要素			
垂直軸	家族関係、日常行動様式のアセスメント、身体機能のアセスメント、家族関係を大切に考える姿勢、ライフサイクル各期の援助の特徴、小児期にある人への看護援助の特徴、発達理論、家族理論		
水平軸	こどもの最善の利益が何かを考える、人間のライフサイクル、個体の成長発達、身体・運動・情緒・認知・感覚・社会性の発達、成長発達過程、発達段階における心理の特徴、小児の成長・発達の特徴、成長発達に伴う健康状態の変化、小児期にある人の健康、小児期にある人の遊びの意義、発達段階別の起こりやすい事故		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 系統看護学講座 小児臨床看護各論 根拠と事故防止からみた 小児看護技術		課題レポート 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
母性・父性看護学 概論		1単位 15時間	2年次
学科目標			
生涯を通しての性の発達と健康、個々に応じた支援の方法を理解する。			
授業の概要			
<p>多様化する現代女性の健康を中心に、男性を含め性のとらえ方や性の健康について理解する。性の生物学的側面のみならず、心理・社会・文化的側面からとらえて健康を考える。産む性を選択する女性の健康と胎児・新生児の健康、周産期の女性とそれを支える父性の視点を学び、生命の誕生には、お互いの性を尊重し、ともに理解しあい、支えあうことが重要であることを理解する。また、性の発達や更年期について、男性・女性の両方の視点で学習する。</p> <p>母性・父性の看護を必要とする対象の特徴およびその看護独自の特徴を理解する。対象をライフサイクルの変化や、母性・父性としての発達・成熟・継承における特性などの視点からとらえる。これらの対象を取り巻く社会の変遷と現状について、各種統計資料も用いて理解を深め、母性・父性看護の課題や役割を考える。</p>			
授業計画			
1	母性・父性の考え方 親になること・家族発達・セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ 母性看護の理念と父性への支援、倫理、安全	講義 グループワーク 演習	
2	母性・父性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状		
3	母性・父性看護の対象理解		
4	母性看護に関連する組織、法律・施策 出産にかかわる届け出 行政サービス 働く女性に対する法的保護		
5	ライフステージ各期における性の健康と看護		
6	思春期 成熟時 更年期～老年期の性の健康問題と看護		
7	リプロダクティブヘルスとは 女性とリプロダクティブヘルスの課題		
8	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	女性のライフサイクルに合わせた生活指導、生産年齢にある人の背景や役割を考えた援助の工夫、成人期にある人への看護援助の特徴、女性のライフサイクル各期の看護援助の特徴、母子関係を大切に考える姿勢、出産にかかわる母子の死亡、家族関係		
水平軸	ライフスタイルの多様性、価値観の多様性、愛情のニード、女性のライフサイクル各期の健康、男性のライフサイクル各期の健康、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダー、成人期にある人の特徴、ライフイベントに伴う危機、価値の多様性、生命倫理		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 母性看護学概論		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次								
母性・父性看護学 各論 I (周産期のウェルネス)		1単位 30時間	2年次								
学科目標											
正常な妊娠期・分娩期・産褥期の特徴と対象への支援の方法を理解する。											
授業の概要											
子どもを産み育てるために必要となる、妊娠期からの女性と家族への支援について学ぶ。妊娠・分娩・産褥、胎児の発育について、正常な生理、機序、現象を学び、父母と子どもに及ぼす影響を理解したうえで、周産期の健全な経過と胎児の発育を促進し、よりよい親子関係を築くための看護を理解する。											
授業計画											
1	妊娠期 妊娠のメカニズム、胎児の付属物、胎児循環 妊娠における母体の生理的変化・解剖学的変化と看護支援、 胎児の成長・発達、母性・父性を促す看護支援	講義 演習									
2											
3											
4											
5											
6	分娩期 分娩の3要素、分娩の経過、分娩時の看護支援										
7											
8											
9	産褥期 退行性・進行性変化、産褥期の看護支援、母乳育児、母性・父性を促す看護										
10											
11											
12	早期新生児期の看護 早期新生児の生理的変化、早期新生児と家族の看護										
13											
14	演習 レオポルド触診法、腹囲・子宮底測定、妊婦体験、マタニティー(ベビー)ヨーガ、 産痛緩和法										
15											
単位認定試験		外部講師									
内容の諸要素											
垂直軸	妊娠期・授乳期に必要な栄養、健康の保持増進するための健康診断、ウェルネス、分娩期の身体的・心理的苦痛への緩和の援助、授乳の進め方、授乳の指導、妊娠中に起こりうる問題をふまえた生活指導、産褥期に起こりうる問題をふまえた生活指導、指導技術、母子関係を大切にする姿勢、羞恥心を伴う処置を受ける人にプライバシーの配慮ができる、家族関係										
水平軸	母乳栄養の特徴、愛情のニード、個体の成長・発達、妊娠期の身体的・心理的・社会的変化、分娩期の身体的・心理的変化、産褥期の身体的・心理的・社会的変化、健全な出産、妊娠中に起こりうる問題点、分娩期に起こりうる問題点、産褥期に起こりうる問題点、生命の尊重、対象者のうれしいことを一緒に喜ぶ、個人のプライバシーを大切にする										
参考資料		評価方法									
使用テキスト： 系統看護学講座 母性看護学概論 系統看護学講座 母性看護学各論 根拠と事故防止からみた 母性看護技術		単位認定試験 レポート 出席状況 学習態度									

授業科目名		単位・授業時間	年次
母性・父性看護学 各論Ⅱ(周産期のハイリスク)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
ハイリスクの妊娠期・分娩期・産褥期の特徴と対象の支援の方法を理解する。			
授業の概要			
<p>子どもを産み育てるために必要となる、妊娠期からの女性と家族への支援について、ハイリスクの対象者を中心に学ぶ。</p> <p>はじめに、ウェルネスの視点による支援の方法をとらえ、ハイリスクを学ぶ視点に活かす。妊娠のハイリスク因子と、異常妊娠、異常分娩、異常産褥について学び、経過に異常のある母子と、それを支える父性への看護を、保健指導を含めて理解する。</p>			
授業計画			
1			
2			
3			
4	-演習-		講義
5	事例を用いて、周産期の対象の看護展開について、標準看護計画をもとに		演習
6	ウェルネスの視点で考える。		
7			
8			
9	ハイリスク妊婦 妊娠経過の逸脱 流産 早産 常位胎盤剥離 前置胎盤 合併症 妊娠高血圧症候群 妊娠悪阻 妊娠貧血 甲状腺機能亢進症 心疾患 糖尿病(妊娠糖尿病 糖尿病合併妊娠)		講義
10	ハイリスク妊婦 感染症 多胎妊娠 胎児発育異常 持続期間の異常 子宮外妊娠		
11	ハイリスク分娩と分娩期の異常 陣痛異常 産道の異常 娩出物の異常(胎児機能不全) 分娩時の損傷 前期破水 分娩時異常出血 帝王切開術		講義
12	ハイリスク産褥と産褥期の異常と看護 産褥期の健康逸脱(肺塞栓症 子宮復古不全) (産褥熱 乳腺炎 産後うつ)		
13	周産期の「死」における母性・家族への援助		
14	早期新生児期のアセスメントと健康問題 早期新生児の健康問題と家族への看護(NICU看護) 早産児 低出生体重児 新生児仮死 新生児ビタミンK欠乏症		講義
15	高ビリルビン血症 感染症 分娩外傷 先天性奇形		
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	気分が落ち込んでいる人の特徴、妊娠期に起こりうる問題をふまえた生活指導、産褥期に起こりうる問題をふまえた生活指導、指導技術、母子関係を大切に作る姿勢、羞恥心を伴う処置を受ける人にプライバシーの配慮ができる		
水平軸	妊娠期の身体的・心理的・社会的変化、分娩期の身体的・心理的変化、産褥期の身体的・心理的・社会的変化、妊娠期に起こりうる問題点、分娩期に起こりうる問題点、産褥期に起こりうる問題点、生命の尊重		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 母性看護学概論 系統看護学講座 母性看護学各論 根拠と事故防止からみた 母性看護技術		課題レポート 単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
母性・父性看護学 各論Ⅲ(健康問題を有する人の看護)		1単位 20時間	2年次
学科目標			
生涯を通しての母性・父性の発達をふまえ、生殖器の疾患や、生殖機能の変化を生じた人への看護を理解する。			
授業の概要			
女性と男性の生殖器の主な疾患と症状について、病態生理をふまえた看護のあり方を理解する。子宮がん、卵巣がん、乳がんなどの生殖器の疾患や生殖機能の変化から、発達課題や性役割、ボディイメージに及ぼす影響を考えた支援について学ぶ。更年期障害については、女性だけでなく、男性の問題としてもとらえ、性機能の変容に伴うこととからだに対する支援を学ぶ。不妊症・不育症については、患者の問題を多角的に受け止め、家族も含めた看護について理解する。			
授業計画			
1	乳がん看護 ～ライフサイクルの課題を踏まえた、治療に伴う支援～ 乳がんの診断と主な検査 乳がんの自己検診 乳がんの治療(手術療法 ホルモン療法 化学療法 放射線療法)と意思決定支援 術後合併症と術後機能障害 リンパ浮腫等の乳がん治療関連合併症の看護 乳がん看護認定看護師(予防 早期発見 診断・治療フォローアップ等)の役割		講義 演習
2			
3	性器出血 帯下の病態と看護 子宮脱 子宮筋腫 子宮内膜症の看護		講義
4			
5	子宮がん患者の看護 卵巣がん患者の看護		講義
6			
7	性機能・性役割の変容に関連した問題についての看護 不妊症・不育症 不妊とその原因・検査・治療 (精巣腫瘍やED等男性の生殖器に関する疾患にまつわる原因を含む) 不妊治療を受けている対象の理解・夫婦の看護 不妊治療によって妊娠した家族、不妊治療の終結にかかわる看護		講義 グループワーク ディベート
8			
9			
10			
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	心理的不安状態、気分が落ち込んでいる人の特徴、女性のライフサイクルに合わせた生活指導、加齢によって起こる機能低下を予測した生活の援助の工夫、羞恥心を伴う処置を受ける人にプライバシーの配慮ができる、女性のライフサイクル各期の看護援助の特徴、ボディイメージ		
水平軸	社会が求める成人期の役割、老化に伴う健康状態の変化、女性のライフサイクル各期の健康、男性のライフサイクル各期の健康、ライフイベントに伴う危機、リプロダクティブヘルス・ライツ、人のつらさをわかろうとする、個人のプライバシーを大切にする、自己決定		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 女性生殖器 系統看護学講座 別巻 がん看護学 系統看護学講座 母性看護学概論 系統看護学講座 母性看護学各論		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
精神看護学 概論		1単位 30時間	2年次
学科目標			
精神障害は日常的に経験する多くの悩みや葛藤の延長線上にあることを認識し、精神の健康保持・増進・回復に向けた支援のあり方と精神看護の役割を理解する。			
授業の概要			
<p>年々、社会の変化はスピードを増し精神看護の対象となる人々も場も、大きく様変わりしてきた。精神科で治療を受ける人々のほかにも、さまざまな精神健康上の問題をかかえケアを必要とする人々がふえ、そのニーズも多様化してきている。いまや精神科だけにとどまらず、一般診療科、さらには地域における様々な施設や組織などで、精神看護の考え方や方法が必要とされる時代になってきたことからリエゾン精神看護の役割は大きい。</p> <p>ここでは、基礎科目の「人間のこころと行動」で学び得たことを基盤に、こころの働きとそのしくみ、その様々なひずみ、それらへの対応などをこころそのもの、周囲を取り囲む人との関係、さらには広く社会の対応など幅広い視点から学び、発達段階別の精神的危機を予測した支援を考える。また地域の精神の健康を守る行政システムについて理解する。</p> <p>また、精神医療と看護の歴史を概観し、それぞれの時代における特色を理解するとともに精神医療の現状と問題点について法の改正に伴う対象者の処遇の変化を含め理解する。</p>			
授業計画			
1	精神障害の基本的な考え方	講義	
2	こころの健康とは、障害のとらえ方、社会の変化とメンタルヘルス、精神障害のきっかけとプロセス、対象理解の難しさ、精神障害とともに生きるということ		
3	精神疾患と家族		
4	人間のこころと行動 人のこころのさまざまな理解、こころと環境 (欲求、ストレス、コーピング、適応、防衛機制等)		
5	精神保健医療福祉の歴史 精神医療看護の歴史		
6	精神科病院で最期を迎える精神疾患患者への看取りについて		
7	特殊な状況における危機の諸相 医療現場、災害、犯罪		
8	人格の発達と情緒体験	講義	
9	対象関係論、対象との出会い、母子関係の発展		
10	人生各期の発達課題		
11	ライフサイクルとストレス、ライフサイクル各期における特徴と危機		
12	現代社会とこころ		
13	現代社会の特徴、現代社会と心の問題、現代社会と親、子ども		
14	さまざまな環境とこころ 暮らしの場、教育の場、職場、地域社会		
15	精神保健医療福祉の動向 精神保健医療福祉にかかわる法制度	講義	
単位認定試験			
内容の諸要素			
垂直軸	こころの健康、心理的不安状態、緊張やストレスが身体に与える影響、人間の欲求不満と葛藤、現代における精神社会的危機、精神を病むという体験、人間のストレス・ストレッサー、ストレッサーとなる要因、家族関係によるストレス、他者との関係が健康に及ぼす影響、心の防衛機制、人間の精神機能、発達段階別の精神的危機を予測した支援を意識する		
水平軸	乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・中年期・老年期に陥りやすい精神的な危機、ライフイベントに伴う危機、心の問題について社会全体で支援することの価値づけ、困った時は他者に助けを求める、人間の尊厳に価値をおく、対象の苦痛を理解しようとする姿勢、患者の最大の利益を守る姿勢、精神を病む人の尊厳を大切にする、精神を病む人の社会の理解を深めるための啓蒙活動		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
精神看護学 各論 I (精神障害を持つ人への看護のあり方)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
精神障害を持つ全ての人が変化と成長の可能性を持ち、その過程を援助する精神看護の役割を認識し、精神看護のあり方を理解する。			
授業の概要			
<p>人間の見方とセルフケアの視点に基づく精神看護のあり方を考え、精神障害をもつ対象者の家族が置かれている状況と、対象に応じて必要な支援を行うことの重要性を理解する。精神障害をもつ対象者の日常生活や社会生活への影響を理解し、治療的関わりの基本、治療的環境、回復を助ける方法、服薬治療にかかわる援助、日常生活行動の援助を学ぶ。</p> <p>精神障害をもつ人に起こりうる危険を理解し、対象者と支援者双方の安全を守る方法と、行動制限における看護の課題を理解する。また、医療における対象者の権利や処遇をめぐる問題を理解し、精神障害者をめぐるアドボカシーの考え方を理解する。さらに、看護師における感情労働と看護師のメンタルヘルスについて学び、感情労働を生きのびる方法を知る。</p>			
授業計画			
1	精神に障害を持つ人の看護の基本	講義 グループワーク	
2	対象の理解		
3	ヒストリー、精神情緒状態の把握 オレムアンダーウッド理論に基づいたセルフケアの視点から対象者をとらえる		
4	自己と他者理解 プロセスレコードの記載方法と考察方法	演習	
5	精神科看護におけるケアの方法	講義	
6	治療的かかわり、日常生活行動の援助、		
7	服薬治療にかかわる援助 統合失調症患者の薬物療法の実際 精神科薬物療法において患者の服薬アドヒアランスを良好に保つための援助 向精神薬の特徴や使い方、副作用		
8	医療における対象者の権利や処遇を巡る問題などの倫理と人権擁護		
9	精神医療におけるアドボカシーの必要性		
10	生活の場としての治療環境 さまざまな拘束のかたち 開放化に向けての課題 精神障害者の権利擁護		
11	精神科看護の場と看護	講義	
12	外来・病棟・地域入院環境と治療的アプローチ		
13	患者と家族を支える各職種と多職種協働について 精神科リエゾンチーム 精神保健活動とリハビリテーション 地域への継続看護		
14	地域への継続看護 受け入れ側の視点 (民生委員、保健師等からの視点)		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	精神を病む人の日常生活への影響、精神を病む人の家族への影響、精神を病む人の社会生活への影響、精神を病むという体験、精神を病む人の起こりうる危険のアセスメント、精神を病む人の生活への影響のアセスメント、精神を病む人の薬物管理のアセスメント、精神を病む人の困難になっている生活行動の代行、精神を病む人の生活リズムへの援助、精神を病む人の社会的支援の方法、精神を病む人の健康な部分を認める、精神を病む人へのリスクマネージメント、精神を病む人へのリハビリテーション技法、精神を病む人の困難になっている薬物管理の代行、精神を病む人の生活指導、精神を病む人の起こりうる危険を予測した環境整備、オレム・アンダーウッド理論、ペプロウ		
水平軸	人間の尊厳に価値をおく、対象の苦痛を理解しようとする姿勢、個人の持っている能力を生かそうとする姿勢、患者の最大の利益を守る姿勢、精神を病む人の尊厳を大切にする		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開		単位認定試験 学習態度	

専門分野:精神看護学

授業科目名		単位・授業時間	年次
精神看護学 各論Ⅱ(障害の特徴をふまえた看護)		1単位 30時間	2年次
学科目標			
精神障害を持つ人の特徴的な症状、及び治療に対する看護を学ぶ			
授業の概要			
精神障害の分類(統合失調症・気分障害・躁鬱病、依存症、パニック、PTSD、人格障害、認知障害)と特徴がわかり、その特徴に合わせた治療と家族を含めた看護の役割が理解できる。 地域における継続的精神看護の必要性を理解する。			
授業計画			
1	精神障害の分類の特徴と対象者・家族への援助 (統合失調症、躁鬱病、気分障害、人格障害、精神遅滞、てんかん、摂食障害、 発達障害、知的障害、PTSD、認知障害など)		講義
2			
3	生活障害と看護の実際(症状の特徴と看護、看護師の治療的かかわり、リハビリテーション)		
4	統合失調症(急性期)		
5	統合失調症(慢性期)		
6	人格障害		
7	うつ病 神経症 認知症		
8			講義
9	嗜癖と依存		
10	依存のとらえ方		
11	アルコール依存症など		
12			講義
13	臨地実習から学ぶ 精神看護学実習で何を学ぶのか 患者との出会い～コミュニケーション～共に行動すること カンファレンス 学生だからできること — コミュニケーション技術演習 —		
14	幻聴や妄想への対応 反応の乏しい患者 拒否のある患者 一方的に話す患者 沈黙への対応 同室者への対応		
15	単位認定試験		
内容の諸要素			
垂直軸	認知症のある人の特徴、気分が落ち込んでいる人の特徴、自殺企図のある人の特徴、自傷行為のある人の特徴、気分が高揚している人の特徴、依存症のある人の特徴、気分障害がある人の特徴、幻覚・幻聴のある人の特徴、摂食障害のある人の特徴、睡眠障害のある人の特徴、睡眠障害の種類、気分が落ち込んでいる人の対応、自殺企図のある人の対応、自傷行為のある人の対応、気分が高揚している人の対応、依存症のある人と家族の対応、気分障害のある人と家族の対応、幻覚幻聴のある人と家族の対応、睡眠障害のある人と家族の対応、摂食障害のある人と家族の対応、精神を病む人とのコミュニケーション、知的障害のある人の特徴、知的障害のある人と家族の対応		
水平軸	人間の尊厳に価値をおく、対象の苦痛を理解しようとする姿勢、患者の最大の利益を守る姿勢、精神を病む人の尊厳を大切に		
参考資料		評価方法	
使用テキスト : 系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開		単位認定試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
精神看護学 各論Ⅲ(看護過程)		1単位 20時間	3年次
学科目標			
精神障害を持つ人の背景となる情報と潜在能力を把握し、個別的な看護を展開するための方法を学ぶ。			
授業の概要			
精神障害を持つ人の背景となる情報と潜在能力を把握し、精神障害をもつ人の事例から、個別的な看護を展開するための方法を学ぶ。また、精神障害を持つ人との関わりの基本となる治療的コミュニケーションの技術を演習する。			
授業計画			講師
1	ー演習ー 発達課題とライフヒストリー 「その人らしさ」 生活行動の観察からセルフケアへ 患者が自己決定能力を高め、セルフケアを促進する援助 オレム・アンダーウッドを用いた看護過程の展開		講義 演習
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
内容の諸要素			
垂直軸	精神を病む人の日常生活への影響、精神を病む人の家族への影響、精神を病む人の社会生活への影響、精神を病む人の起こりうる危険のアセスメント、精神を病む人の生活への影響のアセスメント、精神を病む人の薬物管理のアセスメント、精神を病む人の困難になっている生活行動の代行、精神を病む人の生活リズムへの援助、精神を病む人の社会的支援の方法、精神を病む人の健康な部分を認める、精神を病む人へのリスクマネージメント、精神を病む人へのリハビリテーション技法、精神を病む人の困難になっている薬物管理の代行、精神を病む人の生活指導、精神を病む人の起こりうる危険を予測した環境整備		
水平軸	人間の尊厳に価値をおく、対象の苦痛を理解しようとする姿勢、個人の持っている能力を生かそうとする姿勢、患者の最大の利益を守る姿勢、精神を病む人の尊厳を大切にする		
参考資料		評価方	
使用テキスト :系統看護学講座 精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護の展開		課題レポート 学習態度	

専門分野:看護の統合と実践

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護の質保障 I (看護のマネジメント)		1単位 30時間	3年次
学科目標			
多重課題の状況下で対象者の安全保障を基盤として、業務の優先順位を判断することや時間管理、環境調整することの意義を理解する。			
授業の概要			
<p>これまでに学習した内容を統合し、複数の対象や状況に応じて適切な判断を行い、安全を確保しながら実践する能力を養う。この演習の中で、看護技術の総合的な評価を行う機会とする。また、チームの中での看護管理や、医療チームの中で具体的にどのように看護業務が行われているか知り、他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解する。また、自分の業務内容の範囲の中で、看護をマネジメントする基礎的能力を養う。</p>			
授業計画			
1	演習のオリエンテーションと準備	<p>講義 アクティブラーニング</p>	
2	組織における看護師の役割を理解し、看護マネジメントの基礎的能力を養い、臨床現場		
3	において看護基礎教育の集大成として、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師と		
4	としての知識・技術を学ぶ		
5	～講義～		
6	チーム医療の中での看護の役割 チーム医療の中での専門チーム		
7	病院の医療安全組織と看護部におけるリスクマネジメント 医療事故発生時の対応		
8	看護マネジメント リーダーシップとメンバーシップ		
9	医療保険制度と診療報酬の仕組み 看護サービスと診療報酬制度		
10			
11	～演習～		
12	KYT(危険予知トレーニング)から考える医療安全		
13	多重課題 診療補助の事故 療養上の世話の事故		
14			
15			
内容の諸要素			
垂直軸	事故への認識を高く持つ、リスクマネジメントの意義、安全確保の技術、危険を予防する環境の調整、事故を予測した行動をとる姿勢		
水平軸	多方面からの視点で物事を思考する姿勢、論理的思考、行動・知覚・思考する存在、人間の多様性、論理的思考、自己理解と自己を振り返る姿勢、他人の意見を素直に受け止める、自己コントロールの方法、看護の果たす役割の大きさの認識		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 看護学概論 系統看護学講座 看護管理 系統看護学講座 医療安全		課題レポート 技術試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護の質保障Ⅱ(演習)		1単位 30時間	3年次
学科目標			
多重課題の状況下で対象者の安全保障を基盤として、業務の優先順位を判断することや時間管理、環境調整することの意義を理解する。			
授業の概要			
これまでに学習した内容を統合し、複数の対象や状況に応じて適切な判断を行い、安全を確保しながら実践する能力を養う。この演習の中で、看護技術の総合的な評価を行う機会とする。また、チームの中での看護管理や、医療チームの中で具体的にどのように看護業務が行われているか知り、他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップを理解する。また、自分の業務内容の範囲の中で、看護をマネジメントする基礎的能力を養う。			
授業計画			
1	演習のオリエンテーションと準備		
2	組織における看護師の役割を理解し、看護マネジメントの基礎的能力を養い、臨床現場において看護基礎教育の集大成として、チーム医療及び他職種との協働の中で看護師としての知識・技術を学ぶ		
3	臨床に近い疑似環境下において、対象の状況に応じた判断・対応を習得し、臨地実習の心構えができる		
4	～演習～		
5	1. さまざまな患者の事例状況設定し、状況判断と援助計画の立案 事例の状況に応じたフィジカルアセスメント		
6	事例の状況に応じた計画立案(安全安楽・倫理性・対象に適した技術、態度) 事例の状況に応じた技術の実施		
7	技術の評価		
8	2. 複数患者の受け持ちを想定し、適切な援助を考える。 2人以上の患者の援助計画を優先順位を考慮して立案する。(優先順位) 時間経過の中で援助を実施していく。(時間管理)		グループワーク 演習
9	予期しない患者の反応に対応する。(割り込み状況への対処方法)		
10	危険予測と安全対策 倫理的配慮		
11	～演習～		
12	身体侵襲を与える恐れがある技術における技術の実践と統合		
13	・輸液の準備と管理		
14	・酸素療法		
15	・吸引		
	・血糖測定		
	・経管栄養法		
	・与薬の援助	等	
内容の諸要素			
垂直軸	事故への認識を高く持つ、リスクマネジメントの意義、安全確保の技術、危険を予防する環境の調整、事故を予測した行動をとる姿勢		
水平軸	多方面からの視点で物事を思考する姿勢、論理的思考、行動・知覚・思考する存在、人間の多様性、論理的思考、自己理解と自己を振り返る姿勢、他人の意見を素直に受け止める、自己コントロールの方法、看護の果たす役割の大きさの認識		
参考資料		評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 看護学概論 系統看護学講座 看護管理 系統看護学講座 医療安全		課題レポート 技術試験 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護研究Ⅱ(研究成果の活用)		1単位 30時間	3年次
学科目標			
研究成果に基づき自己の看護実践を客観的に評価し、その成果と課題を認める。実践への研究成果の活用を通して、看護学の価値を確信し、情報を発信すること、看護の発展に寄与することの意義を見出す。			
授業の概要			
実践した看護を振り返り、ケース・レポートをまとめる中で、自己の看護実践を客観的に評価することの意義と方法の理解を深め、エビデンスに基づく看護の提供と研究的態度を養う。自己の実践体験を他者と話し合うことで、看護観を深める。また、この過程を通して、自己の関わりについてのリフレクションを行い、それぞれの看護実践に潜む看護の価値や意味について見直し、その醍醐味と看護の奥深さを味わう。			
授業計画			
1	ケースレポートの意義と方法 リフレクションとは 発表すること、振り返りを他者と共有することの意義	講義 演習	
2			
3	-演習-		
4	各自の体験をグループでリフレクションする		
5			
6	見本事例を用いてケースレポートの方法を学習		
7			
8	テーマに関連した文献の検索		
9	入手した文献を読み、ケースレポートの目的と方法を検討する		
10			
11			
12	レポート計画書の作成		
13			
14	効果的なプレゼンテーションとは		
15	プレゼンテーションソフトの活用		
内容の諸要素			
垂直軸	情報交換のためのパソコンの活用、問題を見極め、データ文書として示す、情報発信の手段、看護研究の活用、研究成果の理解、研究成果の活用方法、研究成果の評価方法		
水平軸	論理的思考、論理的思考の意義、クリティカルシンキング、クリティカルシンキングの意義、多方面からの視点で物事を思考する姿勢、創造性をもつ、創造力、限られた資源から創意工夫する姿勢、さらに良くなる方法を考える姿勢、目的を果たすために交渉する姿勢、諦めない姿勢、妥協しない姿勢、リフレクション、素直に自己の傾向を振り返る姿勢、自己効力感、自分自身の能力を信じる、自ら地域へ情報発信することの価値づけ、北毛地域の看護の役割、北毛地域への健康ニーズへの貢献		
参考資料		評価方法	
		課題レポート 学習態度	

授業科目名		単位・授業時間	年次
看護研究Ⅲ (演習・発表)		2単位 40時間	3年次
学科目標			
研究成果に基づき自己の看護実践を客観的に評価し、その成果と課題を認める。実践への研究成果の活用を通して、看護学の価値を確信し、情報を発信すること、看護の発展に寄与することの意義を見出す。			
授業の概要			
<p>実践した看護を振り返り、ケース・レポートをまとめる中で、自己の看護実践を客観的に評価することの意義と方法の理解を深め、エビデンスに基づく看護の提供と研究的態度を養う。自己の実践体験を他者と話し合うことで、看護観を深める。また、この過程を通して、自己の関わりについてのリフレクションを行い、それぞれの看護実践に潜む看護の価値や意味について見直し、その醍醐味と看護の奥深さを味わう。</p> <p>他者への発表を行うことで、知識の共有や意見交換の意義を理解し、学会参加への意識を高める。</p> <p>－演習－ 自己の看護を振り返り、ケースレポートをまとめ、他者に発表する。</p>			
授業計画			
1	自分自身の実習体験をもとに、リフレクションを行い、その現象に意味づけを行い、自分が行った援助や患者・家族の反応を客観的に評価し、その体験をケースレポートにまとめる。		演習
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11	ケースレポートの発表と意見交換		演習
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
内容の諸要素			
垂直軸	情報交換のためのパソコンの活用、問題を見極め、データ文書として示す、情報発信の手段、看護研究の活用、研究成果の理解、研究成果の活用方法、研究成果の評価方法		
水平軸	論理的思考、論理的思考の意義、クリティカルシンキング、クリティカルシンキングの意義、多方面からの視点で物事を思考する姿勢、創造性をもつ、創造力、限られた資源から創意工夫する姿勢、さらに良くなる方法を考える姿勢、目的を果たすために交渉する姿勢、諦めない姿勢、妥協しない姿勢、リフレクション、素直に自己の傾向を振り返る姿勢、自己効力感、自分自身の能力を信じる、自ら地域へ情報発信することの価値づけ、北毛地域の看護の役割、北毛地域への健康ニーズへの貢献		
参考資料		評価方法	
		課題レポート 学習態度	

専門分野:看護の統合と実践

授業科目名	単位・授業時間	年次
資源の活用とチーム連携	1単位 34時間	3年次
学科目標		
地域から国際社会まで視野を広く持ち、さまざまな対象者の状況に応じた支援の提供に向けて、関連する人々との調整を行いながら資源を活用する看護のマネジメントを理解する。		
授業の概要		
<p>この授業においては、健康な人や在宅療養の人、入所者、海外で暮らす人など様々な状況にある人を対象に、資源の活用する方法を理解することに重点をおく。</p> <p>1. JICAや海外青年協力隊などのシステムについて学び、諸外国の医療および看護事情を理解し、国際保健医療の中での看護の役割を考える。国際的な広い視野から地域特性をふまえた現実的な視野に至るまで、他の地域との連携や協力、支援のあり方について考える。</p> <p>2. 資源を効果的・効率的・安全に活用して、理想とする看護ケアを提供するプロセスである看護のマネジメントを理解する。</p> <p>1)地域で暮らす人々の状況に合わせ資源がどのように活用できるか、どのように関係職種と連携をとるか 2)障害をもつ子どもを支える資源と教育の連携について知る</p>		
授業計画		
1	1. 国際的なシステムによる連携と協力	講義 演習
2	国際社会の現状と国際看護活動の課題	
3	国際看護活動の支援を必要とする対象	
4	JICAや海外青年協力隊などの国際看護活動を推進する人と機関	
5	国際看護 まとめ	演習
6	2. 地域の資源と関係職種との連携 地域包括支援センター	講義 演習
7	地域で生活する人々の健康レベルや健康課題に応じた地域包括ケアシステムの実践について学ぶ。地域で生活する人々に対する看護職のケアマネジメントの実践について知る。	
8	—演習— 事例演習	
9	さまざまな発達段階や健康レベルに応じた社会資源の活用方法を考える	
10	渋川地区在宅医療介護連携支援センターの活動	講義
11		
12	～内田病院の取り組み～	講義
13	高齢者だけではなく障害者も子ども、「地域といっしょに。」 高齢者・障害者(児)に対する理解を深め、誰もが生きがいをもって安心して暮らせる福祉のまちづくり、人権擁護、社会参加、地域連携と協働、公益の増進に寄与する取り組みについて	
14	群馬整肢療護園 障害児看護の実践	講義
15		
16	教育と医療の連携(二葉養護学校)	講義
17	地域に生きる障害児を支えるということ(福祉NPOさやけき)	
	単位認定試験	
内容の諸要素		
垂直軸	国連・ユニセフ・JICAの活動、保健医療の国際協力の仕組み、国際救助活動の現状、先進国における保健医療システム、在宅で療養する人を中心としたサポートシステム、がん性疼痛のある人が在宅療養で利用できるネットワーク、家族・対象のニーズに合わせた援助を行う調整者としての役割、患者・家族のニーズにあわせた活用資源、在宅で療養する際に活用できる資源、資源の有効な活用、活用できる社会資源、看護にかかわる活用可能な社会資源、活用可能な資源を調整することの意義、社会保険制度の活用、精神を病む人の社会的な受け入れの課題、調整的役割、コスト意識を持つ、医療の動向、有訴者の状況、受療状況、診療報酬の仕組み	
水平軸	ネットワークづくりへの積極的な参加、施設と地域の連携、他者と協力することへの価値づけ、協働する姿勢、チームで連携して問題解決していくことの価値づけ、関係する他職種の専門性を尊重する、地域保健医療福祉関係機関との連携・協働、困った時には他者に助けを求める	
参考資料		評価方法
使用テキスト: 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 地域・在宅の実践 系統看護学講座 看護関係法令		単位認定試験 課題レポート 学習態度

授業科目名		単位・授業時間	年次
災害時の健康支援		1単位 20時間(22)	1・3年次
学科目標			
特殊な状況下における人間の生活と健康に及ぼす影響を理解し、その状況にそった支援の方法を学ぶ。			
授業の概要			
<p>人間の歴史は災害と共に存在するのが常といわれ、近年でも世界の各地で大きな自然災害が発生している。また、人為的事故、紛争災害、感染症におけるパンデミックなども私たちの生活を脅かす大きな要因となっている。看護職は、このような災害発生時には、医療施設内だけでなく、現場や避難所、仮設住宅などでの災害看護を提供する役割がある。</p> <p>この授業においては、災害看護の基礎知識として、災害の定義と種類、災害救助法と関連法規、災害による疾病構造、災害サイクルに沿った看護の役割について学ぶ。災害サイクルからみた各期の対応として、急性期、亜急性期、慢性期～復興期から、静穏期を含めた支援に必要な基本的な知識・考え方を学習する。トリアージの意義と、原則、方法についても学ぶ。包帯法、骨折の固定、止血法、特殊な外傷の処置など災害時に役立つ応急処置や搬送・搬出についての学習と一部実技演習を行う。</p> <p>また、東日本大震災の災害支援や救助の例をもとに、災害援助に組織で取り組むことや、平日頃から災害時にむけて準備することの重要性について理解し、北毛地域で想定される災害とその対策について学び、近隣地域との協力や防災、支援のあり方について考える。</p> <p>－演習－ 災害時の応急処置、搬送の実技演習</p>			
授業計画			
1	救急時の援助技術 ～演習～(1年次)		講義 演習
2	一次救命 心肺蘇生法 意識レベルの確認 気道確保 心臓マッサージ 人工呼吸 AEDの使い方		
3	災害看護の基礎知識		講義 演習
4	災害の定義と種類	災害による疾病構造	
5	災害サイクルに沿った看護の役割	トリアージの意義と原則	
6	災害時の感染管理	災害支援の体験から学んだこと	
7	－演習－ 応急処置・搬送・搬出		
8	災害援助への組織的取り組み(渋川広域消防本部)		講義
9	災害援助への組織的取り組み(渋川市)		講義 演習
10			
11	北毛地域で想定される災害とその対策 (沼田警察署 谷川岳警備隊の活動)		講義
	単位認定試験 (1時間)		
内容の諸要素			
垂直軸	災害が人間生活に及ぼす影響、災害が人間の健康に及ぼす影響、日本の主な災害、日本の主な災害対策、避難訓練、災害時の避難経路、災害時の避難システム、災害への意識を高く持つ、担架の使い方、非常食の管理、災害サイクルに沿った心理的変化、災害サイクルに沿った健康面の問題、災害時の睡眠障害、災害時の食事の課題、災害時の排泄環境の課題 災害サイクルに沿った支援の方法、災害時の排泄処理方法、災害時の排泄環境の整え方、災害時の睡眠確保の援助方法、災害時の清潔保持の方法、災害時の衣生活の援助、災害時の生理時の処理、災害時の食事		
水平軸	対象者の健康保持増進、回復に向けて組織管理、多職種と関連する人々との調整を行いながら資源を活用する、他者との調和・協働、限られた資源からの創意工夫、目標に向かって努力する姿勢、多方面からの視点で物事を思考する姿勢、看護の果たす役割の大きさ、環境が及ぼす価値観の影響、コミュニティの中での役割		
	参考資料	評価方法	
使用テキスト： 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学		単位認定試験 学習態度	